

学際基礎科目・人文科学系	
哲学思想史 a	田中 敦
前期・2単位	<登録条件> 通年（a, b）の登録が望ましい
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>まずそもそも哲学という概念と営みが発生した時点での哲学の理解が重要で、他の類似した諸々の知的活動との違いにおいてその根本特徴の理解を持つことが目標となる。次に西洋の哲学思想にとって、ギリシア（ヘレニズム）とキリスト教（ヘブライズム）との密接で緊張した関係を理解することがきわめて重要である。これら二つの要点を中心とした古代・中世哲学の基本的問題の理解を目指す。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>ソクラテスを中心として哲学という概念の成立とソクラテス以前の「哲学」、ソクラテスの継承者としてのプラトン、アリストテレスの理解を根幹とする。それと共に、ギリシア哲学がどのようにキリスト教信仰の中に受け入れられ、変容して行ったかについて、近世哲学へのつながりを念頭に見ていく。</p>	
<p><履修条件></p> <p>特にありません。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 哲学とは何か。哲学の「始まり」。イオニアの自然哲学 2. ソクラテス以前の哲学者たち（1） 3. ソクラテス以前の哲学者たち（2） パルメニデスとヘラクレイトス 4. ソフィストたちとソクラテス 5. ソクラテスの影響。小ソクラテス学派 6. プラトン1.（生涯、存在論、イデア論） 7. プラトン2.（認識論、倫理学） 8. アリストテレス1.（生涯、プラトン批判） 9. アリストテレス2.（論理学、存在論、倫理学） 10. ストア哲学、エピクロス派、懐疑主義 11. ヘレニズムの哲学とフィロン 12. プロティノスと新プラトン主義 13. 教父の哲学とアウグスティヌス 14. スコラ哲学（アンセルムスとトマス・アクィナス） 15. 普遍論争（実念論と唯名論）、オッカム主義 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>予め配布する資料を読んでおくことが授業内容の理解を助けるので、少なくとも目を通して、理解の難しい点、疑問点などをチェックして出席して欲しい。</p>	
<p><テキスト></p> <p>事前に資料を配布し、その内容の理解を中心として講義を進めます。</p>	
<p><参考書></p> <p>原佑、井上忠、杖下隆英、坂部恵『西洋哲学史 {第三版}』東京大学出版会、1988年 波多野精一著、牧野紀之再話『西洋哲学史要』未知谷、2001年</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>レポートの評価を基にして、授業への積極的な参加態度と発言の評価を加える。 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

学際基礎科目・人文科学系	
哲学思想史 b	田中 敦
後期・2単位	<登録条件> 通年 (a, b) の登録が望ましい
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>様々な哲学説を学ぶことを通じて哲学一般の基礎的な理解を目指すとともに、現代という時代また現代思想の基盤・背景として西洋近世哲学の基本的全体的な特徴と課題の理解を目差す。特に神学、キリスト教思想との関連において哲学の歴史とその理解のもつ意味を考えることを目標にしたい。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>西洋の近世以後の哲学の諸学説について、特に経験論と合理論の基本的な違い、それぞれの正当な根拠、更にその両者を統合したカント哲学の理解を計る。それと共に、哲学の基本的な概念、例えば実体、属性、観念などの意味の正確な理解を期す。</p>	
<p><履修条件></p> <p>特にありません。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 哲学とはどういうものか。それは神学、信仰の理解にとってどのような意味を持ち得るか。近世ヨーロッパの哲学の概観とその特徴、現代の哲学の状況。 2. 過渡期の哲学としてのルネサンス哲学（プラトン主義の復興、アリストテレス哲学の復興、人文主義）。 3. 17世紀の哲学の二大潮流（英国経験論と大陸合理論）。フランシス・ベーコン。学問の革新と新しい認識の方法（イドラ批判と帰納法）。 4. デカルト 1.（生涯、方法の探究と懐疑、実体の意味）、体系と心身合一の困難。 5. デカルト 2.（精神と物体の二元論、心身合一の難問、情念と道德）。 6. パスカル（理性と心情、三つの秩序）と機会原因論（心身の関係について）。 7. スピノザ（感情の奴隷から自由な存在へ、神即自然の一元論、認識の三段階）。 8. ライプニッツ（実体の多元論、モノドと予定調和説、二つの原理と二種類の真理）。 9. イギリス経験論の流れとロック（心は白紙、実体の複雑観念、抽象一般観念）。 10. バークレー（抽象一般観念の否定、物体の存在は知覚されること）、ヒューム（因果関係の客観性の否定、二種類の関係と観念連合、知覚の束）。 11. カントの批判哲学（アプリアリな総合的判断、コペルニクスの転回、現象と物自体、二律背反、実践理性の優位、定言命法）。 12. ドイツ観念論の哲学、フィヒテ（知識学、事行）、シェリング（同一哲学、人間の自由）。 13. ヘーゲル（弁証法、精神現象学、理性の狡知、歴史哲学）。 14. ヘーゲル以後の哲学の展開、キェルケゴール（実存の三段階）とニーチェ（超人と永劫回帰、ニヒリズム）。 15. ニーチェ以後と現代の哲学の展開（新カント派、実証主義、プラグマティズム、分析哲学、現象学）。 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>予め配布する資料を読んでおくことが授業内容の理解を助けるので、少なくとも目を通して、理解の難しい点、疑問点などをチェックして出席して欲しい。</p>	
<p><テキスト></p> <p>事前に資料を配布し、その内容の理解を中心として講義を進めます。</p>	
<p><参考書></p> <p>原佑、井上忠、杖下隆英、坂部恵『西洋哲学史 {第三版}』東京大学出版会、1988年 岡崎文明、日下部吉信他著『西洋哲学史』昭和堂、1994年</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>レポートの評価を基にして、授業への積極的な参加態度と発言の評価を加える。 出席が 2/3 に満たない者は評価の対象としない。</p>	

学際基礎科目・人文科学系	
キリスト教と世界史 a	棟居 洋
前期・2単位	<登録条件>同科目 b と通年で登録すること。
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教が世界史の流れの中でどのような歴史・文化形成力を発揮し、どのような役割を果たしてきたかを学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> キリスト教の歴史を中世から近代初頭まで辿り、キリスト教が世界史の中でどのような歴史・文化形成力を発揮し、どのような役割を果たしてきたかを学ぶ。</p>	
<p><履修条件> 高校における世界史の履修が望ましい。未履修者には、独習を求める。学部1年次で履修すること。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間と時間、歴史とその解釈、キリスト教の歴史観について学ぶ。 2. 中世キリスト教世界とイスラム教世界(1) 教皇権と皇帝権の関係、修道院制度の展開を中心に学ぶ。 3. 中世キリスト教世界とイスラム教世界(1-2) 修道院改革、中世の文化について学ぶ。 4. 中世キリスト教世界とイスラム教世界(2) イスラム教世界の出現と発展、イスラム文化、そのキリスト教世界への影響について学ぶ。 5. 東西の出会い 十字軍とそのキリスト教世界への影響について学ぶ。 6. ルネサンスと宗教改革(1) ルネサンスについて学ぶ。 7. ルネサンスと宗教改革(2) ローマ・カトリック教会内の改革と先駆的宗教改革について学ぶ。 8. 宗教改革の世界史的意義(1) ルター、ツヴィングリ、再洗礼派の宗教改革について学ぶ。 9. 宗教改革の世界史的意義(2) カルヴァンの宗教改革について学ぶ。 10. 17世紀のヨーロッパ世界、宗教改革期と啓蒙主義時代間の宗派对立の動向について学ぶ。 11. キリスト教世界の拡張(1) 対抗宗教改革とローマ・カトリック教会の海外伝道について学ぶ。 12. キリスト教世界の拡張(2) イングランド・スコットランドの宗教改革、ピューリタニズムとプロテスタント諸教会の海外伝道について学ぶ。 13. 啓蒙主義とキリスト教(1) 自然科学の発達、啓蒙思想について学ぶ。 14. 啓蒙主義とキリスト教(2) 理神論、敬虔主義、自然科学とキリスト教の関係について学ぶ。 15. まとめ 	
<p><準備学習等の指示> 必ず復習をして授業に臨むこと。</p>	
<p><テキスト> 特定の教科書は使わない。必要な資料は授業時に配付する。</p>	
<p><参考書> 学年初めと授業時にその都度紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> レポートによって最終評価を行なう。出席回数が全授業回数の2/3に満たない者にはレポート提出資格を認めない。</p>	

学際基礎科目・人文科学系	
キリスト教と世界史 b	棟居 洋
後期・2単位	<登録条件>同科目 a と通年で登録すること。
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教が世界史の流れの中で、どのような歴史・文化形成力を発揮し、どのような役割を果たしたかを学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> キリスト教の歴史を近代から現代まで辿り、キリスト教が世界史の中で、どのような歴史・文化形成力を発揮し、どのような役割を果たしてきたかを学ぶ。</p>	
<p><履修条件> キリスト教と世界史 a を履修した者が、学部 1 年次で履修すること。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 民主主義とキリスト教(1) 民主主義の意味、民主主義の歴史的背景について学ぶ。 2. 民主主義とキリスト教(2) 民主主義の精神的基盤、民主主義の問題性について学ぶ。 3. 資本主義、社会主義とキリスト教(1) 興隆期の資本主義とキリスト教との関係について学ぶ。 4. 資本主義、社会主義とキリスト教(2) 産業革命から帝国主義段階の資本主義とキリスト教との関係について学ぶ。 5. 資本主義、社会主義とキリスト教(3) 社会主義の台頭について学ぶ。 6. 資本主義、社会主義とキリスト教(4) 社会主義とキリスト教との関係、キリスト教社会主義、宗教社会主義について学ぶ。 7. 現代思想とキリスト教(1) 現代思想のうち、実証主義、進化論、精神分析について学ぶ。 8. 現代思想とキリスト教(2) 現代思想のうち、実存主義、プラグマティズム、新ヒューマニズムについて学ぶ。 9. 現代思想とキリスト教(3) 近・現代のキリスト教の思想と運動のうち、シュライアマハーの思想、ドイツ観念論、自由主義神学、トレルチの思想などについて学ぶ。 10. 現代思想とキリスト教(4) 近・現代のキリスト教の思想と運動のうち、キルケゴールの思想、オクスフォード運動、バルト神学、テンブル、ニューバー、ボンヘッフアー、ティリッヒなどの思想を学ぶ。 11. キリスト教とこれからの世界(1) 現代世界の特質について学ぶ。 12. キリスト教とこれからの世界(2) 現代世界の諸問題について学ぶ。 13. キリスト教とこれからの世界(3) 教会の革新について学ぶ。 14. キリスト教とこれからの世界(4) これからの世界においてキリスト教の果たすべき役割について学ぶ。 15. まとめ 	
<p><準備学習等の指示> 必ず復習をして授業に臨むこと。</p>	
<p><テキスト> 特定の教科書は使わない。必要な資料は授業時に配布する。</p>	
<p><参考書> 学年初めと授業時にその都度紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> レポートによって最終評価を行なう。出席回数が全授業回数の 2/3 に満たない者にはレポート提出資格を認めない。</p>	

学際基礎科目・人文科学系、専門教育科目	
キリスト教と芸術 2 音楽史 a	渡辺 善忠
前期・2単位	<登録条件>条件ではありませんが、通年の履修をお勧め致します。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 聖書の言葉が音楽によって伝えられた歴史を辿りつつ、現代の教会における音楽の役割について考察することを目標とします。</p>	
<p><授業の概要> 「音楽史 a (前期)」では、ユダヤ教音楽から宗教改革時代前後までの音楽について、時代背景と聖書解釈の両面から論じつつ作品に親しみます。</p>	
<p><履修条件> 礼拝と音楽の関わりを大切に考える方、牧師の基礎的な教養として音楽に親しみたい方の履修を歓迎致します。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 キリスト教音楽史概説 (定義づけ、神学と音楽の関わり等)</p> <p>第2回 旧約聖書時代の音楽①</p> <p>第3回 旧約聖書時代の音楽②</p> <p>第4回 グレゴリオ聖歌とプロテスタント教会①</p> <p>第5回 グレゴリオ聖歌とプロテスタント教会②</p> <p>第6回 ミサ曲の成立と発展～音楽史的側面～①</p> <p>第7回 ミサ曲の成立と発展～礼拝様式との関わりについて～②</p> <p>第8回 オラトリオの成立と発展～音楽史的側面～①</p> <p>第9回 オラトリオの成立と発展～聖書朗読から音楽へ～②</p> <p>第10回 レクイエムの成立と発展</p> <p>第11回 宗教改革前の教会音楽</p> <p>第12回 宗教改革時代の教会音楽</p> <p>第13回 旧約時代から宗教改革時代の音楽と讃美歌①</p> <p>第14回 旧約時代から宗教改革時代の音楽と讃美歌②</p> <p>第15回 前期のまとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> 受講者の方々の理解に応じて参考文献の下調べや、講義内容の進度を調整致します。</p>	
<p><テキスト> 「礼拝における賛美の役割と課題」(渡辺善忠著) 第1回の講義で配布する予定です。</p>	
<p><参考書> 図書館に参考図書のコーナーを設ける予定です。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 出席状況と平常点に加えて、試験かレポートで評価致します。</p>	

学際基礎科目・人文科学系、専門教育科目	
キリスト教と芸術 2 音楽史 b	渡辺 善忠
後期・2 単位	<登録条件>条件ではありませんが、通年の履修をお勧め致します。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 聖書の言葉が音楽によって伝えられた歴史を辿りつつ、現代の教会における音楽の役割について考察することを目標とします。</p>	
<p><授業の概要> 「音楽史 b (後期)」では、宗教改革時代から現代までの音楽について、時代背景と聖書解釈の両面から論じつつ作品に親しみます。なお、後期はしめくりに讃美歌の選曲方法について具体的に学ぶ予定です。</p>	
<p><履修条件> 礼拝と音楽の関わりを大切に考える方、牧師の基礎的な教養として音楽に親しみたい方の履修を歓迎致します。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第 1 回 キリスト教音楽史概説 (定義づけ、神学との関わり等)</p> <p>第 2 回 J. S. バッハ①</p> <p>第 3 回 J. S. バッハ②</p> <p>第 4 回 G. F. ヘンデル</p> <p>第 5 回 A. モーツァルト</p> <p>第 6 回 F. シューベルト</p> <p>第 8 回 L. V. ベートーヴェン</p> <p>第 9 回 F. メンデルスゾーン</p> <p>第 10 回 J. ブラームス</p> <p>第 11 回 後期ロマン派のキリスト教音楽</p> <p>第 12 回 現代のキリスト教音楽</p> <p>第 13 回 讃美歌の選曲方法①～礼拝における讃美歌の役割～</p> <p>第 14 回 讃美歌の選曲方法②～讃美歌選曲の実践～</p> <p>第 15 回 後期のまとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> 受講者の方々の理解に応じて参考文献の下調べや、講義内容の進度を調整致します。</p>	
<p><テキスト> 「礼拝における賛美の役割と課題」(渡辺善忠著) 第 1 回の講義で配布する予定です。</p>	
<p><参考書> 図書館に参考図書のコナーを設ける予定です。</p>	
<p><学生に対する評価 (方法・基準) > 出席状況と平常点に加えて、試験かレポートで評価致します。</p>	

学際基礎科目・社会科学系	
社会史 a	江川 由布子
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 政治・経済・宗教・思想・人々のメンタリティー等の諸要素を含んだ広義の「社会史」の視点から、ヨーロッパ中世史を通して、歴史的なものの見方について学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 欧州連合（EU）によるヨーロッパ統合と拡大が国際社会で大きな注目を集めている今、「ヨーロッパとは何か」という世界史の問いが改めて提起されている。講義では、こうした今日の問題を視野におさめながら、ヨーロッパ世界の形成期として位置づけられている中世という時代を考察する。</p>	
<p><履修条件> 特に条件はない。 歴史ないし歴史学に積極的な関心をもって授業に参加してほしい。</p>	
<p><授業計画> 第1回：社会史の視点について 第2回：「ヨーロッパ」とは何か 第3回：歴史理解における「中世」像の変遷 第4回：古代から中世へ①－ローマ帝国の解体と西ヨーロッパにおけるゲルマン部族国家の成立 第5回：古代から中世へ②－東ヨーロッパにおけるギリシア・東方正教世界と西ヨーロッパにおけるラテン・カトリック世界の形成 第6回：古代から中世へ③－東ヨーロッパにおけるビザンツ帝国の発展と西ヨーロッパにおけるフランク王国の台頭 第7回：古代から中世へ④－イスラム勢力の拡大による古代地中海世界解体過程の完了 第8回：古代から中世へ⑤－カロリング帝国の誕生～政治的・宗教的・文化的枠組としての西ヨーロッパ中世世界の成立 第9回：カロリング帝国の解体とヨーロッパ諸国家の形成 第10回：封建社会の成立 第11回：十字軍運動と「ヨーロッパ」の自己意識①－運動の諸要因 第12回：十字軍運動と「ヨーロッパ」の自己意識②－運動の思想的側面と人々のメンタリティー 第13回：人々の共同生活と社会的紐帯のあり方①－中世社会の共同体的側面について 第14回：人々の共同生活と社会的紐帯のあり方②－共同体的紐帯の諸形態 第15回：授業のまとめ</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> 特定の教科書は使わない。必要な資料は授業時に配布する。</p>	
<p><参考書> 授業時に紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 期末試験に授業への参加状況等を加味して総合的に評価する。 正当な理由なく欠席が全授業回数の3分の1を超えた場合、成績評価の対象としない。</p>	

学際基礎科目・社会科学系	
社会史 b	江川 由布子
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>政治・経済・宗教・思想・人々のメンタリティー等の諸要素を含んだ広義の「社会史」の視点から、ヨーロッパ近世史を通して、歴史的なものの見方について学ぶ。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>ヨーロッパの中世と近世を時代的に区分する指標として位置づけられているルネサンスは、ヨーロッパ近代世界の成立基盤として特にその進歩的意義が評価されてきた。講義では、こうした従来のルネサンス論を見直しながら、この文化運動の諸側面とその歴史的意義を考察する。</p>	
<p><履修条件></p> <p>特に条件はない。</p> <p>歴史ないし歴史学に積極的な関心をもって授業に参加してほしい。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：社会史の視点について</p> <p>第2回：ルネサンス論の変遷①－ルネサンス概念の形成</p> <p>第3回：ルネサンス論の変遷②－「近代の出発点」としてのルネサンス解釈への批判と新たなルネサンス像の構築</p> <p>第4回：中世末期「危機の時代」とルネサンスの始まり①－ルネサンス人文主義の先駆者ペトラルカを通して</p> <p>第5回：中世末期「危機の時代」とルネサンスの始まり②－ルネサンスの始まりの時代的背景</p> <p>第6回：ルネサンスの舞台－イタリアと地中海世界の変容</p> <p>第7回：ルネサンスにおける人間観と世界観の転換①－ルネサンスにおける「個人」の発展とは</p> <p>第8回：ルネサンスにおける人間観と世界観の転換②－「自然」の捉え方にみるルネサンスの世界観</p> <p>第9回：ルネサンスにおける人間観と世界観の転換③－新プラトン主義的・ヘルメス的世界観の発展</p> <p>第10回：ルネサンスにおける「魔術」と「科学」</p> <p>第11回：ルネサンスと宗教改革①－宗教改革の発端にみる両者の対立</p> <p>第12回：ルネサンスと宗教改革②－ルネサンス人文主義と宗教改革運動との関連</p> <p>第13回：ルネサンスと大航海</p> <p>第14回：ルネサンスの終焉</p> <p>第15回：授業のまとめ</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト></p> <p>特定の教科書は使わない。必要な資料は授業時に配布する。</p>	
<p><参考書></p> <p>授業時に紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>期末試験に授業への参加状況等を加味して総合的に評価する。</p> <p>正当な理由なく欠席が全授業回数の3分の1を超えた場合、成績評価の対象としない。</p>	

学際基礎科目・社会科学系	
法と人権 1 法学概論	佐々木 高雄
前期・2単位	<登録条件>特になし
<p><授業の到達目標及びテーマ>法律や『六法全書』への嫌悪感を払拭し、「まずは、自分で考えてみよう」との意欲を懐き、論理的な思考に馴染めることを目的とする。</p>	
<p><授業の概要>「人が定めた規則を、なぜ『法律』として評価し、従わなければならないのか」との問題を考えたい。市民生活に必要な法律上の知識を——ほんの一部にとどまるが——修得しながら、その背後に潜む原理を探りたい。</p>	
<p><履修条件>特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 法と法律の異同／正義の女神が持つ「秤と剣」の意味／ノートの取り方 2. 法律解釈の方法／「可能な解釈」と「探るべき解釈」／本の読み方 3. 出生にかかわる法律（権利能力／自然人と法人）／レポートの作り方 4. 基礎的事項（一般法と特別法／年齢の数え方と期間計算法／条件と期限） 5. 未成年者に対する保護法制（行為能力① 未成年者でも出来ること） 6. 老人に対する保護法制（行為能力② 成年後見制度） 7. 婚姻にかかわる法律 8. 離婚にかかわる法律 9. 遺産相続にかかわる法律 10. 財産（物権）にかかわる法律①（物権と債権の異同／物権にかかわる原則） 11. 財産（物権）にかかわる法律②（所有権の特質／相隣関係） 12. 財産（物権）にかかわる法律③（所有権の取得） 13. 財産（債権）にかかわる法律①（身分から契約へ／契約にかかわる原則） 14. 財産（債権）にかかわる法律②（債権の保全と担保） 15. 犯罪と刑罰について／まとめ 	
<p><準備学習等の指示>授業には『六法全書』を携行すること。各種の『六法』の特徴については、最初の授業で説明する予定なので、購入するならば、その後にするのが賢明であろう。なお、各自の授業への関わりは、復習中心に願いたい。</p>	
<p><テキスト>特に指定せず、ノート中心の授業になる。受講上、必要な資料・教材は、コピーして配布する。</p>	
<p><参考書>一般的なものは不要。各授業に関連して「読むべき文献」は、その都度、紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）>レポートの提出を求め、それによって評価する。無届けの欠席が1／3を超える者は、評価の対象としない。</p>	

学際基礎科目・社会科学系	
法と人権2 日本国憲法	佐々木 高雄
後期・2単位	<登録条件>特になし
<p><授業の到達目標及びテーマ>各自が囚われず、憲法問題の本質を、実証的な知識に基づいて、自分の頭で検討できるようにすることを目的とする。</p>	
<p><授業の概要>制憲史的手法を活用し、できるかぎり客観的な事実を確認しながら、憲法という規範の解釈に努め、人権問題を中心に、「憲法に盛り込まれた理念」と「現実の姿」とを、対比して検討する。</p>	
<p><履修条件>特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 憲法とは何か？ 2. 明治憲法の制定／明治憲法の特徴 3. 日本国憲法の制定①（ポツダム宣言からマッカーサー・ノートまで＝新憲法の基盤・背景） 4. 日本国憲法の制定②（マッカーサー草案＝民主化のための諸項目） 5. 日本国憲法の制定③（日本側の作業＝古い価値観／議会における審議手続） 6. 制定された憲法の特徴／国民主権（象徴天皇制との関わりのもとに） 7. 平和主義①（「第九条」の解釈／前文・第2段） 8. 平和主義②（「第九条」をめぐる裁判例／平和的生存権） 9. 人権尊重主義／人権に関わる一般原則 10. 平等権（信条による差別＝憲法の私人間効力性差別／尊属殺重罰規定／議員定数不均衡問題） 11. 宗教の自由（信教の自由／政教分離原則） 12. 表現の自由（知らせる自由／知る自由／知られたくない自由） 13. 経済的自由権 14. 身体的自由権（法定手続の保障／令状主義）／他の人権（社会権など） 15. 統治機構／まとめ 	
<p><準備学習等の指示>授業には『六法全書』を携行すること。各種の『六法』の特徴については、最初の授業で説明する予定なので、購入するならば、その後にするのが賢明であろう。なお、各自の授業への関わりは、復習中心に願いたい。</p>	
<p><テキスト>特に指定せず、ノート中心の授業になる。受講上、必要な資料・教材は、コピーして配布する。</p>	
<p><参考書>一般的なものは不要。各授業に関連して「読むべき文献」は、その都度、紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）>レポートの提出を求め、それによって評価する。無届けの欠席が1／3を超える者は、評価の対象としない。</p>	

学際基礎科目・自然科学系	
現代の自然観 a	松原 郁哉
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 天体の運動を地上の物体の運動と同様に説明したりした古典物理学によって、人類の世界観がどのように変わったかを理解する。</p>	
<p><授業の概要> 科学的なものの見方を理解するために、ニュートンの力学と熱学の基礎を学ぶ。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 力と運動(1)：速度と加速度 2. 力と運動(2)：慣性の法則 3. 力と運動(3)：運動の法則 4. 力と運動(4)：作用・反作用の法則 5. 力と運動(5)：落下運動と放物運動 6. 力と運動(6)：運動量と力積 7. 力と運動(7)：運動エネルギーと仕事 8. 力と運動(8)：円運動と単振動 9. 力と運動(9)：万有引力 10. 熱とエネルギー(1)：温度と熱膨張 11. 熱とエネルギー(2)：比熱と熱容量 12. 熱とエネルギー(3)：仕事と熱 13. エントロピー(1)：可逆過程と不可逆過程 14. エントロピー(2)：エントロピー増大則 15. 力学と熱学のまとめ 	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> プリントを担当者が準備する。</p>	
<p><参考書> 授業の中で紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 各授業の最後を書くレポートと期末に行う筆記試験で評価する。 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

学際基礎科目・自然科学系	
現代の自然観 b	松原 郁哉
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 相対論や量子力学などの現代物理学によって自然観がどのように変化したかを理解する。</p>	
<p><授業の概要> 現代物理学が時間・空間および物質の存在形式をどのように捉えているかを知るために、電磁気、波動、相対論および量子論の基礎を学ぶ。</p>	
<履修条件>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 電気と磁気(1)：静電気 2. 電気と磁気(2)：電流 3. 電気と磁気(3)：磁界 4. 電気と磁気(4)：磁界中の電流に働く力 5. 電気と磁気(5)：電磁誘導 6. 波動(1)：波の種類と特性 7. 波動(2)：ドップラー効果 8. 波動(3)：波の重ね合わせ 9. 波動(4)：干渉・回折 10. 波動(5)：音と音波 11. 相対論(1)：ガリレオの相対性原理と光速度 12. 相対論(2)：アインシュタインの特殊相対性理論 13. 量子論(1)：光の粒子性と電子の波動性 14. 量子論(2)：シュレディンガー方程式 15. 電磁気、波動、相対論および量子論のまとめ 	
<準備学習等の指示>	
<p><テキスト> プリントを担当者が準備する。</p>	
<p><参考書> 授業の中で紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 各授業の最後を書くレポートと期末に行う筆記試験で評価する。 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

学際基礎科目・情報科学系	
情報基礎	石部 公男
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 「情報社会」にあつて、主にコンピュタリテラシーに重きを置きながら、情報そのものの本質とコンピュータの基本的仕組みを理解させる。さらにワード、エクセル、パワーポイントなどのアプリケーションソフトの使用方法を実習を中心としながら、その利用技術の基礎を習得する。</p>	
<p><授業の概要> 実習に重きを置きながら、基本的アプリケーションの利用技術を習得し、さらにインターネットの仕組みと、関連領域の知識についての講義。</p>	
<p><履修条件> 特に制限はない。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報とは何か。資料（データ）と情報（インフォメーション） 2. コンピュータの歴史とインターネット 3. パソコンの概要とオペレーティング・システム 4. アプリケーションソフト（ワード・・・1） 5. アプリケーションソフト（ワード・・・2） 6. アプリケーションソフト（ペイントの利用） 7. アプリケーションソフト（エクセル・・・1） 8. アプリケーションソフト（エクセル・・・2） 9. アプリケーションソフト（エクセル・・・3） 10. アプリケーションソフト（パワーポイント・・・1） 11. アプリケーションソフト（パワーポイント・・・2） 12. アプリケーションソフト（パワーポイント・・・3） 13. コンピュータ・言語と HTML 14. HTML とホームページ・・・1 15. HTML とホームページ・・・2 	
<p><準備学習等の指示> できるだけタイピングの練習をしておくが良い。</p>	
<p><テキスト> 特に指定はしないが、ヴェリタス書房の「情報リテラシー概論」石部公男 他著を読んでおくことを薦める。</p>	
<p><参考書> 「インターネット時代のプログラミング」ヴェリタス書房 石部公男・森秀樹監修</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 平常点（50%）、提出物（50%）の合計 100%で評価。</p>	

神学基礎科目	
キリスト教通論Ⅰ	近藤 勝彦
前期・2単位	<登録条件>学部一年生は必修
<p><授業の到達目標及びテーマ> 神学の前提となる教会的生の基本を学び、そこから神学へと架橋する道を学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 神学の「生の座」(Sitz im Leben)として教会、礼拝、伝道、信仰告白などを学ぶ。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第一回：キリスト教通論の役目 第二回：神学と教会生活、三要文について 第三回：『教会生活の要点』1の(1)「教会生活の鍵」 第四回：『教会生活の要点』1の(2)「伝道的教会と伝道的信仰」 第五回：『教会生活の要点』2の(1)「洗礼」 第六回：『教会生活の要点』2の(2)「聖餐」 第七回：補充、質疑など 第八回：中間の総括 第九回：『教会生活の要点』3の(1)「信仰告白と信仰生活」 第十回：『教会生活の要点』3の(2)「信仰告白と教会形成」 第十一回：補充、質疑など 第十二回：『教会生活の要点』4の(1)「祈りの意味」 第十三回：『教会生活の要点』4の(2)「讃美歌の意味」 第十四回：『教会生活の要点』4の(3)「献金の意味」 第十五回：総括</p>	
<p><準備学習等の指示> テキストを読んで参加すること</p>	
<p><テキスト> 近藤勝彦『教会生活の要点』(第二版、東神大パンフレット38、2010年)(学生各自で購入する)</p>	
<p><参考書> 近藤勝彦『福音主義自由教会の道』(教文館、2009年)</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 出席と参加の状況、発表、小試験を総合して評価する。</p>	

神学基礎科目	
キリスト教通論Ⅱ	芳賀 力
後期・2単位	<登録条件> 学部一年の学生が対象。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 神学をするとはどういうことかを、基本的な神学主題に即して身につける。</p>	
<p><授業の概要> A.マクグラス『神学によるこび』のテキストを用いて、使徒信条の主要項目を順番に組織神学的に考察していく。最後は神学序説として啓示の問題を扱う。</p>	
<p><履修条件> 原則としてキリスト教通論Ⅰを履修していること。</p>	
<p><授業計画> 第1回：授業の目的、テキストの特色、授業の進め方についてオリエンテーションを行う。 第2回：神学序説の課題について考察する。 第3回：信仰の本質について考察する。 第4回：神について、今日キリスト教神学において何が言われるべきかを考察する。 第5回：創造について、聖書的な語りの特徴を考察する。 第6回：イエスについて、特にキリスト論成立に関わる諸問題を考察する。 第7回：救いについて、聖書的語りの特徴と教会史的な展開を顧みる。 第8回：三位一体の教理の成立について考える。聖霊論をここで扱う。 第9回：教会について、なぜそれがキリスト教にとって不可欠であるのかを考察する。 第10回：神の国について、歴史の終末を個人的な生の終末の問題を考察する。 第11回：神の言葉としての啓示について考察する。 第12回：神の言葉としての聖書について考察する。 第13回：神の言葉としての宣教について考察する。 第14回：信条、教理、神学のあり方について考察する。 第15回：どこまで授業の目的が達成されたかを検討し、総括を行う。</p>	
<p><準備学習等の指示> あらかじめ指定されたテキストの箇所を読んできて、授業の中で積極的に発言してもらう。</p>	
<p><テキスト> A.マクグラス『神学によるこび』キリスト新聞社、2005年。授業の最初に担当者が配布する。</p>	
<p><参考書> 芳賀力『神学の小径Ⅰ』キリスト新聞社、2008年。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業で扱った主題の中から一つを選んで内容を掘り下げ、レポートを作成し、提出してもらう。</p>	

神学基礎科目	
聖書通論 1 旧約通論	大住 雄一
前期・2単位	<登録条件>
<授業の到達目標及びテーマ> 「聖書の基礎知識」あるいは「聖書入門」の旧約篇である。	
<授業の概要> 旧約聖書のどこに何がどのように書いてあるかを概観し、またテキスト間の関連を把握する。同時に、聖書を学問的に読むとはどのようなことかを考え、その作業の出発点としたい。	
<履修条件>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「聖書とは何か、聖書を学問的に読むとはどういうことか」： わたしにとって、教会にとって旧約聖書とは何か、世の中の人々は旧約聖書を何だと思っているかを話し合う。そのうえで、聖書を学問的に読むとはどういうことか、検証可能性とは何かということを考える。 2. 「旧約聖書の形」： ユダヤ教正典と旧約聖書、新約聖書と旧約聖書、旧約聖書の区分を確認する。 3. モーセ五書 創世記：創世記の内容を概観する。よく知られた箇所を読む。 4. モーセ五書 出エジプト記～民数記：重要箇所とその関連箇所を探し出し、意味を考える。 5. モーセ五書 シナイ山と法：なぜモーセ五書は「律法」と呼ばれるのかを考える。 6. モーセ五書と預言者：申命記と申命記の歴史を概観し、五書の結びが申命記であることの意味、そしてモーセが預言者とされていることの意味を見出だす。 7. 申命記的歴史と歴代誌的歴史：歴史とは、別の視点から異なった歴史を描きうるものだということを知り、聖書のなかにある歴史の「異読」を比較する。 8. 諸文学 知恵文学：ヨブ記、箴言、コヘレト（伝道の手紙）の思想を解説する。 9. 諸文学 知恵と律法：知恵文学の中にある法の讚美について考える。 10. 諸文学 詩と詩編：詩の読み方を概説する。 11. 預言書 歴史書の預言者と預言書の預言者、十二小預言書：ユダヤ教正典第二部を概観する。 12. 預言書 イザヤ書：イザヤ書の形とその背後にある歴史を解説する。 13. 預言書 エレミヤとエゼキエル：王国末期から捕囚期にかけての預言者を知る。 14. 黙示文学：旧約聖書の中に散在する黙示文学的なテキストを見いだす。 15. まとめと知識の再確認 	
<準備学習等の指示> 旧約聖書を自分で通読すること。また、授業で指摘された重要箇所を暗誦すること。	
<テキスト> 聖書（自分の教会で用いられているもの）	
<参考書>	
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度と、期末の小レポートによって評価する。理由なく授業を三分の一以上欠席した者は、レポートを提出することができない。	

神学基礎科目	
聖書通論 2 旧約時代史	小友 聡
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約時代史を概観し、旧約聖書の信仰の特質を明らかにする。</p>	
<p><授業の概要> カナン定着以前からローマ時代に至る旧約の時代史を辿る。テキストを用い、学生に毎回発表していただく。</p>	
<p><履修条件> 学部1年に履修すること。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. カナン定着以前の時代 3. カナン定着時代 4. 統一王国時代（サウルとダビデ） 5. 統一王国時代（ソロモンと王国分裂） 6. 北王国の歴史（イエフ王朝まで） 7. 北王国の歴史（アモスとホセア） 8. 南王国の歴史 9. バビロン捕囚時代 10. ペルシャ時代 11. ヘレニズム時代 12. ローマ時代 13. 旧約聖書成立後のユダヤ教の歴史 14. 読書レポート作成 15. まとめ 	
<p><準備学習等の指示> 授業と並行して自分で旧約聖書を全部通読すること。</p>	
<p><テキスト> 樋口進『よくわかる旧約聖書の歴史』、日本基督教団出版局、1800円。各自用意すること。</p>	
<p><参考書> 山我哲雄『聖書時代史・旧約編』（岩波現代文庫）、2003年も併用する。そのほかは授業中に指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 発表と筆記試験で評価するが、欠席が3分の1を超えた場合は試験を受けられない。</p>	

神学基礎科目	
聖書通論3 新約通論・歴史	中野 実
前期・2単位	<登録条件>学部一年生中心のクラス
<p><授業の到達目標及びテーマ>新約聖書の内容に精通してもらうためのクラス。近い将来、新約聖書神学を深く学んでいくために不可欠な知識、センスを身につけてもらいたい。</p>	
<p><授業の概要>学生全員が参加しながら、新約聖書の各文書の内容（神について、キリストについて、教会について）を学んでいく。</p>	
<p><履修条件>特になし。</p>	
<p><授業計画>学生は毎回クラスのために予習してくることが求められる。まずその日にクラスで扱う新約聖書の文書を前もって精読し、つぎにその文書（の著者）が①神について、②キリストについて、③教会について。どんなことを語っているかをまとめる。それらをクラスに持ち寄り、発表しながら、ともに内容に親しんでいく。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① クラスのオリエンテーション ② マタイ、マルコ ③ ルカ、使徒言行録 ④ ヨハネ福音書 ⑤ ローマ、ガラテヤ ⑥ 第一コリント、第二コリント ⑦ エフェソ、コロサイ ⑧ フィリピ、第一テサロニケ、第二テサロニケ ⑨ 第一テモテ、第二テモテ、テトス ⑩ フィレモン、ヘブライ ⑪ ヤコブ、第一ペトロ ⑫ 第二ペトロ、ユダ ⑬ 第一ヨハネ、第二ヨハネ、第三ヨハネ ⑭ ヨハネ黙示録 ⑮ まとめ 	
<p><準備学習等の指示>日頃から聖書を読む習慣を身につける。</p>	
<p><テキスト>旧・新約聖書。旧約も必ず持参する事。</p>	
<p><参考書>必要があれば、クラスで指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）>出席と参加を重視。出席が3分の2に達しない場合は、原則として評価の対象にしない。参加度、貢献度、努力などによって総合的に評価する。</p>	

神学基礎科目	
神学通論 a	神代 真砂実
前期・2単位	<登録条件> 神学通論 b と通年で履修（登録）すること
<授業の到達目標及びテーマ> 神学入門として、神学とはどのような学問であるか、どのような思考を求められているのかを理解する	
<授業の概要> 今年度は特に神学的思考（「理解を求める信仰」としての）を解明・理解する	
<履修条件> 学部 2 年生以上であること	
<授業計画> 第 1 回 序論 第一部 信仰の復権 第 2 回 1. 体面を重んじる信仰 その一（神学の危機） 第 3 回 1. 体面を重んじる信仰 その二（神学の基盤） 第 4 回 2. 確かさの探究 その一（常識の崩壊） 第 5 回 2. 確かさの探究 その二（懐疑） 第 6 回 2. 確かさの探究 その三（観察者であることの問題） 第 7 回 2. 確かさの探究 その四（精神） 第 8 回 3. どこに立つか その一（科学的であること） 第 9 回 3. どこに立つか その二（懐疑主義の問題） 第 10 回 3. どこに立つか その三（特殊性） 第二部 神学における信仰 第 11 回 4. 公的神学と私的神学 その一（公的側面） 第 12 回 4. 公的神学と私的神学 その二（私的側面） 第 13 回 5. 公的真理の探究 その一（神学の対象） 第 14 回 5. 公的真理の探究 その二（神学の課題と責任） 第 15 回 まとめ	
<準備学習等の指示> ノートをきちんととること。	
<テキスト> 特になし	
<参考書> 必要に応じて、授業中に紹介する	
<学生に対する評価（方法・基準）> 三分の二以上の出席を前提として、学期中の小課題および期末のレポートの総合による。	

神学基礎科目	
神学通論 b	神代 真砂実
後期・2単位	<登録条件> 神学通論 a と通年で履修（登録）すること
<授業の到達目標及びテーマ> (前期と同じ)	
<授業の概要> (前期と同じ)	
<履修条件> (前期と同じ)	
<授業計画> 第三部 聖書 第1回 6. テキスト・権威・意味 その一 (窓としてのテキスト) 第2回 6. テキスト・権威・意味 その二 (意味の問題) 第3回 7. 聖書と共同体 その一 (聖書の難しさ) 第4回 7. 聖書と共同体 その二 (物語と説教) 第5回 7. 聖書と共同体 その三 (信じることを目指して) 第四部 伝統の変革 第6回 8. 過去と将来との間で その一 (伝統への批判) 第7回 8. 過去と将来との間で その二 (伝統と変化) 第8回 9. 伝達と翻訳 その一 (解釈・翻訳) 第9回 9. 伝達と翻訳 その二 (一貫性の問題) 第10回 10. 総合と改革 その一 (福音の有意味化) 第11回 10. 総合と改革 その二 (不純物の意義) 第12回 11. 冒険 その一 (アイデンティティーの問題) 第13回 11. 冒険 その二 (危機と回心) 第14回 (補説) 東京神学大学のカリキュラムの構成について 第15回 後期および一年間の学びのまとめ	
<準備学習等の指示> (前期と同じ)	
<テキスト> 特になし	
<参考書> 必要に応じて、授業中に紹介する。	
<学生に対する評価(方法・基準)> 三分の二以上の出席を前提として、学期中の小課題および期末のレポートの総合による。	

外国語科目・英語	
英語 I A a	神代 真砂実
前期・1単位	<登録条件>学部1年生は必修
<p><授業の到達目標及びテーマ> 基礎的英語力の向上。</p>	
<p><授業の概要> 基礎的な文法の知識を習得するためにプリントを用いながら学んでいく。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画> 第1回 to不定詞 第2回 toなし不定詞 第3回 分詞 第4回 動名詞 第5回 動名詞と不定詞 第6回 時制 第7回 未来時の表現 第8回 進行形 第9回 完了形 第10回 態 第11回 仮定法（基礎） 第12回 仮定法（条件文その他） 第13回 比較 第14回 否定 第15回 名詞</p>	
<p><準備学習等の指示> 復習をしっかりとやること。</p>	
<p><テキスト> 担当者の配布するプリント。</p>	
<p><参考書> 授業において、必要に応じて指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 三分の二以上の出席を前提として、毎回の小テストによる。</p>	

外国語科目・英語	
英語 I A b	神代 真砂実
後期・1単位	<登録条件>学部1年生は必修
<p><授業の到達目標及びテーマ> 前期と同じ。</p>	
<p><授業の概要> 前期と同じ。</p>	
<p><履修条件> 特になし。</p>	
<p><授業計画> 第1回 代名詞（基礎） 第2回 代名詞（形式主語、慣用表現など） 第3回 形容詞 第4回 冠詞 第5回 数量詞 第6回 副詞 第7回 動詞 第8回 法助動詞（will, shall, would, should） 第9回 法助動詞（can, may, must その他） 第10回 場所の前置詞 第11回 時間の前置詞 第12回 その他の前置詞 第13回 接続詞 第14回 関係代名詞 第15回 関係副詞</p>	
<p><準備学習等の指示> 前期と同じ。</p>	
<p><テキスト> 前期と同じ。</p>	
<p><参考書> 授業において、必要に応じて指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 三分の二以上の出席を前提として、毎回の小テストによる。</p>	

外国語科目・英語	
英語 I B a	関川 泰寛
前期・1単位	<登録条件> 特になし
<p><授業の到達目標及びテーマ> 基礎英文法の全項目を復習しつつ、辞書を引きながら、神学書の内容を把握できるレベルまで修練を積むことを目標とする。</p>	
<p><授業の概要> 英語の基礎的な文法を確認しながら、入門的な神学書を読んで、英語の読解力を身につける。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 文の構成、品詞、句と節文法事項の整理と読解 テキスト読解① 2 主要文型 テキスト読解② 3 名詞と冠詞 テキスト読解③ 4 人称代名詞と指示代名詞 テキスト読解④ 5 形容詞と副詞 テキスト読解⑤ 6 比較 テキスト読解⑥ 7 動詞 小テスト 8 助動詞 テキスト読解⑦ 9 不定詞と分詞、動名詞 テキスト読解⑧ 10 受動態 テキスト読解⑨ 11 命令法と仮定法 テキスト読解⑩ 12 文法関連のまとめテスト 13 テキストから2章 The Accidental Revolutionary p.37~38 14 テキストから2章 The Accidental Revolutionary, p.39~40 15 総括 	
<p><準備学習等の指示> 各自英文法の総復習をしておくこと。</p>	
<p><テキスト> Alister McGrath, Christianity's Dangerous Idea, SPCK テキストは、こちらで用意する。</p>	
<p><参考書> 特に挙げないが、文法に関する資料は、講義の中でその都度配布する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 全講義の出席を前提として、クラスでの貢献度、テスト、小テストで総合的に評価する。</p>	

外国語科目・英語	
英語 I B b	関川 泰寛
後期・1単位	<登録条件> 特になし
<p><授業の到達目標及びテーマ> 基礎英文法の全項目を復習しつつ、辞書を引きながら、神学書の内容を把握できるレベルまで修練を積むことを目標とする。</p>	
<p><授業の概要> 英語の基礎的な文法を確認しながら、入門的な神学書を読んで、英語の読解力を身につける。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 テキストから2章 The Accidental Revolutionary p.41~42 2 テキスト 43~44 頁 3 単語と翻訳確認と小テスト 4 テキスト 45~46 頁 5 テキスト 47~48 頁 6 単語と翻訳確認、総復習 7 テキスト 49~50 頁 8 テキスト 51~52 頁 9 単語と翻訳確認、小テスト 10 テキスト 53~54 頁 11 テキスト 55~56 頁 12 テキスト 57~58 頁 内容要旨を把握する 13 単語と翻訳確認、小テスト 14 テキスト 59 頁 内容要旨を把握する 15 総括 	
<p><準備学習等の指示> 各自英文法の総復習をしておくこと。</p>	
<p><テキスト> Alister McGrath, Christianity's Dangerous Idea, テキストはこちらで用意する。</p>	
<p><参考書> 特に挙げないが、文法に関する資料は、講義の中でその都度配布する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 全講義の出席を前提として、クラスでの貢献度、テスト、小テストで総合的に評価する。</p>	

外国語科目・ドイツ語	
ドイツ語 I A a (1,2) (初級)	棟居 洋
前期・2単位	<登録条件>ドイツ語 I Abと通年で登録すること。
<p><授業の到達目標及びテーマ> ドイツ語文法の基礎的学習に基づき、簡単なドイツ語の文章を読めるようになること。</p>	
<p><授業の概要> ドイツ語文法の基礎的学習に基づき、簡単なドイツ語の文章を読み、ドイツの文化、風土、社会の問題について理解を深める。</p>	
<p><履修条件> 学部 1、2 年次で履修すること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第 1 回 ABC、発音、日常の挨拶 1 第 2 回 ABC、発音、日常の挨拶 2 第 3 回 動詞の現在人称変化、ドイツの食事 1 第 4 回 動詞の現在人称変化、ドイツの食事 2 第 5 回 名詞の性、格、複数形、冠詞の変化 1 第 6 回 名詞の性、格、複数形、冠詞の変化 2 第 7 回 定冠詞類、不定冠詞類、人称代名詞、ドイツ人の時間感覚 1 第 8 回 定冠詞類、不定冠詞類、人称代名詞、ドイツ人の時間感覚 2 第 9 回 前置詞の格支配、前置詞と定冠詞の融合形、動詞の命令形 1 第 10 回 前置詞の格支配、前置詞と定冠詞の融合形、動詞の命令形 2 第 11 回 形容詞の格語尾変化、ドイツの四季 1 第 12 回 形容詞の各語尾変化、ドイツの四季 2 第 13 回 形容詞の比較級、形容詞の名詞化、数詞、ドイツの都市 1 第 14 回 形容詞の比較級、形容詞の名詞化、数詞、ドイツの都市 2 第 15 回 動詞の過去人称変化、動詞の 3 基本形、不規則変化動詞、ドイツの農家 1 第 16 回 動詞の過去人称変化、動詞の 3 基本形、不規則変化動詞、ドイツの農家 2 第 17 回 動詞の完了形、分離動詞、非分離動詞、接続詞、副文、パッチワーク・ファミリー1 第 18 回 動詞の完了形、分離動詞、非分離動詞、接続詞、副文、パッチワーク・ファミリー2 第 19 回 受動、能動文と受動文、状態受動、zu 不定詞、sein+zu 不定詞、少数民族 1 第 20 回 受動、能動文と受動文、状態受動、zu 不定詞、sein+zu 不定詞、少数民族 2 第 21 回 話法の助動詞、未来の助動詞、再帰動詞、非人称の es、福祉先進国ドイツ 1 第 22 回 話法の助動詞、未来の助動詞、再帰動詞、非人称の es、福祉先進国ドイツ 2 第 23 回 定関係代名詞、不定関係代名詞、疑問代名詞、ドイツの平和教育 1 第 24 回 定関係代名詞、不定関係代名詞、疑問代名詞、ドイツの平和教育 2 第 25 回 指示代名詞、関係副詞 第 26 回 接続法 1 式、接続法 2 式、言葉と異文化 1 第 27 回 接続法 1 式、接続法 2 式、言葉と異文化 2 第 28 回 動詞の人称変化総復習 第 29 回 冠詞+形容詞+名詞の格変化総復習 第 30 回 まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> 必ず予習をして授業に臨むこと。授業時には独和辞典を必ず持参すること。</p>	
<p><テキスト> Takashi Oshio, Deutschland: Gestern, Heute und Morgen, Asahi Verlag. 学生各自で購入すること。</p>	
<p><参考書> 小笠原能仁・ヘルマン・トロール『文法から学べるドイツ語』(ナツメ社)</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 筆記試験を行ない達成度を評価する。出席回数が全授業回数の 2/3 に満たない者には受験を許可しない。</p>	

外国語科目・ドイツ語	
ドイツ語 I A b (1,2) (初級)	棟居 洋
後期・2単位	<登録条件>ドイツ語 I Aa と通年で登録すること。
<p><授業の到達目標及びテーマ> ドイツ語文法の基礎的学習に基づき、簡単なドイツ語の文章を読めるようになること。</p>	
<p><授業の概要> テキストの章を追って簡単なドイツ語の文章を読み解く。</p>	
<p><履修条件> 学部 1、2 年次で履修すること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第 1 回 Etwas zum Lachen 1 第 2 回 Etwas zum Lachen 2 第 3 回 Kannitverstan. Das Geschenk. 第 4 回 Barbarossa 1 第 5 回 Barbarossa 2 第 6 回 Stille Nacht, heilige Nacht ! 第 7 回 Der Sintflut 1 第 8 回 Der Sintflut 2 第 9 回 Als Gauß noch Schüler war 1 第 10 回 Als Gauß noch Schüler war 2 第 11 回 Wie kräht der Hahn ? 1 第 12 回 Wie kräht der Hahn ? 2 第 13 回 Das Mädchen, das immer furzte 1 第 14 回 Das Mädchen, das immer furzte 2 第 15 回 Die Prinzessin auf der Erbse 1 第 16 回 Die Prinzessin auf der Erbse 2 第 17 回 Doktor Zamenhof 1 第 18 回 Doktor Zamenhof 2 第 19 回 Der Tee 1 第 20 回 Der Tee 2 第 21 回 Aus dem Leben eines Taugenichts 1 第 22 回 Aus dem Leben eines Taugenichts 2 第 23 回 Das Kamel 1 第 24 回 Das Kamel 2 第 25 回 Richard Wagner 1 第 26 回 Richard Wagner 2 第 27 回 Mensch und Umwelt 1 第 28 回 Mensch und Umwelt 2 第 29 回 Die Lorelei 第 30 回 まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> 必ず予習をして授業に臨むこと。授業時には独和辞典を必ず持参すること。</p>	
<p><テキスト> 大岩信太郎編『初級後期ドイツ語読本(4)』(三修社) 学生各自で購入する。</p>	
<p><参考書> 授業の中でその都度紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 筆記試験を行ない、達成度を評価する。出席回数が全授業回数の 2/3 に満たない者には受験を許可しない。</p>	

外国語科目・ドイツ語	
ドイツ語 I B a (コミュニケーション)	福嶋 揚
前期・1単位	<登録条件> 通年(a, b)の登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 神学生にとって有意義な「ドイツ語コミュニケーション」とは、何よりもドイツ語による「キリスト教的コミュニケーション」であろう。プロテスタントの伝統に基づき、現代も用いられる生きた日常ドイツ語のキリスト教的な表現を出来るだけ幅広く学びたい。</p>	
<p><授業の概要> 様々なテキスト、音声教材を用いて、重要なドイツ語表現を習得する。また平易なドイツ語テキストを併せて読むことにしたい。</p>	
<p><履修条件> 学部2年に履修。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主の祈り、ニカイア信条、使徒信条 2. 十戒その他の重要な戒め 3. 詩編に基づく祈り 4. 聖書に基づく賛美の祈り 5. 子供と共に祈る 6. 日常の中の祈り 7. 日曜日から土曜日までの日ごとの祈り 8. その他の様々な場面での祈り 9. ローズンゲン(日々の聖句集)の使い方 10. カテキズム(ルター小教理問答) 11. カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、序論と第一部) 12. カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第二部前半) 13. カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第二部後半) 14. カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第三部前半) 15. カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第三部後半) 	
<p><準備学習等の指示> 毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。</p>	
<p><テキスト> ドイツ語訳聖書、ドイツ語のローズンゲン、ドイツ語賛美歌集等。必要に応じてコピーを配布。</p>	
<p><参考書> 必要に応じて配布する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 十分な出席、積極的な授業参加、期末試験によって評価する。</p>	

外国語科目・ドイツ語	
ドイツ語 I B b (コミュニケーション)	福嶋 揚
後期・1単位	<登録条件> 通年 (a, b) の登録が望ましい。
<授業の到達目標及びテーマ> 前期に引き続いて、プロテスタントの伝統に基づき、現代も用いられる生きたドイツ語のキリスト教的な表現を出来るだけ幅広く学びたい。	
<授業の概要> 前期に引き続いて、様々なテキストや音声教材を用いて、重要なドイツ語表現を習得する。	
<履修条件> 学部2年に履修。	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 礼拝の言葉 2. アンダハトの言葉(家庭で) 3. アンダハトの言葉(教会暦にあわせて) 4. 賛美歌のテキストに学ぶ(アドベント) 5. 賛美歌のテキストに学ぶ(クリスマス) 6. 賛美歌のテキストに学ぶ(受難節) 7. 賛美歌のテキストに学ぶ(復活祭) 8. 賛美歌のテキストに学ぶ(昇天祭) 9. 賛美歌のテキストに学ぶ(ペンテコステ) 10. 賛美歌のテキストに学ぶ(その他の様々な季節、テーマ) 11. 現代キリスト教音楽のテキスト(歌集 Feiert Jesus から) 12. 現代キリスト教音楽のテキスト(歌集 In Love with Jesus から) 13. ラジオ講演を聞く(カール・バルト) 14. 礼拝説教を聞く(カール・バルト) 15. 礼拝説教を聞く(現代の説教例から) 	
<準備学習等の指示> 毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。	
<テキスト> 必要に応じて配布する。	
<参考書> 必要に応じて配布する。	
<学生に対する評価(方法・基準)> 十分な出席、積極的な参加、および期末試験によって評価する。	

外国語科目・英語	
英語Ⅱ a	高砂 民宣
前期・1単位	<登録条件> 通年 (a, b) の登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 英文の神学書に慣れ親しみ、読解能力を高めると共に、神学用語や慣用表現等も習得する。</p>	
<p><授業の概要> 比較的平易な英文の注解書を読みつつ、神学用語等についても解説をし、福音書記者の意図について考察する。</p>	
<p><履修条件> 学部2年生以上であること。</p>	
<p><授業計画> 第1回：Unit 9: John 18-19 The Trial and Crucifixion of Jesus (p.104)より。 第2回：The Arrest of Jesus (18:1-14) p.105 第3回：The Arrest of Jesus (18:1-14) p.106 第4回：The Arrest of Jesus (18:1-14) p.107 第5回：Peter's Denial (18:15-27) pp.107-108 第6回：Pilate's Trial (18:28-19:16) p.108 第7回：Pilate's Trial (18:28-19:16) p.109 第8回：Pilate's Trial (18:28-19:16) pp.110-111 第9回：“The Jews” p.111 第10回：“The Jews” p.112 第11回：The Crucifixion (19:17-37) pp.112-113 第12回：The Crucifixion (19:17-37) p.114 第13回：Jesus' Burial (19:38-42) p.114 第14回：Jesus' Burial (19:38-42) p.115 第15回：Questions for Reflection p.115</p>	
<p><準備学習等の指示> 毎回該当する箇所を予習して出席すること。</p>	
<p><テキスト> Matson, Mark A., <u>John.</u>, Westminster John Knox Press, Louisville, Kentucky, 2002. (担当者が用意する)</p>	
<p><参考書> 授業の中で教員が指示する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 出席および授業参加状況、期末試験など、総合的に評価する。 ※出席が2/3に満たない者は、評価の対象としない。</p>	

外国語科目・英語	
英語Ⅱ b	高砂 民宣
後期・1単位	<登録条件> 通年 (a, b) の登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 英文の神学書に慣れ親しみ、読解能力を高めると共に、神学用語や慣用表現等も習得する。</p>	
<p><授業の概要> 比較的平易な英文の注解書を読みつつ、神学用語等についても解説をし、福音書記者の意図について考察する。</p>	
<p><履修条件> 学部2年生以上であること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回： Unit 10: John 20-21 The Resurrection Appearances of Jesus (p.116)より。 第2回： The Empty Tomb (20:1-10) p.117 第3回： The Empty Tomb (20:1-10) p.118 第4回： Mary in the Garden (20:11-18) p.118 第5回： Mary in the Garden (20:11-18) p.119 第6回： The Closed Room Appearances (20:19-29) p.120 第7回： The Closed Room Appearances (20:19-29) pp.121-122 第8回： The First Ending (20:30-31) p.122 第9回： The Epilogue (Chapter 21) pp.122-123 第10回： The Fish Miracle (21:1-14) pp.123-124 第11回： The Fish Miracle (21:1-14) p.125 第12回： Jesus and Simon Peter (21:15-19) pp.125-126 第13回： Simon Peter and the Beloved Disciple (21:20-23) pp.126-127 第14回： The Second Ending (21:24-25) pp.127-128 第15回： Questions for Reflection p.128</p>	
<p><準備学習等の指示> 毎回該当する箇所を予習して出席すること。</p>	
<p><テキスト> Matson, Mark A., <u>John.</u>, Westminster John Knox Press, Louisville, Kentucky, 2002. (担当者が用意する)</p>	
<p><参考書> 授業の中で教員が指示する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 出席および授業参加状況、期末試験など、総合的に評価する。 ※出席が2/3に満たない者は、評価の対象としない。</p>	

外国語科目・英語	
英語実践 I	W. ジャンセン
前期・1単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 英語を実際に使うようになることによって、より深く理解できるようになり、英語で学ぶこともよりできるようになる。</p>	
<p><授業の概要> 英語を実際に使うことによって簡単な会話ができるようになり、そして、英語で書かれた文献をより容易に用いることができること。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画> 英語による比較的平易な英会話教材を用いることで、英語の話す力と読解力を養う。</p> <p>第1回 About Myself 第2回 About Myself 第3回 About My Family 第4回 About My Family 第5回 About Time 第6回 About Time 第7回 About Transportation 第8回 About Transportation 第9回 About Meeting Others 第10回 About Meeting Others 第11回 About Drinks 第12回 About Drinks 第13回 About Snacks 第14回 About Snacks 第15回 Overall Review</p> <p>必要に応じて、英会話の力を養う。</p>	
<p><準備学習等の指示> 休まないこと。会話に参加すること。</p>	
<p><テキスト> 必要に応じて教室で配布する。</p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席、ディスカッションの参加、ミニ・テストなど。 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

外国語科目・英語	
英語実践Ⅱ	W. ジャンセン
後期・1単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 英語を実際に使うようになることによって、より深く理解できるようになり、英語で学ぶこともよりできるようになる。</p>	
<p><授業の概要> 英語を実際に使うことによって簡単な会話ができるようになり、そして、英語で書かれた文献をより容易に用いることができること。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画> 英語による比較的平易な英会話教材を用いることで、英語の話す力と読解力を養う。</p> <p>第1回 About The Weather 第2回 About The Weather 第3回 About Money 第4回 About Money 第5回 About Shopping 第6回 About Shopping 第7回 About Birthdays 第8回 About Birthdays 第9回 About Clothes 第10回 About Clothes 第11回 About Directions 第12回 About Directions 第13回 About Home 第14回 About Home 第15回 Overall Review</p> <p>必要に応じて、英会話の力を養う。</p>	
<p><準備学習等の指示> 休まないこと。会話に参加すること。</p>	
<p><テキスト> 必要に応じて教室で配布する。</p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席、ディスカッションの参加、ミニ・テストなど。 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

外国語科目・ドイツ語	
ドイツ語Ⅱ a	福嶋 揚
前期・1単位	<登録条件> 通年(a, b)の登録が望ましい。
<授業の到達目標及びテーマ> ドイツ語神学書の講読。神学的な諸概念と思考法の習得。	
<p><授業の概要> 現代ドイツの代表的な福音主義神学者の一人であるエバーハルト・ユンゲルの著書『キリスト教信仰の中心としての、神なき者の義認についての福音』を原書で読む。ユンゲルは本書において、二十世紀のエキュメニズムの動向をふまえつつ、宗教改革の伝統である信仰義認論の本質を解説する。西洋思想の「正義」論の系譜の中で、キリスト教的な「正義」論としての義認論が持つ独自の現代的意義を明らかにした、必読の書である。</p> <p>前期の前半においては、信仰義認論をめぐる聖書その他の基本的なテキストをドイツ語で読み、準備をととのえる。それからユンゲルの著書をドイツ語で丁寧に読み進めていきたい。</p>	
<履修条件> 初級文法を習得していること。	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序論 ユンゲルの著書への入門など 2. 信仰義認論をめぐる、ドイツ語聖書テキスト(1) 旧約聖書より 3. 信仰義認論をめぐる、ドイツ語聖書テキスト(2) 新約聖書より 4. 信仰義認論をめぐる、宗教改革時代のテキスト(1) ルター 5. 信仰義認論をめぐる、宗教改革時代のテキスト(2) メランヒトン 6. 信仰義認論をめぐる、宗教改革時代のテキスト(2) 和協信条 7. 信仰義認論をめぐる、宗教改革時代のテキスト(3) トリエント公会議の教令 8. 信仰義認論をめぐる、現代のテキスト(1) カール・バルト 9. 信仰義認論をめぐる、現代のテキスト(2) ハンス・キュンク 10. Jüngel, 1-4. (頁数。以下同様。) 11. 4-11. 12. 43-48. 13. 48-52. 14. 52-58. 15. 58-65. 	
<準備学習等の指示> 毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。	
<テキスト> Eberhard Jüngel, Das Evangelium von der Rechtfertigung des Gottlosen als Zentrum des christlichen Glaubens, Tübingen ³1999. その他のテキストは必要に応じて配布する。	
<参考書> 特に指定しないが、必要に応じて参考資料を配布する。	
<学生に対する評価(方法・基準)> 十分な出席、毎回の十分な予習復習を前提として、筆記試験によって評価する。	

外国語科目・ドイツ語	
ドイツ語Ⅱ b	福嶋 揚
後期・1単位	<登録条件> 通年(a, b)の登録が望ましい。
<授業の到達目標及びテーマ> ドイツ語神学書の講読。神学的な諸概念と思考法の習得。	
<授業の概要> ドイツ語Ⅱa(前期)を参照。前期に続いて、現代ドイツの代表的な福音主義神学者の一人であるエバーハルト・ユンゲルの著書『キリスト教信仰の中心としての、神なき者の義認についての福音』を原書で読み進める。	
<履修条件> 初級文法を習得していること。	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Jünger, 65-74. (頁数。以下同様。) 2. 75-86. 3. 86-97. 4. 97-106. 5. 106-114. 6. 114-125. 7. 126-143. 8. 143-155. 9. 156-169. 10. 169-180. 11. 180-190. 12. 191-201. 13. 201-209. 14. 210-220. 15. 221-234. 	
<準備学習等の指示> 毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。	
<テキスト> Eberhard Jünger, Das Evangelium von der Rechtfertigung des Gottlosen als Zentrum des christlichen Glaubens, Tübingen ³1999. その他の資料は必要に応じて配布する。	
<参考書> 特に指定しないが、必要に応じて参考資料を配布する。	
<学生に対する評価(方法・基準)> 十分な出席、毎回の十分な予習復習を前提として、筆記試験によって評価する。	

保健体育科目	
体育 I	高橋 伸
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>自らの日常生活を有意義で活動的に過ごすために、運動を中心としたレクリエーション活動の基礎的な知識、態度、技術を身につけるとともに、他者への働きかけの方法も学ぶ。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>1. 体を動かす楽しさと喜びを再認識するとともに、各自の体力に合わせた健康体力作りの理論と実践を習得する。</p> <p>2. 宣教・教会活動などに役立つレクリエーション活動の理論と各種活動、及び指導法の習得を目指す。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 準備体操、ストレッチ、ウォーキングの理論と実際 1 3. 準備体操、ストレッチ、ウォーキングの理論と実際 2 4. ソフトボール 1 *東神大運動会に向けて 5. ソフトボール 2 6. ソフトボール 3 7. ニュースポーツ 1 (フライングディスク) 8. ニュースポーツ 2 (フライングディスク) 9. ニュースポーツ 3 (ガガ、ユニホック) 10. ニュースポーツ 4 (ペタンク) 11. ニュースポーツ 5 (クロッカー) 12. キャンプ・クラフト 1 (火起し) 13. キャンプ・クラフト 2 (飯盒炊飯) 14. レクリエーション指導法 15. まとめ 	
<p><準備学習等の指示></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動できる服装、又は活動相応の衣服で参加すること。 2. 体調に留意すること。 	
<p><テキスト></p> <p>講師が準備する</p>	
<p><参考書></p> <p>特になし</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全授業回数の2/3以上出席したものに対して評価を行う。 2. 技術・知識・態度について総合的に評価する。 	

保健体育科目	
体育Ⅱ	岡田 光弘
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>身体を動かす楽しさと喜びを認識し、各自の体力に合わせてながら、練習法、ルール、試合に必要な技術について学ぶことで、生涯スポーツの基礎を獲得すること</p>	
<p><授業の概要></p> <p>硬式庭球、卓球の試合が行えるようになるために、以下の事柄について学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ゲームを構成するすべての技術について、その技術を習得する。 2. ゲームを構成するすべてのルールを習得する。 3. 学期が終わったあとも自己学習ができるように練習の仕方を学ぶ。 	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. コーディネーション・トレーニングの理論と実践 3. フォアハンドボレー、バックハンドボレー（以下、テニス） 4. フォアハンド・ストローク 5. バックハンド・ストローク 6. サービスとレシーブ 7. テニスのルールと用具の歴史、ミニゲーム 8. ダブルス・ゲーム 9. シングルス・ゲームとテニスのまとめ 10. ピンポン、卓球のルールと用具の歴史（以下、卓球） 11. バックハンド・ショート（またはハーフボレー）、ドライブ 12. フォアハンド・ストローク（ドライブ打法） 13. 多球練習による分習法、制限付きゲームによる全習法 14. シングルスとダブルスの試合 15. まとめ 	
<p><準備学習等の指示></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動に適した服装に着替えること 2. それぞれの種目に適した靴を用意すること 3. 体調に十分留意すること 	
<p><テキスト></p> <p>橋本純一（編）『現代メディアスポーツ論』世界思想社 （購入の必要はありません。）</p>	
<p><参考書></p> <p>授業時に指定します。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>技能：60% 時間ごとの観察により評価します。 知識：20% 実際にゲームを進行していく知識を評価します。 態度：20% 運動に適した服装などの用意ができているか、授業に積極的に参加しているかを評価します。 出席が2/3に満たない場合、成績評価の対象にしない。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
旧約聖書神学 I	小友 聡
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>旧約聖書とは何かという根本問題に歴史的文献学的見地から取り組み、旧約聖書の全体像をつかむ。総論と五書問題が範囲である。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>まず正典としての旧約聖書の成立過程と歴史的背景、さらに本文伝承の歴史を概観する。そのあと、五書批判の諸問題について考察する。</p>	
<p><履修条件></p> <p>旧約聖書神学ⅡおよびⅢより先に受講することが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 旧約聖書入門 3. 近代の旧約聖書学研究史（ヴェルハウゼンまで） 4. 近代の旧約聖書学研究史（ヴェルハウゼン以降） 5. 正典とは何か 6. 旧約正典形成史 7. 正典と本文 8. 本文伝承の歴史 9. 古代語訳概観 10. モーセ五書批判（総論） 11. モーセ五書批判（研究史の諸問題） 12. ヤーウィスト 13. エローヒスト 14. 祭司文書 15. まとめ 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>旧約聖書を通読していることを前提にしている。教科書をよく読むこと。聖書学の学術的な議論に戸惑う人がいるかも知れないが、旧約聖書を理解したいという意欲を持って授業に臨み、わからなければ質問してほしい。</p>	
<p><テキスト></p> <p>左近淑（大住編）『旧約聖書緒論講義』教文館（2004年増補版）を第一回授業までに各自購入のこと。</p>	
<p><参考書></p> <p>レジュメと文献表を授業中に配付する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>学期末試験で評価する。欠席3分の1を越えた場合は受験できない。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
旧約聖書神学Ⅱ	小友 聡
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約聖書諸文学の成立過程とその歴史的背景から、旧約正典ならびにユダヤ教正典全体の構造と諸文書間の緊張関係を明らかにする。</p>	
<p><授業の概要> 申命記および申命記的歴史、歴代誌的歴史、さらに詩文学について学ぶ。</p>	
<p><履修条件> 旧約聖書神学Ⅰを履修済みであることが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 申命記的歴史（総論およびM.ノート以前の研究史） 3. 申命記的歴史（M.ノート以降の研究史） 4. 申命記的歴史（各論） 5. 申命記（総論） 6. 申命記（各論） 7. 歴代誌的歴史（総論） 8. 歴代誌的歴史（各論） 9. 知恵文学（総論） 10. 知恵文学（各論：ヨブ記） 11. 知恵文学（各論：箴言、コヘレトの言葉） 12. 詩編（総論） 13. 詩編（各論） 14. その他の詩文学 15. まとめ 	
<p><準備学習等の指示> 教科書をよく読むこと。旧約聖書をよく理解したいという意欲をもって授業に臨むこと。</p>	
<p><テキスト> 左近淑（大住編）『旧約聖書緒論講義』教文館（2004年増補版）を各自で用意すること。</p>	
<p><参考書> レジュメと文献表を授業中に配付する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 学期末試験で評価する。欠席3分の1を越えた場合は受験できない。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
旧約聖書神学Ⅲ	大住 雄一
前期・2単位	<登録条件>
<授業の到達目標及びテーマ> 預言者概論および「預言書」各書の緒論的解説を行う。	
<授業の概要> 預言者とは何か、預言書とは何か、預言者はどのようにして他に比べるものない神の言葉の伝承を生み出したのか、預言とは何か、これらの諸問題を明らかにする。また、近年盛んに議論されている預言書の形成の問題を考察する。	
<履修条件> 旧約聖書神学Ⅰ履修済みまたは並行して履修中であること	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「預言者」という書物群（正典第二部）と預言書： 課題の設定とレジュメの配付 2. 預言者とは何か： G・フォン・ラートおよび彼以降の預言者論を概観する。 3. 預言者と伝承史： フォン・ラートらの預言者論を可能にした伝承史的テキスト理解を説明する。 4. イザヤ書と8世紀の預言者イザヤ：イザヤ書が描き出す8世紀の預言者イザヤの預言の特質を論じる。しかし、イザヤ書から預言者イザヤの姿は、どの程度読み取れるのであろうか。 5. 「第二イザヤ」とイザヤ書成立史：「第二イザヤ」とは何者か。なぜイザヤ書の中にあるのか。 6. 預言と黙示：イザヤ書の編集の枠組みとなっている黙示文学的テキストを概観する。 7. エレミヤ書の構造：エレミヤ書の文学的構造を理解する。原マソラ本文のエレミヤ書と七十人訳エレミヤ書の構造の違いを考察する。 8. 預言と預言者物語：預言書に含まれる預言者物語の意味を論じる。また、「前の預言者」（歴史書）と「後の預言者」（いわゆる預言書）の関係を考察する。 9. 申命記史家の預言書編集：エレミヤ書は申命記史家の編集になると言われる。学説を吟味する。 10. エゼキエルの幻：エゼキエル書の構造と、その背後にある歴史を理解する。 11. 審判預言と救済預言：エルサレムの破壊と預言者の使信の転回をあとづける。 12. 十二小預言書：十二人の預言者の預言と物語を概観する。 13. アモスとホセア：十二人の預言者のうち、8世紀北王国の二人の預言者の預言の特質を考察する。 14. ダニエル書：黙示文学の特徴を解説する。 15. まとめおよび知識の再確認 	
<準備学習等の指示>聖書の預言書および歴史書（とくにその）預言者物語を熟読すること。	
<テキスト> 左近淑『旧約聖書緒論講義』（2004年増補版）教文館。各自で準備すること。	
<参考書> 授業中にレジュメを配付し、その中で参考文献を指示する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加と期末の小レポートによって成績をつける。理由なく授業の三分の一以上欠席した者は、レポートを提出することができない。	

専門教育科目・聖書神学関係	
旧約聖書釈義 a	小友 聡
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約聖書に基づく説教を目指して、釈義の課題と方法論について学ぶ。釈義とはいったい何かを理解し、釈義の基本的知識を身につけることが目的である。</p>	
<p><授業の概要> まず釈義とは何かを考え、次に釈義の方法論を具体的に学び、説教作成に至る道筋を整える。また、神学辞典や注解書など二次文献の使い方についても解説する。</p>	
<p><履修条件> 旧約聖書神学 I を履修済みであることが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 釈義とは何か 3. 聖書翻訳の問題 4. 注解書紹介 5. 本文批判 6. 文献批判 7. 伝承史 8. 編集史 9. 様式史 10. 文芸学的方法 11. 修辭批判 12. 正典批判 13. 方法論についての総括 14. 釈義と説教 15. まとめ 	
<p><準備学習等の指示> あらかじめテキストを読んでおくこと。毎回、発表をしていただく。演習形式で行うので、積極的に参加すること。</p>	
<p><テキスト> 樋口/中野編『聖書学用語辞典』、日本基督教団出版局、2008年、6000円を用いる。担当者が出版社と交渉して2割引で購入する予定。授業が始まってから購入希望者を募るので、あらかじめ購入しておく必要はない。</p>	
<p><参考書> H.バルト・O.H.シュテック（山我訳）『旧約聖書釈義入門』、日本基督教団出版局など。そのつど指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加と筆記試験で評価する。3分の1以上欠席した者は試験を受けることができない。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
旧約聖書釈義 b	小友 聡
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約聖書に基づく説教を目指し、前期で学んだことを具体的に旧約テキストに適用して釈義を試みる。</p>	
<p><授業の概要> 詩編の幾つかを釈義し、最終的に釈義レポートを作成する。</p>	
<p><履修条件> 本年度に旧約釈義 a.を履修したことを前提とするが、b.のみの履修も可能。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 詩編を釈義することについて 3. 詩編 23 編のテキスト 4. 詩編 23 編の釈義 5. 詩編 23 編のさまざまな解釈 6. 詩編 42-43 編のテキスト 7. 詩編 42-43 編の釈義 8. 詩編 42-43 編のさまざまな解釈 9. 詩編 73 編のテキスト 10. 詩編 73 編の釈義 11. 詩編 73 編のさまざまな解釈 12. 釈義レポートの書き方 13. 釈義から説教へ 14. 旧約聖書と説教 15. まとめ 	
<p><準備学習等の指示> あらかじめ聖書のテキストを読んでおくこと。詩編をどう読み、どう語るかについて関心を持つこと。</p>	
<p><テキスト> 新共同訳聖書を用いる。ヘブライ語の知識はなくてよい。</p>	
<p><参考書> 詩編注解書など、そのつど指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 釈義レポートを提出していただき、それによって評価する。3分の1以上欠席した者はレポートを提出できない。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
新約聖書神学 I	中野 実
前期・2単位	<登録条件>主として学部2～3年生のクラス
<p><授業の到達目標及びテーマ>新約聖書を学問的に読むことの信仰的神学的意義について考え、理解する能力をやしなうことがこのクラスの目標。</p>	
<p><授業の概要>新約聖書神学 I においては、主に講義を通して、聖書とはなにか、聖書学、聖書神学とは何か、聖書正典とは何か、などについて学ぶ。</p>	
<p><履修条件>新約聖書神学 II と同時並行して履修する事。やむを得ない事情でどちらかのみを履修する者は必ず前もって担当者と相談すること。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> ①聖書を学問的に読むとは？ 聖書とは何か？ ②聖書を学問的に読むとは？ 聖書について知る作業としての聖書（神）学 ③聖書を学問的に読むとは？ 聖書学＝聖書の批判的研究 ④聖書を学問的に読むとは？ 近代・現代の聖書学のルーツについて ⑤新約聖書とは何か？ 新約聖書の成立 ⑥新約聖書とは何か？ 新約聖書の写本などについて ⑦新約聖書とは何か？ 新約聖書正典について ⑧新約聖書の世界 ヘレニズム・ローマ世界 ⑨新約聖書の世界 初期ユダヤ教 ⑩福音書研究序論： 福音書とは何か？ ⑪福音書研究序論： 正典福音書と外典福音書 ⑫共観福音書問題 序 ⑬共観福音書問題 マルコ優先説、二資料仮説など ⑭共観福音書問題 なぜ四つの福音書か？ ⑮まとめ <p>顔ぶれ、進み具合などを考慮しつつ、授業計画を変更する場合がある。</p>	
<p><準備学習等の指示>聖書を日頃からよく読むこと。</p>	
<p><テキスト>旧・新約聖書。 旧約聖書も必ず持ってくる事。</p>	
<p><参考書>樋口、中野『聖書学用語辞典』（日本キリスト教団出版局、2008年）。その他、必要な物は、クラスで指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）>出席重視。出席が3分の2に達しない場合は、原則として評価の対象としない。出席（＋クラスでの姿勢）に加え、聖書クイズ、聖書学用語のテスト、夏休みのレポートなどによって総合的に評価する。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
新約聖書神学Ⅱ	中野 実
前期・2単位	<登録条件>学部2～3年生が中心のクラス
<授業の到達目標及びテーマ>主に講義を中心に、新約聖書の四福音書に関する理解を深める。	
<授業の概要>内容的には新約聖書神学Ⅰと深く関連しているクラスであり、四つの正典福音書について学ぶ。	
<履修条件>必ず新約聖書神学Ⅰと同時並行で履修する事。やむを得ずどちらかのみを履修する場合は、必ず担当者と前もって相談すること。	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> (1)マルコ福音書：歴史的諸問題 (2)マルコ福音書：文学的諸問題 (3)マルコ福音書：神学的諸問題 (4)マタイ福音書：歴史的諸問題 (5)マタイ福音書：文学的諸問題 (6)マタイ福音書：神学的諸問題 (7)ルカ福音書：歴史的諸問題 (8)ルカ福音書：文学的諸問題 (9)ルカ福音書：神学的諸問題 (10)ヨハネ福音書：歴史的諸問題 (11)ヨハネ福音書：文学的諸問題 (12)ヨハネ福音書：神学的諸問題 (13)ルカ文書について (14)ヨハネ文書について (15)まとめ <p>顔ぶれ、進み具合を考慮しつつ、スケジュールに変更を加える場合がある。</p>	
<準備学習等の指示>新約神学Ⅰの項目を参照。	
<テキスト>旧・新約聖書。および後期になったら、ギリシア語の新約聖書も持参すること。	
<参考書>必要に応じて、クラスで指示する。	
<学生に対する評価（方法・基準）>出席が3分の2に達しない場合は、原則として評価の対象にしない。その他、クラスでの姿勢、試験（あるいはレポート）などによって、総合的に評価する。	

専門教育科目・聖書神学関係	
新約聖書神学Ⅲ	焼山 満里子
前期・2単位	<登録条件>
<授業の到達目標及びテーマ>使徒パウロの伝道と神学をコリントの信徒への手紙を通して学ぶ。	
<授業の概要>コリントの信徒への手紙一を毎回一章ずつ読み、検討する。	
<履修条件>ギリシャ語履修済みのこと。4年時履修が望ましい。	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. パウロの伝道旅行 使徒言行録とパウロ真正書簡の比較によって 2. コリントー1章、16章 手紙の始まりと終わり 3. コリントー2章、十字架の言葉 4. コリントー3章、霊の人と肉の人 5. コリントー4章、パウロの使命 6. コリントー5章、6章、教会内での紛争の処理 7. コリントー7章、結婚について 8. コリントー8章、偶像に供えられた肉 9. コリントー9章、使徒の権利とパウロの権利放棄 10. コリントー10章、悪霊とは 11. コリントー11章、礼拝における秩序の問題 12. コリントー12章、13章、愛 13. コリントー14章、異言と預言 14. コリントー15章、キリストの復活 15. 総括 	
<準備学習等の指示>当日の聖書箇所、テキストを読んだうえで参加すること。	
<テキスト>R.B.ヘイズ『現代聖書注解 コリントの信徒への手紙一』日本基督教団出版局、2001年各自準備のこと。	
<参考書>適宜紹介する。	
<学生に対する評価(方法・基準)>出席(10回以上を求める)、課題、授業参加、期末試験により評価する。	

専門教育科目・聖書神学関係	
新約聖書釈義 a	中野 実
前期・2単位	<登録条件>学部4年生を中心としたクラス。
<授業の到達目標及びテーマ>新約聖書の釈義の方法と実践を学ぶ。	
<授業の概要>概論ののち、まずフィー『新約聖書の釈義』を用いながら釈義の方法を学ぶ。	
<履修条件>ギリシア語を既に履修済みであること。また2011年度は、新約釈義 a と b が前期にまとめて連続したクラスとして開講されるので、必ず両方を履修すること。やむを得ない事情で、片方のみ履修する学生は、必ず担当者と事前に相談する事。	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション：クラスの目標と課題について ② 釈義とは何か？ 釈義の具体的課題について ③ フィー『新約聖書の釈義』序論および第1章の説明 ④ 第1章の続き。釈義の全行程を概観。 ⑤ ステップ1～2 歴史的脈略、章句の区切りなど ⑥ ステップ3 段落・ペリコーペの熟知 ⑦ ステップ4 文の構成と統語的關係の分析 ⑧ ステップ5 本文の確定：本文批評 ⑨ ステップ5 本文批評つづき ⑩ ステップ6 文法の分析 ⑪ ステップ7 語の分析：ワード・スタディー ⑫ ステップ8 歴史的文化的背景の探求 ⑬ 書簡の釈義 ⑭ 福音書の釈義 ⑮ まとめ <p>顔ぶれや進み具合などを勘案しながら、スケジュールを変更する場合もある。</p>	
<準備学習等の指示>釈義は、ただ講義を聴いているだけでは身に付かない。実際に自分で試みて見る事が必要。釈義はある意味で職人芸。苦勞して身につけるしか道はない！	
<テキスト>ゴードン・フィー『新約聖書の釈義』永田訳（教文館、1998年）。クラスの初回までに各自が購入しておくこと。旧・新約聖書およびギリシア語の新約聖書。	
<参考書>必要に応じて、クラスで指示する。	
<学生に対する評価（方法・基準）>出席重視。出席が3分の2に達しない場合は、原則として評価の対象にしない。毎回のクラスでの姿勢、期末の課題（試験あるいはレポート）などによって、総合的に評価する。	

専門教育科目・聖書神学関係	
新約聖書釈義 b	中野 実
前期・2単位	<登録条件>学部4年を中心としたクラス。
<授業の到達目標及びテーマ>新約聖書釈義 a のシラバスを参照。	
<授業の概要>近・現代の聖書学において培われてきた方法論を、おもに講義を通して学ぶ。歴史批評学的方法論、そしてそれを乗り越えようとする新しい方法論について、また説教のための釈義についても学ぶ。	
<履修条件>ギリシア語を既に履修済みであること。2011年度は、新約釈義 a と b が前期にまとめて連続したクラスとして開講されるので、両方を必ず履修すること。やむを得ない事情で、片方のみ履修する学生は、必ず担当者と事前に相談する事。	
<p><授業計画></p> <p>歴史批評学的方法論</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 序論 ② 本文批評 ③ 文献批評 ④ 宗教史的考察 ⑤ 様式史 ⑥ 編集史 <p>歴史批評学を乗り越える方法論</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑦ 序論 ⑧ 物語批評 ⑨ 読者反応批評 ⑩ フェミニスト批評 ⑪ 正典批評 <p>説教のための釈義</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑫ 序論 ⑬ 実践(1) ⑭ 実践(2) ⑮ まとめ <p>顔ぶれや進み具合などを勘案しながら、スケジュールを変更する場合もある。</p>	
<準備学習等の指示>新約聖書釈義 a の項目を参照。	
<テキスト>新約聖書釈義 a の項目を参照。	
<参考書>必要に応じて、クラスで指示する。	
<学生に対する評価(方法・基準)>出席重視。出席が三分の二に達しない場合は、原則として評価の対象とはしない。出席、クラスでの姿勢、期末の課題などをとおして、総合的に評価する。	

専門教育科目・聖書神学関係	
ギリシャ語Ⅰ（1,2）	三永 旨従
前期・4単位	<登録条件>ギリシャ語Ⅱと通年で履修する。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 聖書のギリシャ語文法の基礎的理解を身につけ、その基本的読解能力を養うことを目的とする。</p>	
<p><授業の概要> 前期は基本的文法を中心とする。 新約聖書のギリシャ語理解のために、テキストに則して基本文型を身につけていく。目的はあくまで新約文書群の読解にあるために練習問題は、ギリシャ語の日本語訳に限定する。授業の合間に、少しずつ、ギリシャ語新約聖書に慣れることも同時に行なう。前後期を通じ、特に原典で新約文書群を読むことの具体的な意義、及びそこから生じる違いについても学んでゆく。</p>	
<p><履修条件> ギリシャ語Ⅱと通年で履修する。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新約聖書を原典で読むことについて 2. 写本について 3. 新約聖書のギリシャ語の特色 4. 文字と発音 5. 単語と音節 6. ギリシャ語のアクセントの特色 7. 句読点 8. ギリシャ語動詞の活用について 9. 動詞活用－現在形 10. ギリシャ語名詞の特色 11. 名詞の変化－男性形 12. 名詞の変化－女性形 13. ギリシャ語前置詞の特色 14. 前置詞の用法 15. 受動形能動態について 16. 中動形動詞のいろいろ 17. 動詞活用－中動形 18. 動詞活用－受動形 19. ギリシャ語人称代名詞の特質 20. 人称代名詞 21. 未完了形動詞の特質 22. 動詞活用－未完了形 23. ギリシャ語の過去時制について 24. アオリスト形動詞の特質 25. 動詞活用－第一アオリスト形 26. 動詞活用－第二アオリスト形 27. ギリシャ語の形容詞の特質 28. ギリシャ語の形容詞の性、数、格 29. 形容詞の変化－男性形 30. 形容詞の変化－女性形 	
<p><準備学習等の指示> 暗記すべき課題の多い教科である故、予習、復習とは別に各自さらにはグループ学習で反復練習する時間を取ることが望ましい。</p>	
<p><テキスト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大貫隆著『新約聖書 ギリシャ語入門』岩波書店（学生各自で用意する。） ・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers” W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd.（各自で購入することを強く勧める。） 	
<p><参考書> なし</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 各授業時間に行なわれる練習問題、及び学期末の試験（口頭試問）</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
ギリシャ語Ⅱ	三永 旨従
後期・2単位	<登録条件>ギリシャ語Ⅰの履修
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>ギリシャ語文法の理解と読解能力を習得していく中で、新約聖書原典を辞書その他の手段を用いながらも一人で読解できる能力を養うことを目的とする。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>ギリシャ語Ⅰに続けて基礎文法を終わらせ、具体的な新約文書群の読解に入る。各授業毎にギリシャ語特有の文法体系に由来する特徴を具体的にテキストにあたって学ぶ。基本文法を終わらせると同時に、実際に新約文書群を読む際に、大きな障害となり易い点（分詞構文、不定詞構文等）にも焦点をあてる。上記の留意点を考慮しつつ、より平易な新約文書を実際に読んでいく。</p>	
<p><履修条件></p> <p>ギリシャ語Ⅰの履修</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 動詞の変化一分詞 2. 母音融合動詞 3. 流音動詞 4. 動詞の変化－不定法 5. 動詞の変化－希求法 6. 疑問代名詞 7. 関係代名詞 8. 動詞の変化－命令法 9. 特殊形動詞 10. 冠詞とその用法 11. 動詞の変化－接続法 12. 数詞 13. 独立属格の構文 14. 不定詞+名詞の目的格の構文 15. 分詞の述語的用法 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>暗記するべき課題の多い教科である故、予習、復習とは別に各自反復練習する時間を取ることが望ましい。</p>	
<p><テキスト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大貫隆著『新約聖書 ギリシャ語入門』岩波書店（学生各自で用意する。） ・Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE または UBS 版 Greek New Testament（学生各自で用意する。） ・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers” W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd.（各自で購入することを強く勧める。） 	
<p><参考書></p> <p>なし</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>各授業時間に行なわれる練習問題、及び学期末の試験（筆記試験）</p>	

専門教育科目・組織神学関係	
組織神学 I a	芳賀 力
後期・2単位	<登録条件>後期に I b と一緒に取ること。
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教の基本的な教理全般について、必要な知識を身につけ、理解を深める。</p>	
<p><授業の概要> 前期は神学の方法論、啓示論、聖書論、信条論、神論、三位一体論、創造論、人間論について学ぶ。</p>	
<p><履修条件> 神学通論を同時に履修していること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回： 神学の生の座について考察する。</p> <p>第2回： 自然と歴史における神の啓示について考察する。</p> <p>第3回： 神の名の啓示と神の人格性について考察する。</p> <p>第4回： 啓示の三位一体的構造について考察する。</p> <p>第5回： 聖書のテキスト性について考察する。</p> <p>第6回： 聖書の権威について考察する。</p> <p>第7回： 聖書の正典性について考察する。</p> <p>第8回： 聖書の解釈について考察する。</p> <p>第9回： これまでの議論を振り返り、総括する。</p> <p>第10回： 信条と教理について考察する。</p> <p>第11回： 神の存在について考察する。</p> <p>第12回： 三位一体論について考察する。</p> <p>第13回： 創造と摂理について考察する。</p> <p>第14回： 人間について考察する。</p> <p>第15回： これまでの議論を振り返り、総括する。</p>	
<p><準備学習等の指示> ノートをこまめに取り、内容を把握しておくこと。総括の際に活用可能。</p>	
<p><テキスト> 授業の中で適宜指示する。</p>	
<p><参考書> 芳賀力『神学の小径 I』教文館、2008年。希望者には著者割引で頒布する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 二回の総括を行い、それまで授業で取り扱った主題についての理解度をチェックする。</p>	

専門教育科目・組織神学関係	
組織神学 I b	芳賀 力
後期・2単位	<登録条件>後期に I a と一緒に取ること。
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教の基本的な教理全般について、必要な知識を身につけ、理解を深める。</p>	
<p><授業の概要> 後期は罪論、キリストの人格と業、救済論、聖霊論、教会論、聖礼典論、終末論について学ぶ。</p>	
<p><履修条件> 神学通論を同時に履修していること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回： 罪の問題について考察する。</p> <p>第2回： キリストの人格について考察する。</p> <p>第3回： キリストの業について考察する。</p> <p>第4回： キリスト論の成立について考察する。</p> <p>第5回： 救済の祭儀的な語りについて考察する。</p> <p>第6回： 救済の軍事的、商法的な語りについて考察する。</p> <p>第7回： 救済の民法的な語りについて考察する。</p> <p>第8回： 救済の刑法的な語りについて考察する。</p> <p>第9回： これまでの議論を振り返り、総括する。</p> <p>第10回： 救済の存在論的な語りについて考察する。</p> <p>第11回： 聖霊と聖化について考察する。</p> <p>第12回： 教会と選びについて考察する。</p> <p>第13回： 洗礼と聖餐について考察する。</p> <p>第14回： 神の国について考察する。</p> <p>第15回： これまでの議論を振り返り、総括する。</p>	
<p><準備学習等の指示> ノートをこまめに取り、内容を把握しておくこと。総括の際に活用可能。</p>	
<p><テキスト> 授業の中で適宜指示する。</p>	
<p><参考書> 芳賀力『救済の物語』日本基督教団出版局、1997年。希望者には著者割引で頒布する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 二回の総括を行い、それまで授業で取り扱った主題についての理解度をチェックする。</p>	

専門教育科目・組織神学関係	
組織神学Ⅱ a	近藤 勝彦
前期・2単位	<登録条件> 通年 (a,b) の履修が望ましい
<p><授業の到達目標及びテーマ> 組織神学の中の倫理学を扱う。キリスト教倫理学の基本的な事柄、基礎論的な部分を扱う。</p>	
<p><授業の概要> 近代における倫理と宗教、倫理学と教義学の位置関係の変化、倫理学の根拠づけ、倫理学の構成などを扱う。</p>	
<p><履修条件> キリスト教通論など基礎科目を履修済みのこと。3年次になるべく履修すること</p>	
<p><授業計画> 第一回：組織神学と、その一部としての倫理学 第二回：近代における倫理と宗教の位置変化 第三回：組織神学における倫理学の基礎づけ（１）「自由主義神学の場合」 第四回：組織神学における倫理学の基礎づけ（２）「啓示による基礎づけ」 第五回：倫理学の構成（１）「主観的倫理学」 第六回：倫理学の構成（２）「客観的倫理学」 第七回：倫理学の方向（１）倫理学と歴史観 第八回：倫理学の方向（２）近代成立史の見方 第九回：補足、質疑 第十回：プロスタント的文化価値の意味（１）その成立 第十一回：プロスタント的文化価値の意味（２）憲法的価値との関係 第十二回：国家と社会（１）国家と社会それぞれの意味、構成、目的 第十三回：国家と社会（２）近代市民社会の成立 第十四回：国家と社会（３）国家と社会の倫理 第十五回：総括</p>	
<p><準備学習等の指示> 現代の倫理状況やその問題性などについて考え、テキストを読みながら出席すること。</p>	
<p><テキスト> 近藤勝彦『キリスト教倫理学』（2009年、教文館）（学生各自で購入）</p>	
<p><参考書> 諸神学者の倫理学的な文献、バルト、ティリッヒ、ニーバー、パネンベルクのものなど授業で指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席状況と試験によって評価する。</p>	

専門教育科目・組織神学関係	
組織神学Ⅱ b	近藤 勝彦
後期・2単位	<登録条件>組織神学Ⅱ a を履修していること
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教倫理学の基礎論を踏まえて、各論を扱う。</p>	
<p><授業の概要> 結婚と家族の倫理、ヴォランタリー・アソシエーションの倫理、平和の倫理、生命倫理、徳の倫理など各論を扱う。</p>	
<p><履修条件> 前期も履修していること。3年次に履修することが望ましい。</p>	
<p><授業計画> 第一回：結婚と家族の倫理（1）結婚革命 第二回：結婚と家族の倫理（2）カヴェナントとしての結婚と家族 第三回：ヴォランタリー・アソシエーションの倫理（1）その成立史 第四回：ヴォランタリー・アソシエーションの倫理（2）その倫理的意味 第五回：平和の倫理（1）パシフィズムと「正当なる戦争」 第六回：補充、質疑 第七回：平和の倫理（2）キリスト教現実主義 第八回：平和の倫理（3）正当なる戦争の限界 第九回：生命の倫理（1）アルバート・シュヴァイツァーとカール・バルト 第十回：生命の倫理（2）「自己決定と功利主義」の誤り 第十一回：生命の倫理（3）生命の尊厳と生命倫理 第十二回：徳の倫理（1）市民社会の徳とプロテスタント的徳 第十三回：徳の倫理（2）ハビット、キャラクター、コミュニティ 第十四回：徳の倫理（3）愛、勇気、平静 第十五回：まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> テキストを読むと共に、その都度の倫理主題について自ら考察を試みること</p>	
<p><テキスト> 近藤勝彦『キリスト教倫理学』（2009年、教文館）（学生各自で購入すること）</p>	
<p><参考書> 授業の中でその都度指示する。ボルノー『徳の現象学』（白水社、1983年）など。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業出席の状況と、テストの内容によって評価する。</p>	

専門教育科目・組織神学関係	
組織神学Ⅲ a	神代 真砂実
前期・2単位	<登録条件> 組織神学Ⅲ b と通年で履修（登録）すること
<授業の到達目標及びテーマ> 弁証学の基礎知識を学ぶ。	
<授業の概要> 前期は、キリスト教信仰の合理性について考察する。主にテキストに基づく発表と討議による。	
<履修条件> 組織神学Ⅰを履修済みであること。	
<授業計画> 第1回 オリエンテーションと序論（弁証学とは何か） Ⅰ. 宗教的議論とは何か 第2回 1. 論理実証主義の宗教批判 第3回 2. 宗教の心理学的解釈 Ⅱ. 無神論と悪の問題 第4回 3. 「悪の問題」とは何か 第5回 4. 自由意志による弁護 第6回 5. 神の基本性質 第7回 6. 神と自由 第8回 前半のまとめ Ⅲ. 神の存在論証 第9回 7. 宇宙論的論証 第10回 8. 目的論的論証 第11回 9. 存在論的論証 Ⅳ. 信仰と理性 第12回 10. 信仰の倫理 第13回 11. 信仰という選択 第14回 12. 「合理性」の行方 第15回 後半のまとめ	
<準備学習等の指示> テキストをきちんと読んでくること。	
<テキスト> 上枝美典、『「神」という謎——宗教哲学入門』、第二版、（世界思想社）。	
<参考書> 必要に応じて、授業中に挙げる。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 三分の二の出席を前提として、発表と期末のレポートの総合による。	

専門教育科目・組織神学関係	
組織神学Ⅲ b	神代 真砂実
後期・2単位	<登録条件> 組織神学Ⅲ aと通年で履修（登録）すること
<授業の到達目標及びテーマ> (前期と同じ)	
<授業の概要> 後期は「宗教の神学」と「日本の神学」という二つの主題を集中して考察する。併せて、基本的な文献を読む。	
<履修条件> (前期と同じ)	
<授業計画> <p>I. 宗教の神学</p> 第1回 序論——包括主義的アプローチ 第2回 1. H・リチャード・ニーバー 第3回 2. カール・ラーナー 第4回 3. ジョン・ベイリー 第5回 4. カール・バルト（予定論から） 第6回 5. カール・バルト（和解論から） 第7回 まとめ <p>II. 日本の神学</p> 第8回 1. 日本人の信仰をめぐる諸問題①「無宗教」の問題 第9回 同②日本人の宗教的特性とキリスト教信仰 第10回 2. 排耶論 第11回 3. 日本の神学の試み①門脇佳吉 第12回 同②北森嘉蔵 第13回 同③遠藤周作 第14回 4. 日本基督教団の問題との関連で見た「日本」の問題 第15回 まとめ——神学における経験の問題	
<準備学習等の指示> 配布されるテキスト（プリント）をよく読むこと。	
<テキスト> 配布されるプリント。	
<参考書> 必要に応じて、紹介する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 三分の二の出席を前提として、テキストについての発表と、二回のレポートによる。	

専門教育科目・歴史神学関係	
教会史 I	棚村 重行
前期・2単位	<登録条件> 学部3年で履修する。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 教会史の出発点にあたる古代教会史は、その後続く教会史のしくみや基礎をすえた時代である。そうした古代教会史の意義と発展の姿を史料や講義を通し学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 1) 古代ローマ帝政期の地中海世界に誕生した古代教会の形成と発展の過程を、二期に分けて、古代異教社会の「キリスト教化」の運動として考察する。2) 考察の焦点は、文明環境の社会・宗教的变化、国家と教会、教皇制の発展、教理神学、霊的生活の形成と伝道などである。</p>	
<p><履修条件> 世界史の基礎知識がある程度必要とされる。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 コース紹介、序論の講義：教会史をどう見るのか？古代教会史の学びの意義はなにか？</p> <p>第2回 古代ローマ文明の社会・宗教的变化概観（1）：「キリスト教化」をめぐるマクマーレン理論の紹介。</p> <p>第3回 社会・宗教变化概観（2）：P. ブラウンの理論の紹介と議論。議論の総括。</p> <p>第4回 国家と教会（1）：初期ローマ帝政期の宗教政策からコンスタンティヌス帝のキリスト教改宗までの政教関係の変化（BC27-AD313）を史料と講義でたどる。</p> <p>第5回 国家と教会（2）：コンスタンティヌスの改宗からフランク王国の成立まで（AD313-750）をたどる。</p> <p>第6回 中間試験（30分）。古代教会の職制の発展（1）：全般的な発展概観。</p> <p>第7回 職制の発展（2）：ローマ教皇制の発展を史料を読みつつ考える。</p> <p>第8回 教理と神学（1）：啓示、聖書と伝統をテーマとして、教理神学の発展をたどる。</p> <p>第9回 教理と神学（2）：三位一体論とキリスト論の教理の発展を描く。</p> <p>第10回 教理と神学（3）：救済論と教会論の発展を考察する。</p> <p>第11回 教理と神学（4）：東方教父：オリゲネスとアタナシオス神学について論じる。</p> <p>第12回 教理と神学（5）：西方教父：テルトゥリアヌスとアウグスティヌス神学を論じる。</p> <p>第13回 霊的生活：修道院運動の発展とゲルマン伝道について分析する</p> <p>第14回 結論：古代世界の「キリスト教化」運動が現代に意味するもの。</p> <p>第15回 まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> 予習よりも、復習に重きをおくこと。</p>	
<p><テキスト> 1. 棚村重行『現代人のための教理史ガイド』教文館。2. 木下他『詳説世界史研究』山川出版社（最新の増補改訂版）。</p>	
<p><参考書> 1. J. ダニエルー『キリスト教史1 初代教会』平凡社ライブラリー。2. H. J. マルー『キリスト教史2 教父時代』平凡社ライブラリー3. P. Brown, <i>The World of Late Antiquity</i>, W. W. Norton. 4. N. ブロッククス、関川訳『古代教会史』教文館。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 1. 期末試験、中間試験、授業出席などを総合して評価する。2. 授業を1/3以上無断欠席した者は評価の対象としない。</p>	

専門教育科目・歴史神学関係	
教会史Ⅱ	関川 泰寛
前期・2単位	<登録条件> 特になし
<p><授業の到達目標及びテーマ> 中世教会史を講義する。基礎的な知識の習得とともに、中世教会史の歴史史料を読み、理解を深める。</p>	
<p><授業の概要> 古代末期のアウグスティヌスの時代以降から宗教改革前までの中世教会史を原則として年代順に整理して学ぶと共に、重要事項は特別な項目を設けて詳細に講義する。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 古代末期のキリスト教 アウグスティヌスの生涯と神学 2 古代末期から中世キリスト教世界へⅠ 古代末期世界の崩壊とキリスト教伝道 3 古代末期から中世キリスト教世界へⅡ カール大帝の時代とキリスト教 4 中世における教会と国家Ⅰ 教皇権の衰退と帝国の再建による革新 5 中世における教会と国家Ⅱ オットー大帝の時代と教会の改革運動 6 中世における教会と国家Ⅲ 改革派による教皇権の強化と叙任権闘争 7 修道院と分派の活動Ⅰ 中世初期の新しい宗教運動 8 修道院と分派の活動Ⅱ シトー会とベルナルドゥス 9 修道院と分派の活動Ⅲ 中世の分派運動 10 修道院と分派の活動Ⅳ フランシスコ会とドミニコ会 11 十字軍とキリスト教 12 中世の大学と学問 13 中世のスコラ学 14 宗教改革以前の改革者・ディスカッション 15 総括 	
<p><準備学習等の指示> 世界史の知識が不足している学生は、木下他『詳説世界史研究』（山川出版社）の中世の章を読んでおくこと。</p>	
<p><テキスト> 特に定めない。講義のたびに、レジメと資料を配布する。</p>	
<p><参考書> ウォーカー『キリスト教史Ⅱ・中世教会』（ヨルダン社）（絶版）</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 定期試験とレポート、授業への参加状況による。</p>	

専門教育科目・歴史神学関係	
教会史Ⅲ	関川 泰寛
後期・2単位	<登録条件> 特になし
<p><授業の到達目標及びテーマ> 宗教改革時代の教会史を講義する。基礎的な知識の習得とともに、宗教改革時代の教会史の歴史史料を読み、理解を深める</p>	
<p><授業の概要> 16世紀初頭のルターによる宗教改革から初めて、スイス、ドイツ、イギリスなど、各地の宗教改革の歴史を時代ごとに概説する。同時に宗教改革時代の神学の特色を講義する。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 宗教改革の背景Ⅰ 政治・社会的背景 2 宗教改革の背景Ⅱ 思想・神学的背景 3 ルターと宗教改革のはじまり ―ルターの内面の葛藤と95か条の提題 4 ルターの神学Ⅰ 「宗教改革三大文書と信仰義認論」 5 ルターの神学Ⅱ 「教会論とサクラメント論」 6 宗教改革の分裂 7 スイス宗教改革Ⅰ 「ツヴィングリの改革」 8 スイス宗教改革Ⅱ 「再洗礼派の出現と神学」 9 カルヴァンの改革と神学 10 ドイツ・プロテスタンティズムの確立 11 イングランド宗教改革 12 ピューリタニズム 13 スコットランド宗教改革 14 ディスカッション 15 総括 	
<p><準備学習等の指示> この時代の世界史を復習しておくこと。木下他『詳説世界史研究』（山川出版社）の該当箇所を読んでおくとよい。</p>	
<p><テキスト> 特に定めない。講義のたびにレジメと資料を配布する。</p>	
<p><参考書> ウォーカー『キリスト教史Ⅲ 宗教改革』（ヨルダン社）（絶版）</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 試験、レポートなどで総合的に評価する。</p>	

専門教育科目・歴史神学関係	
教会史Ⅳ	棚村 重行
後期・2単位	<登録条件> 学部3年生が履修する。
<p><授業の到達目標及びテーマ> われわれが生きている近代・現代教会史は、それ以前の時代には想像もつかぬ巨大な挑戦、「近代性（モダニティ）」の衝撃を受けて、教会の伝統的の制度、教義、倫理が烈しく変化する時代である。その変貌ぶりと諸課題を史料と講義をとおして学んでみたい。</p>	
<p><授業の概要> 1. 近代・現代世界（1650-2000）を三期に分け、世界文明的な環境のなかで、「近代性」の衝撃を受け、革命的变化を経験した欧米キリスト教世界の動向を概観する。2. 主要国民国家別に国家と教会の「世俗化」や「宗教的自由化」、霊的生活と神学における「両極化＝二党派化」「多元化」といった現象に焦点をあてる。</p>	
<p><履修条件> 世界史の基礎知識がある程度必要である。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 コース紹介。導入講義（一）：「近代性（モダニティ）の挑戦と文明および宗教生活の変貌」。とくに文明生活と宗教生活の変化として「世俗化」、「市民宗教」や「公民宗教」の成立などを学ぶ。</p> <p>第2回 導入講義（二）：近代・現代世界における啓蒙主義やロマン主義思想、信仰復興運動や敬虔主義のような宗教運動、アルミニウス主義やエキュメニズムなどの神学運動の諸概念を整理する。</p> <p>第3回 盛期近代（1）：フランスを中心としたカトリック文明圏における国家と教会、神学と霊的生活を考察する。</p> <p>第4回 盛期近代（2）：英国における国教会、ピューリタン諸派、メソヂスト運動などを検討する。</p> <p>第5回 盛期近代（3）：ドイツ語圏における国家と教会、神学と霊的生活運動、敬虔主義などを概観する。</p> <p>第6回 盛期近代（4）：中間テスト。イタリアやカトリック圏における国家と教会、神学と霊的生活運動を考える。</p> <p>第7回 盛期近代（5）：北アメリカという宗教的多元社会における政教分離、それにとまなう様々な宗教生活の変化を辿り、その世界史意義を問う。</p> <p>第8回 後期近代（1）：ドイツとドイツ語圏における哲学、神学の変化、国家と教会関係の変貌などを辿り、ドイツの「神学的リーダーシップ」に注目する。</p> <p>第9回 後期近代（2）：フランス/イタリアという代表的カトリック圏での、国家と教会、また神学と霊的生活の方向性、とくに「近代性」と対決する第一ヴァチカン公会議路線の意義を学ぶ。</p> <p>第10回 後期近代（3）：「ヴィクトリア朝」のイギリスにおける国家と教会、神学と霊的生活、とくに信仰復興運動やエキュメニズムが全世界、とくに東アジアに与えた影響を中心に考察する。</p> <p>第11回 後期近代（4）：北アメリカと東アジアを視野に収め、とくに南北戦争後の北アメリカの国家と宗教、神学と霊的生活運動が東アジア伝道に対してもつ意義を論じる。</p> <p>第12回 現代（1）：現代プロテスタント教会の神学や霊的生活の問題を論じる。</p> <p>第13回 現代（2）：現代ローマ・カトリック教会、特に第二ヴァチカン公会議の世界史的意義を論じる。</p> <p>第14回 結論：「近代性」の挑戦と近・現代文明および世界教会への意義をまとめる。</p> <p>第15回 まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> 予習よりも、復習が大切である。</p>	
<p><テキスト> 1. 棚村重行『現代人のための教理史ガイド』教文館。2. 木下他『詳説世界史研究（増補改訂版）』山川出版社。</p>	
<p><参考書> 1. G. R. Cragg, <i>The Church and the Age of Reason, 1648-1789</i>. The Pelican History of the Church. 2. A. R. Vidler. <i>The Church in an Age of Revolution</i>. The Pelican History of the Church.</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 1. 中間試験、期末試験、授業出席などを総合して評価を与える。2. 授業への欠席が1/3以上の場合には評価を与えない。</p>	

専門教育科目・歴史神学関係	
教会史Ⅴ	小室 尚子
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>16世紀のキリスト教宣教開始以来の、日本における教会形成の歴史を学ぶ。多くの試練の中、教会がどのように展開されて来たのかを学ぶことによって、現代において宣教に遣わされる者が歴史的視点に立って何を受け継ぎ、伝えて行くのかを確認することを目標とする。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>キリシタンの時代から現代までの歴史と展開／日本の伝統思想との対決／現代における教会の問題（日本基督教団の問題と課題を中心に）と3つのテーマによって講義を進める。</p>	
<p><履修条件></p> <p>宗教史Ⅱを履修済であることが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序論：日本教会史を学ぶ意義 2. キリスト教伝来前史 3. キリシタンの歴史（1549～1873） 4. キリシタン受容の内的要因 5. キリシタン迫害下での教会形成 6. プロテスタント・キリスト教の移入と教会の展開（1859～現代） 7. 1859～1912（教会の形成期） 8. （1）公会主義と教派主義 9. （2）福音理解 10. （3）教育史におけるキリスト教の貢献と弾圧 11. 1912～1926（教会の発展期） 12. 1926～現代（教会の試練と解放） 13. （1）戦時下、日本基督教団の成立 14. （2）戦後の各教派 15. （3）現代、日本基督教団が抱えた問題と課題 	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト></p> <p>鵜沼裕子『史料による日本キリスト教史』聖学院大学出版会 『日本キリスト教史年表[改訂版]』日本キリスト教歴史大事典編集委員会編 教文館</p>	
<p><参考書></p> <p>初回講義において紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>レポート（期末に提出）によって評価する。 出席が全講義回数数の2／3に満たないものは評価の対象としない。</p>	

専門教育科目・歴史神学関係	
宗教史 I	棚村 重行
前期・2単位	<登録条件> 学部3年生が履修すること。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 日本とアジア伝道の推進のためにも、教会史の学びとともに、宗教史の学びがどれほど大切であり、また役に立つかを、世界諸宗教の生活と歴史の検討を通して修得していきたい。</p>	
<p><授業の概要> 本講義の視点である「文明世界史の一宗教史的考察」の方法を明らかにする。続いて、ケース・スタディとして日本を含む現代世界の諸文明と、諸宗教共同体の宗教史的な類型、発展を概観し、21世紀における世界宗教の環境の中でプロテスタント伝道と教会形成の諸課題を明らかにする。</p>	
<p><履修条件> 世界史や教会史の基礎知識が必要とされるので、学部3年以上で履修するのが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 スケジュールの紹介、コースにかんする質疑応答。</p> <p>第2回 序論（1）：宗教研究の歴史と宗教史理論の紹介と課題の提起を講義により行う。</p> <p>第3回 序論（2）：本講義の「文明世界史－宗教史的」視点とはなにかを論じる。</p> <p>第4回 序論（3）：国家と宗教の関係についての概念、とくに市民宗教、公民宗教、政治的疑似宗教などの概念の整理を行う。</p> <p>第5回 ケース・スタディ（1）：世界におけるユダヤ教の宗教生活の特徴、歴史を資料と講義でたどる。</p> <p>第6回 ケース（2）：世界におけるギリシア正教とローマ・カトリック教会の性格や歴史をたどる。</p> <p>第7回 ケース（3）：世界におけるキリスト教、とりわけプロテスタント諸教派の歩みをたどる。</p> <p>第8回 ケース（4）：世界におけるイスラム教の宗教生活の特徴や歴史を論じる。</p> <p>第9回 ケース（5）：インド文明におけるヒンドゥー教の本質や歴史を紹介し、アジア伝道の課題を論じる。</p> <p>第10回 ケース（6）：南、東アジア文明における仏教の成立と伝播の特徴や歴史をたどる。</p> <p>第11回 ケース（7）：中国文明と諸宗教と題し、中国の伝統的宗教生活とその影響について論じる。</p> <p>第12回 ケース（8）：朝鮮、韓国文明における諸宗教として、とくに仏教、儒教、キリスト教などの展開と現代の韓国宗教事情などを学ぶ。</p> <p>第13回 ケース（9）：日本文明における諸宗教(1)として、とくに「日本教」の生活のなかで神道の伝統を学ぶ。</p> <p>第14回 ケース（10）：日本文明における諸宗教（2）として、とくに「日本教」内の仏教の土着化と変容の経験を学び、日本伝道の教訓を得たい。</p> <p>第15回 まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> 1. あらかじめ、テキストを読んでおくこと。2. だが、全体としては復習を重視すること。</p>	
<p><テキスト> 後に指示する。</p>	
<p><参考書> J. ヴァッハ『宗教の比較研究』渡辺学他訳（京都：法蔵館、1999）。脇本平也（つねや）『宗教学入門』講談社学術文庫（東京：講談社、2001）。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 1. 期末試験、授業出席などを総合して評価を与える。2. 授業の1/3以上無断で欠席したものは、評価の対象としない。</p>	

専門教育科目・歴史神学関係	
宗教史Ⅱ	小室 尚子
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>宗教史Ⅱでは、日本における諸宗教（とくに古代における宗教形態、神道、仏教、儒教を中心に）の歴史と日本的展開を概説するとともに、16世紀キリスト教伝来後の、キリスト教とそれらの宗教との関係を学ぶ。また単に、諸宗教の歴史を学ぶにとどまらず、課程修了後には、この日本においてキリスト教宣教の使命を担うことになる学生たちが、宣教活動において直面するであろう諸宗教に裏打ちされた日本の伝統的思想との交渉に、どのように対応していくのかを考え始めることも目標とする。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>日本における諸宗教の歴史的・日本的展開、およびその内容・形態の概説と、キリスト教伝来後の、キリスト教とそれらの宗教との関係を学ぶ。また歴史的に培われた日本人の伝統的思想に基づいた現代日本人の宗教観を分析・考察し、福音宣教における諸問題の克服への緒を探る。</p>	
<履修条件>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序論：キリスト教受容における（日本人の）問題点 2. 宗教と世界観の関係 3. キリスト教の世界観 4. 日本宗教史概観 5. 日本人のカミ観念の形成 6. 仏教伝来と「神道」成立 7. 「習合」という形態 8. 日本仏教とその特質 9. 中国の宗教の日本的展開 10. 民衆の宗教 11. 「日本宗教」 12. 日本とキリスト教：歴史と弾圧（1）日本人の精神的伝統とキリスト教 13. 日本とキリスト教：歴史と弾圧（2）日本的キリスト教 14. 日本におけるキリスト教の土着化の問題（1）宣教における諸問題 15. まとめ（教会の課題） 	
<準備学習等の指示>	
<p><テキスト></p> <p>担当者がプリント教材を用意する。</p>	
<p><参考書></p> <p>初回授業において参考文献表を配布する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>レポート（期末に提出）による評価 出席が全講義回数数の2／3に満たないものは評価の対象としない。</p>	

専門教育科目・実践神学関係	
実践神学概論 a	小泉 健
前期・2単位	<登録条件> 通年で登録すること
<p><授業の到達目標及びテーマ> 実践神学の四大領域の概略に触れつつ、実践神学的思考について学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 前期は実践神学全体を概観した上で、実践神学基礎論としての教会論と説教を扱う。</p>	
<p><履修条件> 学部最終学年において履修のこと。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 神学とは何か、実践神学とは何か 第2回 実践神学とは何か（その1）実践神学の歴史 第3回 実践神学とは何か（その2）「実践」と「神学」 第4回 実践神学とは何か（その3）さまざまな実践神学 第5回 実践神学とは何か（その4）日本の教会のための実践神学 第6回 教会建設論（その1）教会建設論の歴史 第7回 教会建設論（その2）さまざまな教会建設論 第8回 教会建設論（その3）実践神学基礎論としての教会論 第9回 教会建設論（その4）伝道する教会の建設 第10回 説教（その1）説教とは何か 第11回 説教（その2）誰が説教するのか 第12回 説教（その3）誰にどこで説教するのか 第13回 説教（その4）何を、いかに説教するのか 第14回 礼拝学（その1）礼拝を考える 第15回 礼拝学（その2）1、2世紀の教会の礼拝</p>	
<p><準備学習等の指示> 教室で配布される資料をていねいに読むこと。</p>	
<p><テキスト> 必要に応じて教室でプリントを配布する。</p>	
<p><参考書> 加藤常昭『教会とは何か』東神大パンフレット2 山口隆康『アブラハムと実践神学』東神大パンフレット27 その他については授業中に文献表を配布する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> レポートによって評価する。 理由なく授業の三分の一以上を欠席した者は、レポートを提出することができない。</p>	

専門教育科目・実践神学関係	
実践神学概論 b	小泉 健
後期・2単位	<登録条件> 通年で登録すること
<p><授業の到達目標及びテーマ> 実践神学の四大領域の概略に触れつつ、実践神学的思考について学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 後期は礼拝学、牧会学、キリスト教教育学を扱う。</p>	
<p><履修条件> 学部最終学年において履修のこと。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 礼拝学（その3）3, 4世紀の教会の礼拝 第2回 礼拝学（その4）宗教改革の教会の礼拝 第3回 礼拝学（その5）宗教改革以後の教会の礼拝 第4回 礼拝学（その6）わたしたちの礼拝再考 第5回 牧会学（その1）牧会とは何か 第6回 牧会学（その2）さまざまな牧会の理解 第7回 牧会学（その3）牧会の課題 第8回 牧会学（その4）牧会の場（結婚、病、死別） 第9回 牧会学（その5）牧会の方法（祈り、指導、訪問、手紙） 第10回 牧会学（その6）告解と相互牧会 第11回 牧会学（その7）教会法・戒規 第12回 キリスト教教育学（その1）教育、養育、指導 第13回 キリスト教教育学（その2）さまざまな教育の理解 第14回 キリスト教教育学（その3）教育の場と対象 第15回 キリスト教教育学（その4）受洗準備教育・カテキズム教育</p>	
<p><準備学習等の指示> 教室で配布される資料をていねいに読むこと。</p>	
<p><テキスト> 必要に応じて教室でプリントを配布する。</p>	
<p><参考書> レイモンド・アバ『礼拝 その本質と実際』教団出版局 E. トゥルナイゼン『牧会学 I』教団出版局 その他については授業中に文献表を配布する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> レポートによって評価する。 理由なく授業の三分の一以上を欠席した者は、レポートを提出することができない。</p>	

専門教育科目・実践神学関係	
キリスト教教育概論 a	朴 憲郁
前期・2単位	<登録条件> 通年登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教教育の歴史と、諸形態と、理論を学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 二千年のキリスト教史における種々の教育形態の機能と意義を考察しながら、キリスト教教育の本質と目的を明らかにし、それを今日の教育的業に資するものとしたい。</p>	
<p><履修条件> 特にない。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キリスト教教育とは何か？ 一般教育との関連と相違 2. キリスト教教育と神学 3. 聖書における「教育」の理解 ― パウロ神学の場合 神学的人間理解に基づくキリスト教教育 4. 原始キリスト教時代-1. 使徒時代 5. 原始キリスト教時代-2. 使徒後時代 6. 古カトリック教会時代 7. 中世の学校：修道院（または僧院）学校（monastic school）、他 8. 中世の教育の特徴としての象徴主義―その意義と問題 9. 近世社会の諸特徴 2) 教育史上の特徴：ルネサンスと宗教改革 10. ルターとカルヴァンの教育思想と実践 4) カトリック教会の教育改革 11. プロテスタンティズムの教育運動 6) 近世後期ヨーロッパのキリスト教 12. 東北アジアのキリスト教教育 13. 現代 14. 現代的人間の特性とキリスト教教育 15. 伝道とキリスト教教育 	
<p><準備学習等の指示> 随時、必要に応じて課題を課す。</p>	
<p><テキスト> 特に指定はせず、その都度プリント配布する。</p>	
<p><参考書> John L. Elis, A History of Christian Education, Florida, 2002 その他、随時、紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 定期試験の結果で評価する。 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

専門教育科目・実践神学関係	
キリスト教教育概論 b	朴 憲郁
後期・2単位	<登録条件> 通年登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 日本におけるプロテスタント・キリスト教の教会、家庭、学校の歴史的経緯と実態を把握する。</p>	
<p><授業の概要> 日本におけるプロテスタント・キリスト教教育史を概観しつつ、その務めと課題を明らかにする。</p>	
<p><履修条件> 特になし。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教会学校史(序、第一期～第五期) 2. 教会学校の意義と使命 3. 教会論的基礎づけ 4. キリスト教幼児教育について 5. その歴史的経緯 6. 幼稚園のキリスト教教育 7. 初等・中等教育—公教育の一環としてのキリスト教教育 8. 欧米におけるキリスト教学校の展開、他 9. 大学教育：1) キリスト教大学のヴィジョン 10. 日本の大学の意義と課題 11. 聖書の家庭教育 12. 教会史上の家庭教育 13. 家庭の教育的役割、 14. 家庭のキリスト教教育確立のために 15. キリスト教家庭教育の方策 	
<p><準備学習等の指示> 随時、必要に応じて課題を課す。</p>	
<p><テキスト> 『日本における教会教育の歩み』(1858～2006)、NCC 教育部歴史編纂委員会編、教文館、2007年、(5月発行) 各自注文して用意すること。</p>	
<p><参考書> 随時、授業の中で諸資料を紹介していく。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 定期試験の結果で評価する。 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

専門教育科目・学部演習	
旧約聖書学部演習 a	大住 雄一
前期・2単位	<登録条件>a,b 両方とも登録すること
<授業の到達目標及びテーマ>旧約聖書神学の基本的な知識を習得し、聖書学的に考える訓練をする。	
<授業の概要>今回は、十戒（出エジプト記 20:2-17, 申命記 5:6-21）のテキストを読み、解釈の諸方法を吟味しつつ、テキストを読むとはどういうことであるかを体験する。 前期（a）は、十戒をめぐる研究書（クリュゼマン『自由の擁護』とシュミット『十戒』）を読む。	
<履修条件>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入：釈義方法論と神学 2. 十戒のテキスト 3. 伝承史と社会史 4. 十戒の定義と序文の意味 5. 第一戒 6. 第二戒 7. 第三戒 8. 第四戒 9. 第五戒 10. 第六戒 11. 第七戒 12. 第八戒 13. 第九戒 14. 第十戒 15. まとめ 十戒の神学 	
<準備学習等の指示>	
<テキスト>F・クリュゼマン（大住訳）『自由の擁護 社会史の視点から見た十戒の主題』新教出版社、W・H・シュミット『十戒 旧約倫理の枠組みの中で』教文館 各自で用意すること。	
<参考書>	
<学生に対する評価（方法・基準）>割り当てられた発表と授業の討論への参加度によって評価する。	

専門教育科目・学部演習	
旧約聖書学部演習 b	大住 雄一
後期・2単位	<登録条件>a,b 両方とも登録すること
<p><授業の到達目標及びテーマ>旧約聖書神学の基本的な知識を習得し、聖書学的に考える訓練をする。</p>	
<p><授業の概要>今回は、十戒（出エジプト記 20:2-17, 申命記 5:6-21）のテキストを読み、解釈の諸方法を吟味しつつ、テキストを読むとはどういうことであるかを体験する。 後期は、出エジプト記 20:2-17, 申命記 5:6-21 のヒブル語テキストを読み、釈義の手順を身に付ける。</p>	
<履修条件>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入：ヒブル語テキスト釈義の道具立てと手順 2. 二つの十戒テキストの比較 3. 十戒解釈史概観 4. 現代の研究状況概観 5. 第一戒 6. 第二戒 7. 第三戒 8. 第四戒 9. 第五戒 10. 第六戒 11. 第七戒 12. 第八戒 13. 第九戒 14. 第十戒 15. まとめ 	
<準備学習等の指示>	
<テキスト>Biblia Hebraica Stuttgartensia	
<参考書> 各回の授業で、当該箇所の研究論文を紹介する。	
<学生に対する評価（方法・基準）>割り当てられた発表と授業の討論への参加度によって評価する。	

専門教育科目・学部演習	
新約聖書学部演習 a	焼山 満里子
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ>後期に学部論文を書くことを念頭に新約聖書学の研究書を読む。テキストの内容はもとより、新約聖書学の議論の仕方を学ぶ。</p>	
<p><授業の概要>テキストを分担し読む。担当を決め、発表と議論によって理解を深める。</p>	
<p><履修条件>学部4年の新約専攻および希望者。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 『イエスの死』 一章 「イエスの死をめぐる議論」 総論 3. 『イエスの死』 一章 「イエスの死をめぐる議論」 研究史 4. 『イエスの死』 一章 「イエスの死をめぐる議論」 批判的検討 5. 『イエスの死』 二章 「犠牲の子羊イエス」 6. 『イエスの死』 三章 「契約の犠牲」 7. 『イエスの死』 四章 「ローマ3：26」 8. 『イエスの死』 五章 「罪祭」 9. 『イエスの死』 六章 「我らのためのイエスの死」 10. 『イエスの死』 七章 「イエスの犠牲死」 11. 『イエスの死』 八章 「請け出し」 12. 『イエスの死』 九章 「密儀宗教における死との比較」 13. 『イエスの死』 十章 「罪責証書からの解放」 14. 『イエスの死』 十一章 「和解」 15. 総括 <p>ただし、担当者の関心によって適宜調整する</p>	
<p><準備学習等の指示>担当箇所の発表、議論のために準備をして参加すること。</p>	
<p><テキスト>フリートリッヒ『イエスの死』日本基督教団出版局、1987年 古本等を入手することを勧める。入手不可能なときは担当者が準備する。</p>	
<p><参考書>適宜紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）>出席（10回以上を求める）、授業参加、期末試験。</p>	

専門教育科目・学部演習	
新約聖書学部演習 b	焼山 満里子
後期・2単位	<登録条件>
<授業の到達目標及びテーマ>学部論文作成。	
<授業の概要>論文の書き方、形式を学ぶ。クラスでテキストに従い釈義を進めつつ、各自論文のテーマを決め、論文を作成する。	
<履修条件>学部4年新約専攻。新約聖書学学部演習 a 履修済みのこと。	
<授業計画> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 論文の形式について 3. 釈義ステップ1, 2 4. 釈義ステップ3 5. 釈義ステップ4 6. 釈義ステップ5 7. 釈義ステップ6 8. 釈義ステップ7 9. テーマの選定 10. 釈義ステップ8 11. 釈義ステップ9-13 12. テーゼを決定 13. 論文の中間報告と議論 14. 論文の修正、形式の見直し 15. 論文提出 	
<準備学習等の指示>釈義のステップにそって各自釈義し授業に参加すること。	
<テキスト>G.D.フィー『新約聖書の釈義』教文館、1983年。各自準備すること。	
<参考書>適宜紹介する。	
<学生に対する評価(方法・基準)>出席(10回以上を求める)、授業参加、論文によって評価する。	

専門教育科目・学部演習	
組織神学学部演習 a	神代 真砂実
前期・2単位	<登録条件>組織神学学部演習 b と通年で履修・登録することを原則とする
<p><授業の到達目標及びテーマ> 組織神学的に考え、叙述する技法を身に着けること。</p>	
<p><授業の概要> 後期における卒業論文作成の準備。</p>	
<p><履修条件> 学部4年生で卒業を予定している者。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 「パラグラフ」の書き方①：パラグラフとは何か 第3回 「パラグラフ」の書き方②：パラグラフを書くための基礎知識 第4回 「パラグラフ」の書き方③：パラグラフを書いてみる 第5回 卒業論文の主題について（各自による発表） 第6回 小レポートの作成①：資料を読む 第7回 小レポートの作成②：要約する 第8回 小レポートの作成③：構想を練る 第9回 卒業論文の主題と文献について（各自による発表） 第10回 小レポートの作成④：註と文献表の書き方 第11回 小レポートの作成⑤：提出されたものの検討（数名ずつ） 第12回 小レポートの作成⑥：同上 第13回 卒業論文主題の最終決定（各自による発表：数名ずつ）① 第14回 同上② 第15回 まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> 課題をきちんとやってくること。</p>	
<p><テキスト> 泉忠司、『90分でコツがわかる！ 論文&レポートの書き方』（青春出版社）</p>	
<p><参考書> 必要に応じて、授業中に指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 三分の二以上の出席を前提として、学期中の課題によって評価する。</p>	

専門教育科目・学部演習	
組織神学学部演習 b	神代 真砂実
後期・2単位	<登録条件>組織神学学部演習 a と通年で履修・登録することを原則とする
<p><授業の到達目標及びテーマ> 学部卒業論文の作成。</p>	
<p><授業の概要> 受講者を三つのグループに分け、中間発表を重ねながら、卒業論文を作成する。</p>	
<p><履修条件> 前期と同じ。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第一サイクル（文献表・主要文献の内容概観の発表） 第1回 第1グループのメンバー各自の発表 第2回 第2グループのメンバー各自の発表 第3回 第3グループのメンバー各自の発表</p> <p>第二サイクル（1,000字程度を執筆してくる） 第4回 第1グループのメンバー各自の発表 第5回 第2グループのメンバー各自の発表 第6回 第3グループのメンバー各自の発表</p> <p>第三サイクル（2,000字程度を執筆してくる） 第7回 第1グループのメンバー各自の発表 第8回 第2グループのメンバー各自の発表 第9回 第3グループのメンバー各自の発表</p> <p>第四サイクル（3,000字程度を執筆してくる） 第10回 第1グループのメンバー各自の発表 第11回 第2グループのメンバー各自の発表 第12回 第3グループのメンバー各自の発表</p> <p>第五サイクル（4,000字程度を執筆してくる） 第13回 第1グループのメンバー各自の発表 第14回 第2グループのメンバー各自の発表 第15回 第3グループのメンバー各自の発表</p>	
<p><準備学習等の指示> 論文作成に積極的に取り組むこと。</p>	
<p><テキスト> (なし)</p>	
<p><参考書> (なし)</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 三分の二の出席を前提として、最終的に提出された卒業論文によって評価する。</p>	

専門教育科目・学部演習	
歴史神学学部演習 b	棚村 重行
後期・2単位	<登録条件> 学部4年生を対象。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 後期は「ワークショップ」として、各教会史書評、自分の研究発表を行う。</p>	
<p><授業の概要> セミナーの前半では、学生が選択した各個教会史の書評を行う。後半は各自のテーマに従い、卒業論文の準備を兼ねた発表をする。</p>	
<p><履修条件> 学部4年生で歴史神学で学部卒業論文を作成する者。</p>	
<p><授業計画> 1. スケジュール決定。分担決定。</p> <p>2. レクチャー「書評の技法について」。</p> <p>3. 教会史書評の発表（1）</p> <p>4. 同上（2）</p> <p>5. 同上（3）</p> <p>6. 同上（4）</p> <p>7. 同上（5）</p> <p>8. レクチャー 最近の歴史神学入門書ないし理論を読む。</p> <p>9. 研究発表（1）</p> <p>10. 同上（2）</p> <p>11. 同上（3）</p> <p>12. 同上（4）</p> <p>13. 同上（5）</p> <p>14. 総合討論：質疑応答</p> <p>15. まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> 授業のなかで指示する。</p>	
<p><テキスト> 授業のなかで指示する。</p>	
<p><参考書> 授業の中で指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 1／3以上無断で欠席をしないこと。評価は発表と討論参加の態度、卒業論文の内容を総合して与える。</p>	

専門教育科目・神学書講読	
英語神学書講読・聖書 I	焼山 満里子
前期・2単位	<登録条件>通年が望ましい。
<授業の到達目標及びテーマ>新約聖書学の研究書を読む力を養う。	
<授業の概要>毎授業、新約聖書学の研究書を読む。自分が担当する箇所をあらかじめ日本語訳し、授業では訳を検討しあう。	
<履修条件>英語Ⅱ履修済みか同程度の英語読解力を有すること。	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (英和辞書持参のこと) 2. テキスト 第一章 Paul and the Corinthians p. 1 3. テキスト 第一章 Paul and the Corinthians p. 2 4. テキスト 第一章 Paul and the Corinthians p. 3 5. テキスト 第一章 Paul and the Corinthians p. 4 6. テキスト 第一章 Paul and the Corinthians p. 5 7. テキスト 第一章 Paul and the Corinthians p. 6 8. 1-7回までのまとめ 9. テキスト 第一章 Paul and the Corinthians p. 7 10. テキスト 第一章 Paul and the Corinthians p. 8 11. テキスト 第一章 Paul and the Corinthians p. 9 12. テキスト 第一章 Paul and the Corinthians p. 10 13. テキスト 第一章 Paul and the Corinthians p. 11 14. テキスト 第一章 Paul and the Corinthians p. 12 15. テキスト 第一章 Paul and the Corinthians まとめ 	
<準備学習等の指示>担当箇所を和訳してくること。	
<p><テキスト></p> <p>Victor Furnish, <i>The Theology of the First Letter to the Corinthians</i>, Cambridge: Cambridge University press, 1999. 初回の授業時に配布する。</p>	
<p><参考書></p> <p>英和辞書、英文法書を各自使いやすいものを準備する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)></p> <p>出席(単位を取得するために10回以上の出席を求める)、授業参加、中間、適宜行う試験により評価する。</p>	

専門教育科目・神学書講読	
英語神学書講読・聖書Ⅱ	焼山 満里子
後期・2単位	<登録条件>通年が望ましい。
<授業の到達目標及びテーマ>新約聖書学の研究書を読む力を養う。	
<授業の概要>毎授業、新約聖書学の研究書を読む。自分が担当する箇所をあらかじめ日本語訳し、授業では訳を検討しあう。	
<履修条件>英語Ⅱ履修済みか同程度の英語読解力を有すること。	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (英和辞書持参のこと) 2. テキスト第一章 Approaching I Corinthians, p.13 3. テキスト第一章 Approaching I Corinthians, p.14 4. テキスト第一章 Approaching I Corinthians, p.15 5. テキスト第一章 Approaching I Corinthians, p.16 6. テキスト第一章 Approaching I Corinthians, p.17 7. テキスト第一章 Approaching I Corinthians, p.18 8. 1-7回のまとめ 9. テキスト第一章 Approaching I Corinthians, p.19 10. テキスト第一章 Approaching I Corinthians, p.20 11. テキスト第一章 Approaching I Corinthians, p.21 12. テキスト第一章 Approaching I Corinthians, p.22 13. テキスト第一章 Approaching I Corinthians, p.23 14. テキスト第一章 Approaching I Corinthians, p.24 15. 9-14回のまとめ 	
<準備学習等の指示>担当箇所を和訳してくること。	
<テキスト>Victor Furnish, The Theology of the First Letter to the Corinthians, Cambridge: Cambridge University press, 1999. 初回の授業時に配布する。	
<参考書>英和辞書、英文法書。各自使いやすいものを準備する。	
<p><学生に対する評価(方法・基準)></p> <p>出席(単位を取得するために10回以上の出席を求める)、授業参加、適宜行う試験により評価する。</p>	

専門教育科目・神学書講読	
独語神学書講読・聖書 I	大住 雄一
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 聖書学論文においても、ドイツ語だからできる議論があり、また、もちろん議論がドイツ語の制約を受ける場合がある。ドイツ語で書かれた聖書学論文を読むという体験を共有したい。</p>	
<p><授業の概要> Frank Crüsemann, Die Tora. Theologie und Sozialgeschichte des alttestamentlichen Gesetzes, München, 1992 の問題設定部分を厳密に読む。</p>	
<履修条件>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 聖書学論文のドイツ語 第1章 Die Tora im Pentateuch 2. Das Manna, das ist die Frage, die Fragerei, “was ist das?” 3. トーラーとキリスト教神学 4. 律法と福音 5. マルティン・ノートとバルト神学 6. イスラエルの法と神の意志 7. 新約聖書における律法 8. キリスト者と律法 9. 唯一のトーラーと諸法集の順序 10. 歴史的批判的研究における法集形成の順序 11. 新しい文献批判 12. 古代オリエントの法文化とイスラエルの信仰 13. アルブレヒト・アルトとその後 14. 出エジプト記 34 章の法と「契約の書」 15. 法制史と社会史 	
<準備学習等の指示> 取り扱う箇所を出来る限り正確に和訳して授業に臨むこと	
<テキスト> 授業に関係する箇所のコピーを第一回授業時に配付する。	
<参考書>	
<学生に対する評価（方法・基準）> 毎回準備した翻訳を発表する。その内容によって成績をつける。	

専門教育科目・神学書講読	
独語神学書講読・聖書Ⅱ	大住 雄一
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 聖書学論文においても、ドイツ語だからできる議論があり、また、もちろん議論がドイツ語の制約を受ける場合がある。ドイツ語で書かれた聖書学論文を読むという体験を共有したい。</p>	
<p><授業の概要> Frank Crüsemann, Die Tora. Theologie und Sozialgeschichte des alttestamentlichen Gesetzes, München, 1992 の「歴史的枠組み」の章を厳密に読む。</p>	
<p><履修条件> テキストの箇所は独語神学書講読・聖書Ⅰの続きであるが、Ⅱのみの履修可。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Der historische Rahmen 2. Prophetische Kritik schriftlichen Rechts 3. ホセア 8 章 12 節 4. 北王国における「神によって書かれた法」 5. 書かれた法の内容と預言者による批判 6. ユダ王国における 8 世紀の預言者 7. イザヤ 10 章 1-2 節 8. 最も弱い者に対する諸法規 9. 7 世紀の預言者における法 10. エレミヤ 8 章 8-9 節 11. 王国の書記たちと主の律法 12. 律法のテキストが先か預言者が先か 13. 律法の言葉の特質 14. 社会史的方法の意味 15. まとめ 	
<p><準備学習等の指示> 取り扱う箇所を出来る限り正確に和訳して授業に臨むこと</p>	
<p><テキスト> 授業に関係する箇所のコピーを第一回授業時に配付する。</p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 毎回準備した翻訳を発表する。その内容によって成績をつける。</p>	

専門教育科目・神学書講読	
英語神学書講読・組織 I	神代 真砂実
前期・2単位	<登録条件>学期ごとに履修（登録）できる
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>①特に組織神学の分野における英語の語彙を獲得すること、②組織神学的思考を身に着けること、③英語読解力の向上。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>ロヴィンによる第一次と第二次の世界大戦の間に登場したキリスト教倫理についての研究を学ぶ。一人ずつあてて、訳してもらう。</p>	
<p><履修条件></p> <p>英語Ⅱを履修済みか、それと同等以上の学力を有していること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 テキスト pp. 1-2。 第3回 同 pp. 2-4。 第4回 同 pp. 4-5。 第5回 同 pp. 5-6。 第6回 同 pp. 6-7。 第7回 同 pp. 7-8。 第8回 同 pp. 8-9。 第9回 同 pp. 9-10。 第10回 同 pp. 10-11。 第11回 同 pp. 11-12。 第12回 同 pp. 12-13。 第13回 同 pp. 13-14。 第14回 同 pp. 14-15。 第15回 同 pp. 15-17。</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>予習してくること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>Robin W. Lovin, <i>Christian Faith and Public Choices</i> (Philadelphia: Fortress Press, 1984), pp. 1-17. (担当者が用意する)</p>	
<p><参考書></p> <p>(特になし)</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>三分の二以上の出席を前提として、授業中の和訳の出来と毎回の小テストによって評価する（各 50%）。</p>	

専門教育科目・神学書講読	
英語神学書講読・組織Ⅱ	神代 真砂実
後期・2単位	<登録条件>学期ごとに履修（登録）できる
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>①特に組織神学の分野における英語の語彙を獲得すること、②組織神学的思考を身に着けること、③英語読解力の向上。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>ロヴィンによる第一次と第二次の世界大戦の間に登場したキリスト教倫理についての研究を学ぶ。一人ずつあてて、訳してもらう。</p>	
<p><履修条件></p> <p>英語Ⅱを履修済みか、それと同等以上の学力を有していること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 テキスト pp. 18-20。 第3回 同 pp. 20-22。 第4回 同 pp. 22-24。 第5回 同 pp. 24-26。 第6回 同 pp. 26-28。 第7回 同 pp. 28-30。 第8回 同 pp. 30-32。 第9回 同 pp. 32-34。 第10回 同 pp. 34-36。 第11回 同 pp. 36-38。 第12回 同 pp. 38-40。 第13回 同 pp. 40-42。 第14回 同 pp. 42-44。 第15回 まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>予習してくること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>Robin W. Lovin, <i>Christian Faith and Public Choices</i> (Philadelphia: Fortress Press, 1984), pp. 18-44. (担当者が用意する)</p>	
<p><参考書></p> <p>(特になし)</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>三分の二以上の出席を前提として、授業中の和訳の出来と毎回の小テストによって評価する（各 50%）。</p>	

専門教育科目・神学書講読	
独語神学書講読・組織Ⅱ	芳賀 力
後期・2単位	<登録条件>後期のみの開講となる。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 組織神学の専門書をドイツ語原文で読みながら、主題内容について討論し、理解を深める。</p>	
<p><授業の概要> 今年度はキリスト教の創造論の特徴と、その今日的意味について考える。</p>	
<p><履修条件> 一応ドイツ語の基礎文法を終えているか、現在学習中の者。必ずしもドイツ語に堪能である必要はない。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：取り上げるテキストとその主題について説明する。</p> <p>第2回：20-21頁を訳しながら、内容を検討し、掘り下げる。</p> <p>第3回：22-23頁を訳しながら、内容を検討し、掘り下げる。</p> <p>第4回：24-25頁を訳しながら、内容を検討し、掘り下げる。</p> <p>第5回：26-27頁を訳しながら、内容を検討し、掘り下げる。</p> <p>第6回：28-29頁を訳しながら、内容を検討し、掘り下げる。</p> <p>第7回：30-31頁を訳しながら、内容を検討し、掘り下げる。</p> <p>第8回：32-33頁を訳しながら、内容を検討し、掘り下げる。</p> <p>第9回：34-35頁を訳しながら、内容を検討し、掘り下げる。</p> <p>第10回：36-37頁を訳しながら、内容を検討し、掘り下げる。</p> <p>第11回：38-39頁を訳しながら、内容を検討し、掘り下げる。</p> <p>第12回：40-41頁を訳しながら、内容を検討し、掘り下げる。</p> <p>第13回：42-43頁を訳しながら、内容を検討し、掘り下げる。</p> <p>第14回：44-45頁を訳しながら、内容を検討し、掘り下げる。</p> <p>第15回：46-48頁を訳しながら、内容を検討し、掘り下げる。</p>	
<p><準備学習等の指示> 事前に不明な言葉を辞書でよく調べてくること。</p>	
<p><テキスト> 以下のものを担当者が用意する。 Eberhard Wölfel, Welt als Schöpfung. Zu den Fundamentalsätzen der christlichen Schöpfungslehre heute, Chr.Kaiser Verlag München, 1981.</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業中の読解作業と議論への参加、取り組みの意欲を総合的に評価する。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
旧約聖書神学Ⅳ	大住 雄一
後期・2単位	<登録条件>
<授業の到達目標及びテーマ>旧約聖書にある神学的概念、またそこに現れた神学思想の内容を考察する。	
<授業の概要>今回は旧約聖書の神論を学ぶ。毎回主題の小項目を挙げ、その項目について参照すべき聖書テキストをできるだけ網羅し、その意味を究明する。	
<履修条件>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題の設定：旧約聖書が指し示す神は、唯一の神でありながら名を持っている。そのことの意味を論じ、もって、授業全体の課題を設定する。 2. 「主」という名：主という名の歴史的起源を、聖書の記述から推測する。 3. 主の名の啓示：主の名の啓示のテキストを検討し、主の名が啓示されることの意味を探る。 4. 主の顕現定式：主が自ら名乗る場面において、何が起こっているのかを考察する。 5. 主なる神の自己規定1：神の民との関係によって規定される神を明らかにする。 6. 主なる神の自己規定2：主の異名を検討する。 7. 主なる神の自己規定3：主の顕現定式が、神の民の歴史と結びついていることを確認する。 8. 主なる神の自己規定4：歴史の神は契約の神であることを確認する。 9. 「万軍の主」：預言者の言葉にしばしば現れる「万軍の主」という呼び名の意味を検討する。 10. 「隠れたる神」：啓示された神は、また隠れた神である。具体的テキストを追いながら、意味を考察する。 11. 祈りの意味：語りかける神、沈黙する神に対する祈りの意味を論じる。 12. 天の神と神殿：「主がその名を置かれる場所」の意味を検討する。 13. 天上の会議と預言者：天上の会議のテキストを跡付ける。 14. 地上の神殿とイエス・キリスト 15. まとめと知識の総合 	
<準備学習等の指示>各授業の課題に関連すると思われる聖書箇所を探し、読んでおくこと。	
<テキスト>聖書（自分の教会で用いられているもの）	
<参考書>各回のレジュメに参考文献を挙げる。	
<学生に対する評価（方法・基準）>授業への参加度と、期末の小レポートによって評価する。理由なく授業を三分の一以上欠席した者は、レポートを提出することができない。	

専門教育科目・聖書神学関係	
ヒブル語 I (1,2)	本間 敏雄
前期・4単位	<登録条件> 通年 (I、II) の登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>テーマ：聖書ヒブル語の基礎文法を学ぶ。</p> <p>目標：平易な聖書ヒブル語本文を読み、理解することができる。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>基礎文法の説明 練習問題、小テスト マソラ本文の入門的事柄</p>	
<p><履修条件></p> <p>ヒブル語 II と通年で履修すること。原則として学部 4 年生。 旧約専攻者は必修。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ヒブル語とは、文字 (アルファベット) 2) 文字の書き方、写字練習 3) 母音記号 4) 音節・シェワ、母音文字、マッピーク 5) ダーゲシュ、ラーフェ、母音の分類と変化 6) 喉音、アクセント等諸記号、ケティープ・ケレー 7) 定冠詞、形容詞(1) 8) 復習：小テスト 接続詞、人称・指示代名詞 9) 関係代名詞(1)、疑問詞 10) 前置詞 (Preposition) 11) 人称代名詞語尾(1)：前置詞の付加形、目的辞 12) 復習、総括：小テスト 13) 動詞：完了態 (Perfect) 14) 未完了態 (Imperfect) 15) 復習：小テスト 願望形 (Jussive, Cohortative) 16) 継続ウァウ (Waw Consecutive)、従属ウァウ 17) 動詞：命令形 (Imperative)、不定詞 (Infinitive) 18) 不定詞の用法、分詞 (Participle) 19) 状態動詞 20) 動詞復習、総括：小テスト 21) 名詞：語形変化、分類、独立形と合成形 (Construct state) 22) 合成形の用法、形容詞(2) 23) 名詞の変化 (第一類)、不規則変化名詞 24) 名詞の変化 (第二類)、方向の He 25) 名詞の変化 (第三、第四、第五類)、名詞形成接辞 26) 人称代名詞語尾(2)：名詞の人称代名詞語尾 27) 人称代名詞語尾(3)：動詞の人称代名詞語尾 28) 人称代名詞語尾(4)：不定詞と分詞の人称代名詞語尾 29) 全体復習、総括：小テスト 30) 総まとめ 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>予習大切。</p>	
<p><テキスト></p> <p>資料・プリントを順次配布する。</p>	
<p><参考書></p> <p>J.Weingreen, A Practical Grammar for Classical Hebrew (Clarendon Press, Oxford) Biblia Hebraica Stuttgartensia (BHS) (ドイツ聖書協会)</p>	
<p><学生に対する評価 (方法・基準) ></p> <p>筆記試験、授業参加状況、小テスト等で総合的に判断する。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
ヒブル語Ⅱ	本間 敏雄
後期・2単位	<登録条件> 通年（Ⅰ、Ⅱ）の登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> テーマ：聖書ヒブル語の基礎文法を学ぶ。 到達目標：平易な聖書ヒブル語本文を読み、理解することができる。</p>	
<p><授業の概要> 基礎文法の説明 練習問題、小テスト マソラ本文の入門的事柄</p>	
<p><履修条件> ヒブル語Ⅰと通年で履修すること。原則として学部4年生。 旧約専攻者は必修。</p>	
<p><授業計画> 前期より継続</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 動詞の語幹及び基本語幹：Qal, Nifal 2) 強意語幹：Piel, Pual, Hithpael (1) 3) 同上 (2) 4) 使役語幹：Hifil, Hofal (1) 5) 同上 (2) 6) 語幹復習、総括、小テスト 7) 規則動詞：Pe 喉音動詞 8) Ayin 喉音、Pe 喉音動詞、関係代名詞(2) 9) 二重 Ayin 動詞、二根字動詞 10) 数詞、所有表記 11) 弱 Pe 動詞(1)：Pe Alef、Pe Nun 動詞 12) 弱 Pe 動詞(2)：Pe Waw、Pe Yod 動詞 13) 弱 Lamed 動詞：Lamed Alef、Lamed He 動詞 14) 二重弱動詞、不規則動詞復習、総括 15) 総まとめ 	
<p><準備学習等の指示> 予習大切</p>	
<p><テキスト> 資料・プリントを順次配布する。</p>	
<p><参考書> J.Weingreen, A Practical Grammar for Classical Hebrew (Clarendon Press, Oxford) Biblia Hebraica Stuttgartensia (BHS) (ドイツ聖書協会)</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 筆記試験、授業参加状況、小テスト等で総合的に判断する。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
アラム語 a	佐藤 泉
前期・2単位	<登録条件> 通年での履修が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約聖書原典は主にヘブライ語で、一部アラム語で書かれている。この授業では、聖書のアラム語のテキストを読むことと古代訳の一つであるタルグム（アラム語訳）を読むことを目標としている。</p>	
<p><授業の概要> 聖書のアラム語のテキストを実際に読みながら（創世記 31：47・エレミヤ 10：11・エズラ 4：8-24・5：1-17 など）、アラム語文法を学ぶ。</p>	
<p><履修条件> ヒブル語履修済みであることが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：序 アラム語について、言語グループ、時代区分などを話す。</p> <p>第2回：創世記 31：47 を読みつつ、アラム語の名詞・形容詞を学ぶ。</p> <p>第3回：エレミヤ 10：11 を読みつつ、動詞の Peal 形の完了・未完了を学ぶ。</p> <p>第4回：エズラ 4：8-24 の講読(1) 不規則変化の名詞について学ぶ。</p> <p>第5回：エズラ 4：8-24 の講読(2) 動詞の Hapel 形の完了を学ぶ。</p> <p>第6回：エズラ 4：8-24 の講読(3) 動詞の Peal 形の分詞、Hitpeel 形の完了・未完了を学ぶ。</p> <p>第7回：エズラ 4：8-24 の講読(4) 動詞の Pael 形の完了・未完了、Hapel 形の未完了を学ぶ。</p> <p>第8回：エズラ 4：8-24 の講読(5) 動詞の Hapel 形の分詞を学ぶ。</p> <p>第9回：エズラ 4：8-24 の講読(6) 動詞の Pael 形・Hitpeel 形・Hitpaal 形の分詞を学ぶ。</p> <p>第10回：エズラ 4：8-24 の講読(7) 二根字動詞の Peal 形と動詞の不定詞・命令を学ぶ。</p> <p>第11回：エズラ 5：1-17 の講読(1) 前置詞と代名詞語尾を学ぶ。</p> <p>第12回：エズラ 5：1-17 の講読(2) 二根字動詞の Hapel 形を学ぶ</p> <p>第13回：エズラ 5：1-17 の講読(3) 二根字動詞の Hitpeel 形を学ぶ。</p> <p>第14回：エズラ 5：1-17 の講読(4) Pè Yôd 動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第15回：エズラ 5：1-17 の講読(5) Pè Nun 動詞の変化を学ぶ。</p>	
<p><準備学習等の指示> 講読箇所として指示されているアラム語テキストについて、できる範囲で準備すること。</p>	
<p><テキスト> Franz Rosenthal, A Grammar of Biblical Aramaic, Harrassowitz Verlag・Wiesbaden, 1995, Sixth, revised edition</p>	
<p><参考書> 左近義慈、『ヒブル語入門』、教文館、1966 William L. Holladay, A Concise Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament, Grand Rapids, 1971</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 予習・復習、積極的な授業参加の状況によって成績をつける。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
アラム語 b	佐藤 泉
後期・2単位	<登録条件> 通年での履修が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約聖書原典は主にヘブライ語で、一部アラム語で書かれている。この授業では、聖書のアラム語のテキストを読むことと古代訳の一つであるタルグム（アラム語訳）を読むことを目標としている。</p>	
<p><授業の概要> 聖書のアラム語のテキストを実際に読みながら（ダニエル5章）、アラム語文法の学びを継続する。さらに、エレミヤ書のタルグムの講読もする。（箇所は未定。授業中に指示する。）</p>	
<p><履修条件> ヒブル語履修済みであることが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：ダニエル書の緒論的知識を確認し、前期の文法の復習をしつつ、ダニエル5章の講読に備える。</p> <p>第2回：ダニエル5章の講読(1) Pè' ālep 動詞の Peal 形を学ぶ。</p> <p>第3回：ダニエル5章の講読(2) Pè' ālep 動詞の Hapel 形を学ぶ。</p> <p>第4回：ダニエル5章の講読(3) 動詞の変化で字位転換が起こる場合について学ぶ。</p> <p>第5回：ダニエル5章の講読(4) Lāmed' ālep・Lāmed Hê 動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第6回：ダニエル5章の講読(5) 二重' ayin 動詞の Peal 形を学ぶ。</p> <p>第7回：ダニエル5章の講読(6) 二重' ayin 動詞の Hopal 形を学ぶ。</p> <p>第8回：ダニエル5章の講読(7) 代名詞語尾付きの動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第9回：ダニエル5章の講読(8) 喉音を含む動詞について学ぶ。</p> <p>第10回：ダニエル5章の講読(9) 特殊な変化をする動詞について学ぶ。</p> <p>第11回：エレミヤ書の緒論的知識とバビロニア方式の母音記号を確認し、タルグムの講読に備える。</p> <p>第12回：タルグムの講読(1) バビロニア方式の母音記号で読むことに慣れる。</p> <p>第13回：タルグムの講読(2) タルグムのアラム語の動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第14回：タルグムの講読(3) アラム語文法を全体的に思い出しつつ読む。</p> <p>第15回：タルグムの講読(4) 原典や七十人訳と比較しつつ読むことを味わう。</p>	
<p><準備学習等の指示> 講読箇所として指示されているアラム語テキストについて、できる範囲で準備すること。</p>	
<p><テキスト> Franz Rosenthal, A Grammar of Biblical Aramaic, Harrassowitz Verlag・Wiesbaden, 1995, Sixth, revised edition</p>	
<p><参考書> 左近義慈、『ヒブル語入門』、教文館、1966 William L. Holladay, A Concise Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament, Grand Rapids, 1971</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 予習・復習、積極的な授業参加の状況によって成績をつける。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
イスラエル古代史	大住 雄一
後期・2単位	<登録条件>
<授業の到達目標及びテーマ> 最近の歴史学および考古学の成果を学んで、旧約聖書のコンテキストとしての歴史について基礎知識を得る。	
<授業の概要> イスラエル古代史上、聖書の形成に決定的な意味を持ったと思われるできごとをいくつか選び、それらに関する研究文献を紹介し、現在の研究状況を解説する。	
<履修条件> 2010年度学部1年次入学生以降の学生が履修できる。 科目等履修制度による履修可。	
<授業計画>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「『イスラエル』とは何か」 「イスラエル」の神学的意味（自己認識）と歴史的「実像」の関係について考察する。（1） 「『ヘブライ人』と『イスラエル』」：イスラエルの人々が「ヘブライ人」と呼ばれるのはなぜであるか、「ヘブライ」とはいかなる意味か、学説を概観する。 2. 「『イスラエル』とは何か」（2） 「出エジプトと土地取得あるいは征服」：イスラエルは外からやって来て、原住民を追い出した人たちであるのか。土地取得説と征服説を吟味する。 3. 「『イスラエル』とは何か」（3） 「農民革命か経済変動か」：（2）に続き、諸説を吟味する。 4. 「王国の成立」（1） 「王制とは何か」：部族連合と王政の違い。なぜ王国となったか。 5. 「王国の成立」（2） 「イスラエルとユダ」：イスラエルは、初めから一つではなかったことを理解する。それがなぜ一つであること（一つとなること）を熱望したのか。 6. 「王国の成立」（3） 「王国と学校」：聖書の苗床としての学校がどうしてつくられたかを考察する。 7. 「北王国の滅亡」（1） 「北王国とは何か」：ダビデ王権の性格と、北王国存立の基盤を問う。 8. 「北王国の滅亡」（2） 「アッシリアの影響力」：王国時代のイスラエルに強大な政治的・文化的影響力を持った超大国アッシリアの世界支配の特質を論じる。 9. 「北王国の滅亡」（3） 「『シリア・エフライム戦争』と北王国滅亡」：南北両王国の関係を論じる。 10. 「ユダの滅亡と捕囚」（1） 「シオンの山」：ダビデ王権の神学的基盤を考察する。 11. 「ユダの滅亡と捕囚」（2） 「捕囚」：「バビロン捕囚」の神学的意味を学ぶ。 12. 「ユダの滅亡と捕囚」（3） 「申命記的歴史学派の活動」：聖書編集に大きな役割を果たした歴史学派は、どのような国家形成を目指し、どのような活動をしたのかを知る。 13. 「ユダヤ国家とユダヤ教」：「ユダヤ人」とは何かを、その国家と宗教教団の成立から論じる。 （1） 「エズラ・ネヘミヤの活動とその時代」：「トーラー」成立の背景を探る。 14. 「ユダヤ国家とユダヤ教」（2） 「ユダヤとサマリヤ ユダヤ教とは何か」：サマリヤ教団とユダヤ教団の成立の経過を理解する。 15. まとめと知識の再確認 	
<準備学習等の指示> 第一回授業の中で紹介された文献のうち、関心を持ったものを一冊以上読むこと。	
<テキスト> 聖書（各自が教会で用いているもの）	
<参考書> 第一回の授業の中で日本語文献ガイドを行う。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加と期末の小レポートによって成績をつける。理由なく授業の三分の一以上欠席した者は、レポートを提出することができない。	

専門教育科目・聖書神学関係	
新約聖書神学Ⅳ	焼山 満里子
後期・2単位	<登録条件>
<授業の到達目標及びテーマ>新約聖書中の書簡、黙示録、ヨハネ文書を学ぶ。	
<授業の概要>各文書を読み、それぞれの緒論、神学的課題を学ぶ。	
<履修条件>新約聖書神学Ⅲ、ギリシャ語履修済みのこと。	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. パウロ真正書簡概観 2. コリントの信徒への手紙二 3. ローマの信徒への手紙 総論 4. ローマの信徒への手紙 詳論—律法について 5. ガラテヤの信徒への手紙 6. テサロニケの信徒への手紙一、二 7. フィリピの信徒への手紙、フィレモンへの手紙 8. コロサイの信徒への手紙 9. エフェソの信徒への手紙 10. テモテへの手紙一、二、テトスへの手紙 11. ヘブライ人への手紙 12. ヤコブの手紙、ペトロの手紙一、二、三 13. ヨハネの手紙一、二、三、ユダの手紙 14. ヨハネの黙示録 15. 総括 	
<準備学習等の指示>当日の聖書箇所を読んで出席すること。	
<テキスト>聖書。	
<参考書>適宜紹介する。	
<学生に対する評価(方法・基準)>出席(10回以上を求める)、授業参加、期末試験によって評価する。	

専門教育科目・聖書神学関係	
新約原典講読 I	三永 旨従
前期・2単位	<登録条件> II と通年での登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 編集史批判の立場から共観福音書の各文書の特徴を学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 新約聖書における編集史批判の重要性を示した文献を読んだ後、各文書の文体的特徴及び文法を重視しつつ、講読の基礎を学ぶ。</p>	
<p><履修条件> ギリシャ語 1、2 を修得済みの者</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 辞書、コンコーダンスの用法について 2. "The Stilling of The Storm in Matthew" 講読 P.52-54 3. "The Stilling of The Storm in Matthew" 講読 P.54-57 4. 「嵐を鎮める」読解 (マルコ) 5. 「嵐を鎮める」読解 (マタイ) 6. 「嵐を鎮める」読解 (ルカ) 7. 「ゲッセマネの祈り」読解 (マルコ) 8. 「ゲッセマネの祈り」読解 (マタイ) 9. 「ゲッセマネの祈り」読解 (ルカ) 10. 「十字架」読解 (マルコ) 11. 「十字架」読解 (マタイ) 12. 「十字架」読解 (ルカ) 13. 「ガリラヤ宣教」読解 (マルコ) 14. 「ガリラヤ宣教」読解 (マタイ) 15. 「ガリラヤ宣教」読解 (ルカ) 	
<p><準備学習等の指示> 該当箇所に関して必ず辞書、コンコーダンス等で予習してクラスに出席。</p>	
<p><テキスト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・"The Stilling of The Storm in Matthew" G. Bornkamm in <u>Tradition & Interpretation in Matthew</u>, G. Bornkamm, G. Barth, H.J. Held (1960) ・Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE (27 版) に基づいた対観福音書 (授業にて紹介) ・"A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers" W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd. (各自で購入することを強く勧める。) 	
<p><参考書> ギリシャ語ベースで執筆された各福音書の注解書</p>	
<p><学生に対する評価 (方法・基準) > クラスへの参加あるいは試験による評価</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
新約原典講読Ⅱ	三永 旨従
後期・2単位	<登録条件> 通年での登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 前期に学んだ共観福音書の各文書の文体的特徴をふまえた上で、さらに各文書をギリシャ語で読むことの意味を問う。</p>	
<p><授業の概要> 前期とは別の聖書箇所における各文書の文体的特徴及び、文法を重視しながら理解を深める。</p>	
<p><履修条件> ギリシャ語1、2を修得済みの者</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「盲人の癒し」読解（マルコ） 2. 「盲人の癒し」読解（マタイ） 3. 「盲人の癒し」読解（ルカ） 4. 「悪霊追放」読解（マルコ） 5. 「悪霊追放」読解（マタイ） 6. 「悪霊追放」読解（ルカ） 7. 「山上の変貌」読解（マルコ） 8. 「山上の変貌」読解（マタイ） 9. 「山上の変貌」読解（ルカ） 10. 「エルサレム入城」読解（マルコ） 11. 「エルサレム入城」読解（マタイ） 12. 「エルサレム入城」読解（ルカ） 13. 「復活の言及箇所」読解（マルコ） 14. 「復活顕現」読解（マタイ） 15. 「復活顕現」読解（ルカ） 	
<p><準備学習等の指示> 該当箇所に関して必ず辞書、コンコーダンス等で予習してクラスに出席。</p>	
<p><テキスト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE (27版) に基づいた対観福音書 ・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers” W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd. (各自で購入することを強く勧める。) 	
<p><参考書> ギリシャ語ベースで執筆された各福音書の注解書</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> クラスへの参加あるいは試験による評価</p>	

専門教育科目・歴史神学関係	
教理史 I	関川 泰寛
前期・2単位	<登録条件> 特になし
<p><授業の到達目標及びテーマ> 古代教理史に関わる項目、概念、人名、著作などを正確に理解し、主要な主題について概説的な理解を得る。</p>	
<p><授業の概要> 古代の教理史を概説する。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教理とは何か。ギリシア語圏とラテン語圏での展開 2 教理史の課題 3 教理史から見た使徒教父文書 4 弁証家とロゴス・キリスト論 5 ユスティノスの神学 6 グノーシス主義の教理的な特色とキリスト教の論駁 7 モンタノス主義とマルキオン主義 8 正典と職制理解とキリスト教 9 アレキサンドリア学派—クレメンスとオリゲネス神学の特色 10 アレイオス論争 11 アタナシオス神学の特色 12 ニカイア論争史と信条の成立 13 カパドキア教父の神学 14 カルケドンへの道 15 総括 	
<p><準備学習等の指示> 教会史 I をよく復習しておくこと。ウォーカー『キリスト教史・古代教会』（ヨルダン社）、ブロックス『古代教会史』（教文館）などを通読しておくこと。</p>	
<p><テキスト> マクグラス『キリスト教思想史入門—歴史神学概説』第一章（キリスト新聞社）を用いる。各自用意すること。</p>	
<p><参考書> その都度指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席を大前提として、小論文によって評価する。</p>	

専門教育科目・歴史神学関係	
教理史Ⅱ	関川 泰寛
後期・2単位	<登録条件> 特になし
<p><授業の到達目標及びテーマ> 中世～宗教改革時代の教理史に関わる事項、人名、著書などを正確に理解し、中世～宗教改革時代の教理史の主要問題を概説的に整理できるようにする。</p>	
<p><授業の概要> 中世と宗教改革時代の教理史を概説する。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 アウグスティヌスの生涯と著作、ドナティスト論争とペラギウス論争 2 アウグスティヌスの神学Ⅰ サクラメント論、恩恵論 3 アウグスティヌスの神学Ⅱ 歴史の神学 4 中世の聖餐論争 5 アンセルムスの神学 6 トマス・アキナスとボナヴェントゥーラ 7 宗教改革の教理の形成、聖書と伝統の問題 8 ルターの神学 9 カルヴァンの神学Ⅰ「生涯と神学」 10 カルヴァンの神学Ⅱ「神論、キリスト論、聖霊論」 11 宗教改革者の恩恵論 12 宗教改革者のサクラメント論 13 宗教改革者の教会論 14 ディスカッション 15 総括 	
<p><準備学習等の指示> 教会史ⅡとⅢをよく復習しておくこと。</p>	
<p><テキスト> マクグラス『キリスト教思想史入門—歴史神学概説』第二～三章（キリスト新聞社）を用いる。各自用意すること。</p>	
<p><参考書> その都度指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席を大前提として、小論文によって評価する。</p>	

専門教育科目・実践神学関係	
教会実習 I	W. ジャンセン
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 教会と伝道者の存在や働きを具体的に考えて学ぶこと。</p>	
<p><授業の概要> 神学生として教会の奉仕をしていて、また将来牧会者／説教者になるものにとって重要な対人関係と話し方の訓練になる授業。通年で教会に於ける、また教会によるコミュニケーションを課題にして、講義とロールプレイによる実習からなる。逐語記録で学ぶこともある。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画> * 前期は教会の文脈における対人コミュニケーションについての講義である。（第1回から第7回まで） * 前期の前半は教授の講義、後半は受講者のケース・スタディー方式における発表からなる。（第8回から第15回まで）</p> <p>第1回 言語によるコミュニケーションの定義 第2回 言語によるコミュニケーションの構成要因 第3回 対人コミュニケーションにおける魅力 第4回 対人コミュニケーションにおける親しみ 第5回 対人コミュニケーションにおける信頼と指示不信 第6回 対人コミュニケーションにおける防御 第7回 フィードバックとその意義 第8回 ケース・スタディー 第9回 ケース・スタディー 第10回 ケース・スタディー 第11回 ケース・スタディー 第12回 ケース・スタディー 第13回 ケース・スタディー 第14回 ケース・スタディー 第15回 まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> 教師として期待することは、授業の出席を重んじること、ノートをとること、最初から授業に出て、積極的に参加すること。</p>	
<p><テキスト> ヘンリー・J・M・ナウウェン『差し伸べられる手：真の祈りへの三つの段階』（女子パウロ会）</p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> （ケース・スタディー方式における）発表、逐語記録、書評で評価する。 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

専門教育科目・実践神学関係	
教会実習Ⅱ	W. ジャンセン
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 教会と伝道者の存在や働きを具体的に考えて学ぶこと。</p>	
<p><授業の概要> 神学生として教会の奉仕をしていて、また将来牧会者／説教者になるものにとって重要な対人関係と話し方の訓練になる授業。通年で教会に於ける、また教会によるコミュニケーションを課題にして、講義とロールプレイによる実習からなる。逐語記録で学ぶこともある。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 スピーチの定義 第2回 語り手について：言葉づかい 第3回 語り手について：手振り、身振り 第4回 聴衆について：言葉のメッセージ 第5回 聴衆について：体のメッセージ 第6回 スピーチの作り方について 第7回 説教の作り方について 第8回 スピーチの発表 第9回 スピーチの発表 第10回 スピーチの発表 第11回 スピーチの発表 第12回 スピーチの発表 第13回 スピーチの発表 第14回 スピーチの発表 第15回 まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> 教師として期待することは、授業の出席を重んじること、ノートをとること、最初から授業に出て、積極的に参加すること。</p>	
<p><テキスト></p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> スピーチの発表、逐語記録で評価する。 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

専門教育科目・実践神学関係	
牧会心理学 a	W. ジャンセン
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 牧会における心理学的課題を学ぶこと。</p>	
<p><授業の概要> 牧会的／心理学的課題について講義をし、ケース・スタディーで実践的に学ぶ。逐語記録での学びもある。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 牧会カウンセリングの歴史と定義 第2回 宗教と魂 第3回 人格関係の重要性 第4回 傾聴について 第5回 癒し 第6回 認識と洞察 第7回 受容 第8回 結婚と家庭におけるカウンセリング 第9回 ケース・スタディー 第10回 ケース・スタディー 第11回 ケース・スタディー 第12回 ケース・スタディー 第13回 ケース・スタディー 第14回 ケース・スタディー 第15回 まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> 柏木 哲夫『生きていく力』いのちのことば社 (2003)</p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席、書評、逐語記録、ケース・スタディー、ディスカッションの参加。 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

専門教育科目・実践神学関係																																																																	
牧会心理学 b	W. ジャンセン																																																																
後期・2単位	<登録条件>																																																																
<授業の到達目標及びテーマ> 牧会における心理学的課題を学ぶこと。																																																																	
<授業の概要> 牧会的／心理学的課題について講義をし、ロールプレーで実践的に学ぶ。																																																																	
<履修条件> 牧会心理学 a を終了したこと。																																																																	
<p><授業計画></p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;"><u>学習テーマ</u></td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>ロールプレー</td> <td>(一人対一人)</td> <td>恋愛</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>ロールプレー</td> <td>(一人対一人)</td> <td>DV</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>ロールプレー</td> <td>(一人対一人)</td> <td>ひきこもり問題</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>ロールプレー</td> <td>(一人対一人)</td> <td>自らを赦すこと</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>ロールプレー</td> <td>(一人対一人)</td> <td>相手を赦すこと</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>ロールプレー</td> <td>(一人対一人)</td> <td>職場でのトラブル</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>ロールプレー</td> <td>(一人対一人)</td> <td>病名告知</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>ロールプレー</td> <td>(一人対一人)</td> <td>経済的悩み</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>ロールプレー</td> <td>(一人対一人)</td> <td>自殺</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>ロールプレー</td> <td>(一人対一人)</td> <td>霊的に乾いている</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>ロールプレー</td> <td>(一人対二人)</td> <td>結婚相談</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>ロールプレー</td> <td>(一人対二人)</td> <td>非行少年[少女]問題</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>ロールプレー</td> <td>(一人対二人)</td> <td>共に暮らしている親との人間関係</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>まとめ</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		第1回	オリエンテーション						<u>学習テーマ</u>	第2回	ロールプレー	(一人対一人)	恋愛	第3回	ロールプレー	(一人対一人)	DV	第4回	ロールプレー	(一人対一人)	ひきこもり問題	第5回	ロールプレー	(一人対一人)	自らを赦すこと	第6回	ロールプレー	(一人対一人)	相手を赦すこと	第7回	ロールプレー	(一人対一人)	職場でのトラブル	第8回	ロールプレー	(一人対一人)	病名告知	第9回	ロールプレー	(一人対一人)	経済的悩み	第10回	ロールプレー	(一人対一人)	自殺	第11回	ロールプレー	(一人対一人)	霊的に乾いている	第12回	ロールプレー	(一人対二人)	結婚相談	第13回	ロールプレー	(一人対二人)	非行少年[少女]問題	第14回	ロールプレー	(一人対二人)	共に暮らしている親との人間関係	第15回	まとめ		
第1回	オリエンテーション																																																																
			<u>学習テーマ</u>																																																														
第2回	ロールプレー	(一人対一人)	恋愛																																																														
第3回	ロールプレー	(一人対一人)	DV																																																														
第4回	ロールプレー	(一人対一人)	ひきこもり問題																																																														
第5回	ロールプレー	(一人対一人)	自らを赦すこと																																																														
第6回	ロールプレー	(一人対一人)	相手を赦すこと																																																														
第7回	ロールプレー	(一人対一人)	職場でのトラブル																																																														
第8回	ロールプレー	(一人対一人)	病名告知																																																														
第9回	ロールプレー	(一人対一人)	経済的悩み																																																														
第10回	ロールプレー	(一人対一人)	自殺																																																														
第11回	ロールプレー	(一人対一人)	霊的に乾いている																																																														
第12回	ロールプレー	(一人対二人)	結婚相談																																																														
第13回	ロールプレー	(一人対二人)	非行少年[少女]問題																																																														
第14回	ロールプレー	(一人対二人)	共に暮らしている親との人間関係																																																														
第15回	まとめ																																																																
<準備学習等の指示>																																																																	
<テキスト>																																																																	
<参考書>																																																																	
<学生に対する評価(方法・基準)> 出席、ロールプレーの参加。 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。																																																																	

専門教育科目・実践神学関係	
臨床牧会教育 a	W. ジャンセン
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 病院での実習により、牧会的な心得を身につけること。</p>	
<p><授業の概要> 吉祥寺病院（精神科）を実習のフィールドとして、医師、看護師、ソーシャルワーカー等の協力を得、患者との面接を行い、講師のスーパーヴィジョンを受けて、実際的にカウンセリングを学ぶ。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ul style="list-style-type: none"> *オリエンテーション *院長による精神病理の講義。病院見学。 *病棟で患者と面接を行い、ケアを与えることを学ぶ。 *面接記録をスーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントをうける。 *各学生によるケース提出とディスカッションを行う。 <p>第1回から第15回まで、様々な牧会ケアテーマで学び、自分の牧会者像を明確にする。</p>	
<p><準備学習等の指示> 遅刻をしないこと。 休まないこと。</p>	
<p><テキスト></p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 実習の参加度によって評価する。 期末テストによって評価する。 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

専門教育科目・実践神学関係	
臨床牧会教育 b	W. ジャンセン
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 病院での実習により、牧会的な心得を身につけること。</p>	
<p><授業の概要> 吉祥寺病院（精神科）を実習のフィールドとして、医師、看護師、ソーシャルワーカー等の協力を得、患者との面接を行い、講師のスーパーヴィジョンを受けて、実際的にカウンセリングを学ぶ。</p>	
<p><履修条件> 臨床牧会教育 a を終えていること。</p>	
<p><授業計画> * 各回、各病棟におもむき、患者と出会い、カウンセリングを行う。 * 面接記録（逐語記録）をつくり、スーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントを得、話し合いをする。 * 各自のケース・レポートをし、ケース・スタディをする。</p> <p>第1回から第15回まで、様々な牧会ケアテーマで学び、自分の牧会者像を明確にする。</p>	
<p><準備学習等の指示> 遅刻をしないこと。 休まないこと。</p>	
<p><テキスト></p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 実習の参加度によって評価する。 期末テストによって評価する。 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

専門教育科目・実践神学関係	
説教学入門 a	小泉 健
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 聖書から聞くこと、聞いたことを語ることを、体験的に学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 学生各自が発表・実演を行い、それを素材として討論を重ねながら学ぶ。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 声を出す、語りかける 第2回 「わたし」について語る 第3回 「わたしがどうしても伝えたいこと」について語る 第4回 聖書を読む、朗読する 第5回 聖書に聞く、黙想する 第6回 聖書を読んでいる「わたし」はだれか 第7回 聖書を語り直す（その1）一人称で 第8回 聖書を語り直す（その2）対話の形で 第9回 聖書を語り直す（その3）異なる文脈で 第10回 説教は何をしているか 第11回 説教を読む 第12回 説教を朗読する 第13回 説教を語る 第14回 言語以外のものを通して語る 第15回 説教を聞く</p>	
<p><準備学習等の指示> 説教を学ぶ者として、また将来の説教者としての「日々聖書を読む生活」</p>	
<p><テキスト> 必要に応じて教室でプリントを配布する。</p>	
<p><参考書> K. バルト、E. トゥルナイゼン『神の言葉の神学の説教学』教団出版局 R. ボーレン『説教学Ⅰ』『説教学Ⅱ』日本基督教団出版局 その他については授業中に挙げる。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業での発表とレポート（説教）によって評価する。</p>	

専門教育科目・専攻間共同	
アジア伝道論演習 a	朴 憲郁
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>アジア諸国への福音伝道は、誰がどのような視野と使命によって推進されたのか、また伝道された非キリスト教諸国の人々は独自の文化・宗教・言語圏の中でどのように受容し、反応したのかを知る。同時に、それによる福音伝道の意義と課題への理解を深める。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>伝道(宣教)学とは何かを序論として解説した後、一国に絞らず、むしろテキストに沿って、東北・東南アジア諸国におけるキリスト教と伝道の足跡を、その文化と歴史と共に概観する。そのことが、日本伝道の特色とあり方を自覚・反省する素材となることを願う。</p>	
<p><履修条件></p> <p>特になし</p>	
<p><授業計画></p> <p>1. 序説1ー伝道(宣教)学とは何かー</p> <p>2. 序説2ーアジア・キリスト教伝道論ー</p> <p>(以下、3～14まで学生発表と講義)</p> <p>3. 韓国のキリスト教 初期とカトリック教会</p> <p>4. 韓国のキリスト教 プロテスタント教会</p> <p>5. 中国のキリスト教 初期とカトリック教会</p> <p>6. 中国のキリスト教 プロテスタント教会</p> <p>7. 台湾のキリスト教 初期とカトリック教会</p> <p>8. 台湾のキリスト教 プロテスタント教会</p> <p>9. 香港のキリスト教</p> <p>10. フィリピンのキリスト教</p> <p>11. タイのキリスト教</p> <p>12. マレーシアのキリスト教</p> <p>13. ミャンマー、カンボジアのキリスト教</p> <p>14. ベトナム、ラオスのキリスト教</p> <p>15. アジア伝道の反省と展望(講義)</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>指定テキストの中から、毎授業で扱う範囲の箇所を事前に読んで理解を深めておくこと。</p>	
<p><テキスト></p> <p>『アジア・キリスト教の歴史』、日本基督教団出版局編、1991年 初版、重版。今絶版のため、プリント配布など、授業時にテキスト使用について指示する。</p>	
<p><参考書></p> <p>1. 『アジア・キリスト教史[1]』、1989 三版、2. 『アジア・キリスト教史[2]』、1985年 初版、重版、教文館。その他、授業時に随時紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)></p> <p>授業時の発表、参加度、学期末レポートなどによって評価する。</p> <p>出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

専門教育科目・専攻間共同	
アジア伝道論演習 b	朴 憲郁
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>前期と同様、アジア諸国への福音伝道は、誰がどのような視野と使命によって推進されたのか、また伝道された非キリスト教諸国の人々は独自の文化・宗教・言語圏の中でどのように受容し、反応したのかを知る。同時に、それによる福音伝道の意義と課題への理解を深める。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>アジアのキリスト教について概観した後、序論として解説した後、前期に続いて東南アジア諸国のキリスト教と伝道の足跡を、その文化と歴史と共に概観する。そのことが、日本伝道の特色とあり方を自覚・反省する素材となることを願う。他の諸宗教との関係をも見る。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アジアのキリスト教について その1 (講義) 全体的考察 2. アジアのキリスト教について その2 (講義) 個別的・事例的考察 (以下、3～14まで学生発表および講義) 3. シンガポールのキリスト教 4. インドネシアのキリスト教 その1 初期とカトリック教会 5. インドネシアのキリスト教 その2 初期とプロテスタント教会 6. インドのキリスト教 その1 近代以前の歴史 7. インドのキリスト教 その2 近現代の歴史 8. スリンランカのキリスト教 9. バングラディシュのキリスト教 10. パキスタン・アフガニスタンのキリスト教 11. ブータン・ネパールのキリスト教 12. チベット・シッキムのキリスト教 13. オーストラリアのキリスト教 14. ニュージーランドのキリスト教 15. 東南アジアのキリスト教を回顧して (講義) 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>指定テキストの中から、毎授業で扱う範囲の箇所を事前に読んで理解を深めておくこと。</p>	
<p><テキスト></p> <p>『アジア・キリスト教の歴史』、日本基督教団出版局編、1991年 初版、重版。今絶版のため、プリント配布など、授業時にテキスト使用について指示する。</p>	
<p><参考書></p> <p>1. 『アジア・キリスト教史[1]』、1989 三版、2. 『アジア・キリスト教史[2]』、1985年 初版、重版、教文館。その他、授業時に随時紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)></p> <p>授業時の発表、参加度、学期末レポートなどによって評価する。 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

専門教育科目・古典語	
ラテン語 I	中村 克孝
前期・2単位	<登録条件> なるべく通年で登録する。
<p><授業の到達目標及びテーマ> ラテン語基礎文法の修得（一）</p>	
<p><授業の概要> 教科書に即して、ラテン語文法の説明・解説を理解し、練習問題をすることを通して、ラテン語文法の基礎に親しむように努める。</p>	
<p><履修条件> 学部3年次以上、通年で履修することが望まれる。 <ul style="list-style-type: none"> ・週1コマの授業で、前期にラテン語基礎文法の2/3を学習するので、原則として、授業を欠席しないこと。また、予習・復習が不可欠である。 ・やむを得ず欠席する場合は、欠席した授業で学習した項目について自分の責任で学習し、課題がある場合は、課題を提出することが必要である。 ・本授業においては、欠席数が総授業回数の1/3以上となった場合は、学期末の定期試験の受験資格を失い、単位認定が受けられなくなるので、注意が必要である。 </p>	
<p><授業計画></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎文法学習（一）：テキストに従い、基礎文法を、文法項目を学び理解し、練習問題を行なうことによって、学習／習得する。 ・授業に出席することはもちろん必須であるが、文法項目の絶えざる復習・予習および練習問題への真剣な取り組みが大切である。 ・尚、教科書の10課毎にレポートの提出という課題が課せられるので、確実に提出することが必要である。 <p>第1回 教科書第I課・発音練習 第9回 教科書第XII～(XIII-a)課 第2回 教科書第II～III課 第10回 教科書第(XIII-b)～XIV課 第3回 教科書第III～IV課 第11回 教科書第XV～(XVI-a)課 第4回 教科書第IV～V課 第12回 教科書第(XVI-b)～XVII課 第5回 教科書第VI～(VII-a)課 第13回 教科書第XVIII～(XIX-a)課 第6回 教科書第(VII-b)～VIII課 第14回 教科書第(XIX-b)～XX課 第7回 教科書第IX～(X-a)課 第15回 まとめ 第8回 教科書第(X-b)～XI課</p>	
<p><準備学習等の指示> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に出席することはもちろん必須であるが、文法項目の絶えざる復習と予備学習及び練習問題への真剣な取り組みが大切である。 </p>	
<p><テキスト> <ul style="list-style-type: none"> ・土岐健治・井坂民子「楽しいラテン語」(教文館)。各自、書店で購入すること。 </p>	
<p><参考書> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、教員が指示する。 </p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> <ul style="list-style-type: none"> ・10課毎のレポート提出・授業への参加状況・期末試験を総合的に考慮して、成績がつけられる。尚、成績を付ける際の、比重は、レポート点20%、授業への参加点30%、期末試験点50%、である。但し、出席が授業全体の2/3以上でない者は、評価の対象としない。 </p>	

専門教育科目・古典語																	
ラテン語Ⅱ	中村 克孝																
後期・2単位	<登録条件> なるべく通年で登録する。																
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラテン語基礎文法の修得（二） ・Vulgate（ラテン語聖書）の講読をとおして、教会ラテン語に親しむ。 																	
<p><授業の概要></p> <p>教科書に即した、ラテン語文法の修得を完了し、Vulgate（ラテン語聖書）の原典講読によって、教会ラテン語に親しんでいく。</p>																	
<p><履修条件></p> <p>学部3年次以上、通年で履修することが望まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週1コマの授業で、後期にラテン語基礎文法の最後の1/3の学修に努め、続いて、Vulgate（ラテン語聖書）の原典講読をするので、授業を欠席しないこと。また、予習・復習が不可欠である。 ・やむを得ず欠席する場合は、欠席した授業で学習した項目について自分の責任で学習し、課題がある場合は、課題を提出することが必要である。 ・本授業においては、欠席数が総授業回数数の1/3以上となった場合は、学期末の定期試験の受験資格を失い、単位認定が受けられなくなるので、注意が必要である。 																	
<p><授業計画></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎文法学習（二）：テキストに従い、基礎文法を、文法項目の学習と練習問題によって学習／習得することを完了する。 ・文法学習終了後、Vulgate（ラテン語聖書）の中から、よく読まれている数箇所の原典講読を行なう。 ・尚、文法教科書の10課毎にレポートの提出という課題が課せられるので、確実に提出することが必要である。 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">第1回 教科書第XXⅠ課</td> <td style="width: 50%;">第9回 Vulgate(2)</td> </tr> <tr> <td>第2回 教科書第XXⅡ～(XXⅢ-a)課</td> <td>第10回 Vulgate(3)</td> </tr> <tr> <td>第3回 教科書第(XXⅢ-b)～XXⅣ課</td> <td>第11回 Vulgate(4)</td> </tr> <tr> <td>第4回 教科書第XXⅤ～(XXⅥ-a)課</td> <td>第12回 Vulgate(5)</td> </tr> <tr> <td>第5回 教科書第(XXⅥ-b)～XXⅦ課</td> <td>第13回 Vulgate(6)</td> </tr> <tr> <td>第6回 教科書第XXⅧ～(XXⅨ-a)課</td> <td>第14回 Vulgate(7)</td> </tr> <tr> <td>第7回 教科書第XXⅨ-b課</td> <td>第15回 まとめ</td> </tr> <tr> <td>第8回 Vulgate(1)</td> <td></td> </tr> </table>		第1回 教科書第XXⅠ課	第9回 Vulgate(2)	第2回 教科書第XXⅡ～(XXⅢ-a)課	第10回 Vulgate(3)	第3回 教科書第(XXⅢ-b)～XXⅣ課	第11回 Vulgate(4)	第4回 教科書第XXⅤ～(XXⅥ-a)課	第12回 Vulgate(5)	第5回 教科書第(XXⅥ-b)～XXⅦ課	第13回 Vulgate(6)	第6回 教科書第XXⅧ～(XXⅨ-a)課	第14回 Vulgate(7)	第7回 教科書第XXⅨ-b課	第15回 まとめ	第8回 Vulgate(1)	
第1回 教科書第XXⅠ課	第9回 Vulgate(2)																
第2回 教科書第XXⅡ～(XXⅢ-a)課	第10回 Vulgate(3)																
第3回 教科書第(XXⅢ-b)～XXⅣ課	第11回 Vulgate(4)																
第4回 教科書第XXⅤ～(XXⅥ-a)課	第12回 Vulgate(5)																
第5回 教科書第(XXⅥ-b)～XXⅦ課	第13回 Vulgate(6)																
第6回 教科書第XXⅧ～(XXⅨ-a)課	第14回 Vulgate(7)																
第7回 教科書第XXⅨ-b課	第15回 まとめ																
第8回 Vulgate(1)																	
<p><準備学習等の指示></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に出席することはもちろん必須であるが、文法項目の絶えざる復習と予備学習及び練習問題への真剣な取り組みが大切である。 																	
<p><テキスト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・土岐健治・井坂民子「楽しいラテン語」（教文館）。各自、書店で購入すること。 ・後半のVulgate（ラテン語聖書）からの講読については、コピーを配布する。 																	
<p><参考書></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、教員が指示する。 																	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・10課毎のレポート提出・授業への参加状況・期末試験を総合的に考慮して、成績がつけられる。尚、成績をつける際の、比重は、レポート点20%、授業への参加点30%、期末試験点50%、である。但し、出席が授業全体の2/3以上でない者は、評価の対象としない。 																	

教職課程・教職に関する専門科目	
教職概論	朴 憲郁
後期・2単位	<登録条件> 一学期登録となる
<p><授業の到達目標及びテーマ> 専門職としての学校教師となるための実践的見識の修得方法、および制度論的課題を正しく把握することを目指す。</p>	
<p><授業の概要> 今日の学校教育の課題の一つは、教師の資質と像をめぐる問題であろう。どういう教育理念と教師像を目指すべきかという基本的な主題を、教師に関する理解の歴史の変遷、文化、見識、教育課題などに分類して考察していく。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教師への関心 / 学生発表 (1) 2. 教職の専門性をめぐって / 学生発表 (2) 3. 教師文化の規範 / 学生発表 (3) 4. 専門家の文化形成 / 学生発表 (4) 5. 教師の実践的見識 / 学生発表 (5) 6. 教師の知識と教育学的推論 / 学生発表 (6) 7. 事例研究と語りの様式 / 学生発表 (7) 8. 教師教育の課題 / 学生発表 (8) 9. 生涯学習 / 学生発表 (9) 10. 専門職化 / 学生発表 (10) 11. 教員免許更新の教師養成について / 学生発表 (11) 12. 神学大学における教師養成理念 / 学生発表 (12) 13. キリスト教学校での教師像 / 学生発表 (13) 14. 神学大学における教師養成理念 / 学生発表 (14) 15. 今後の課題 / 学生発表 (15) 	
<p><準備学習等の指示> 毎回の授業において、前半は担当講師の講義をし、後半は指定テキストの分担箇所での学生発表と意見交換がなされる。次週に扱うテキスト箇所を各自あらかじめ読んで理解しておき、意見を交し合う。</p>	
<p><テキスト> 講義に用いる諸資料は、および学生発表に用いるテキスト（稲垣忠彦・久富善之、『日本の教師文化』、東京大学出版会、1994年）を、教師が用意する。</p>	
<p><参考書></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 長尾十三二、『教師教育の課題』、玉川大学出版部、1994年 2. 近藤邦夫、『教師と子どもの関係づくり』、東京大学出版会、1995年 3. 佐藤学、『教師というアボリア＝反省的实践』、世織書房、1996年 	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業時の発表、参加度、期末レポートなどによって評価する。 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

教職課程・教職に関する専門科目	
心理発達と教育	藤掛 明
前期・2単位	<登録条件>特にない
<p><授業の到達目標及びテーマ> 教職に関して、心理や発達の諸側面について基本的な理解を得る。</p>	
<p><授業の概要> 学校教育場面をはじめ、様々な人間援助場面で生じる発達心理学的、臨床心理学的な問題を取りあげ、その基本知識および対応スキルを学ぶ。</p>	
<p><履修条件> 特にない</p>	
<p><授業計画> 第1回：人の心を理解するためにはどのような知（臨床の知）が必要か（1） 交互色彩分割法の演習をとおして、相互作用性について学ぶ。 第2回：人の心を理解するためにはどのような知（臨床の知）が必要か（2） はがきコラージュの演習をとおして、多義性について学ぶ。 第3回：人の心を理解するためにはどのような知（臨床の知）が必要か（3） はがきコラージュをグループでわかちあう演習を通して、グループにおける多義性を学ぶ。 第4回：人の心を理解するためにはどのような知（臨床の知）が必要か（4） 人物画の演習をとおして、乳幼児・児童期の発達の諸相について学ぶ。 第5回：人の心を理解するためにはどのような知（臨床の知）が必要か（5） 雨中人物画の演習をとおして、個別性について学ぶ。 第6回：不適応の諸相を学ぶ（1） 事例検討をとおして、思春期危機について学ぶ 第7回：不適応の諸相を学ぶ（2） 事例検討をとおして、青年期危機について学ぶ 第8回：不適応の諸相を学ぶ（3） 事例検討をとおして、依存症について学ぶ 第9回：不適応の諸相を学ぶ（4） 事例検討をとおして、依存症とキリスト教信仰との関係を学ぶ 第10回：不適応の諸相を学ぶ（5） 事例検討をとおして、人格障害について学ぶ 第11回：不適応の諸相を学ぶ（6） 事例検討をとおして、人格障害とキリスト教信仰との関係を学ぶ 第12回：発達の諸相を学ぶ（1） 事例検討をとおして、世代性格を学ぶ 第13回：発達の諸相を学ぶ（2） 事例検討をとおして、教育者自身の中年期危機を学ぶ 第14回：教育者の自己理解（1） 心理テスト演習をとおして、自分の行動スタイルを理解する。 第15回：教育者の自己理解（2） 心理テスト演習をとおして、自分の競争スタイルを理解する。</p>	
<p><準備学習等の指示> なし</p>	
<p><テキスト> 授業中に資料を配付するとともに、授業の中で教員が指示する。</p>	
<p><参考書> 授業の中で紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加状況（50%）およびレポート1回（50%）により評価する。</p>	

教職課程・教職に関する専門科目	
教育基礎論 I	小泉 健
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 教育の理念ならびに教育に関する歴史および思想を学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 教育の理念について学んだ後、西洋の教育の歴史と思想について、代表的な教育学者を取り上げて学ぶ。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 教育の理念（その1）教育の課題と目標 第2回 教育の理念（その2）子ども観の変遷と教育 第3回 教育の理念（その3）教育の目的と作用 第4回 教育の理念（その4）教育と宗教 第5回 西洋の教育の歴史と思想（その1）近代以前 第6回 西洋の教育の歴史と思想（その2）ルター 第7回 西洋の教育の歴史と思想（その3）コメニウス 第8回 西洋の教育の歴史と思想（その4）ルソー 第9回 西洋の教育の歴史と思想（その5）ペスタロッチ 第10回 西洋の教育の歴史と思想（その6）フレーベル 第11回 西洋の教育の歴史と思想（その7）ヘルバルト 第12回 西洋の教育の歴史と思想（その8）モンテッソーリ 第13回 西洋の教育の歴史と思想（その9）ジョン・デューイ 第14回 西洋の教育の歴史と思想（その10）シュタイナー 第15回 西洋の教育の歴史と思想（その11）障害者、女性の教育</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> 必要に応じて、授業時にプリントを配布する。</p>	
<p><参考書> 授業の中で紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 学期末に筆記試験を行う。</p>	

教職課程・教職に関する専門科目	
教育基礎論Ⅱ	小泉 健
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 教育に関する社会的、制度的、経済的事項を学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 日本の教育の歴史と思想を概観した後、学校教育をめぐる諸問題について考察する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 日本の教育の歴史と思想（その1）近代以前 第2回 日本の教育の歴史と思想（その2）近代国家の成立と教育 第3回 日本の教育の歴史と思想（その3）近代教授思想 第4回 日本の教育の歴史と思想（その4）大正デモクラシーと新教育 第5回 日本の教育の歴史と思想（その5）戦前・戦中の教育 第6回 日本の教育の歴史と思想（その6）戦後の教育 第7回 日本の教育の歴史と思想（その7）現代の教育 第8回 教育と制度（その1）公教育制度の成立 第9回 教育と制度（その2）学校教育の制度 第10回 教育と制度（その3）教育行政 第11回 教育と制度（その4）教育課程の編成 第12回 教育と制度（その5）教育職員と教員教育の制度 第13回 教育と制度（その6）教育財政の制度 第14回 教育の方法（その1）学習指導と生活指導 第15回 教育の方法（その2）評価技法</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> 必要に応じて、授業時にプリントを配布する。</p>	
<p><参考書> 授業の中で紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 学期末に筆記試験を行う。</p>	

教職課程・教職に関する専門科目	
宗教科教授法 B a	小泉 健
前期・2単位	<登録条件> 通年で登録すること
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教学校（中学校・高等学校）における宗教科（聖書科）の指導法を学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 前期は宗教科における教師の役割、授業の意味と方法を学ぶ。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 キリスト教教育論（その1）神学的人間論 第2回 キリスト教教育論（その2）信仰と教育 第3回 教師論（その1）聖書科教師と教務教師 第4回 教師論（その2）聖書科教師の使命と役割 第5回 聖書科の授業（その1）教科としての聖書科 第6回 聖書科の授業（その2）聖書科の授業 第7回 聖書科の授業（その3）聖書科のカリキュラム 第8回 聖書科の授業（その4）聖書科における聖書 第9回 聖書科の授業（その5）教科書の検討 第10回 授業の方法（その1）学習指導案の作成 第11回 授業の方法（その2）教材の開発 第12回 授業の方法（その3）学習形態の工夫 第13回 授業の方法（その4）授業展開を導く教授行為 第14回 授業の方法（その5）授業づくりの遺産に学ぶ 第15回 学校における礼拝</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト></p>	
<p><参考書> 授業の中で紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 学期末に筆記試験を行う。</p>	

教職課程・教職に関する専門科目	
宗教科教授法 B b	小泉 健
後期・2単位	<登録条件> 通年で登録すること
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教学校（中学校・高等学校）における宗教科（聖書科）の指導法を学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 後期は学生の模擬授業を通して授業の進め方を学ぶ。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 キリスト教学校教育の歴史 第2回 聖書科授業の準備 第3回 模擬授業（その1） 第4回 模擬授業（その2） 第5回 模擬授業（その3） 第6回 模擬授業（その4） 第7回 模擬授業（その5） 第8回 模擬授業（その6） 第9回 模擬授業（その7） 第10回 模擬授業（その8） 第11回 模擬授業（その9） 第12回 模擬授業（その10） 第13回 模擬授業（その11） 第14回 模擬授業（その12） 第15回 模擬授業（その13）</p> <p>模擬授業においては、毎回一名の学生が50分の授業を行う。 その後、行われた授業を素材として、全体で討論を行う。</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト></p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業中の模擬授業発表および授業への参加で評価する。 （受講者が多くて発表できない場合は、授業の展開例のレポートで評価する。）</p>	

教職課程・教職に関する専門科目	
道徳指導法	菱刈 晃夫
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>人間存在にとって道徳がいかなる意味をもつのか。道徳への本質的問いを深める。今日の学校教育における「道徳の時間」に何ができるのかをさぐる。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>現代日本社会における道徳および人間のあり方を捉えた上で、学校教育における「道徳の時間」にできること、できないことを見極め、その具体的指導法について学ぶ。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 道徳への問い（わたしたちにとっての道徳） 現代社会における道徳のあり方について、その状況を直視する。</p> <p>第2回 道徳と人間 道徳と人間存在との関係について、古今東西の歴史を振り返る。</p> <p>第3回 道徳の語義 道徳という言葉のもつ意味について、深く探る。</p> <p>第4回 道徳性の育み 道徳はモラルリティとして教えられるものではなく、育むものであることを理解する。</p> <p>第5回 学校教育のなかの道徳の時間(1) 学校教育における「道徳の時間」の位置づけを、歴史を振り返りつつ確認する。</p> <p>第6回 学校教育のなかの道徳の時間(2) 学習指導要領道徳編について、概略を把握する。</p> <p>第7回 学校教育のなかの道徳の時間(3) 学習指導要領に基づいた道徳教育の実践例を検討する。</p> <p>第8回 学校教育のなかの道徳の時間(4) 学習指導要領に基づいた道徳授業の模擬授業体験をする。</p> <p>第9回 学校教育のなかの道徳の時間(5) 道徳教育の模擬授業実践をさらに展開する。</p> <p>第10回 心の教育 心の教育について、理解を深める。</p> <p>第11回 現代の道徳教育（1） 現代日本における道徳教育の実践例を見る。</p> <p>第12回 現代の道徳教育（2） 世界における道徳教育の実践例を見る。</p> <p>第13回 宗教教育と道徳教育 宗教教育と道徳教育との関係について、理解を深める。</p> <p>第14回 霊性の涵養をめぐって スピリチュアリティの涵養について、指導要領4の視点とのかかわりを考える。</p> <p>第15回 キリスト教と道徳教育 キリスト教と道徳教育とのかかわりと、その実践例について概観する。</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>下記テキスト、とくに『講義 教育原論』を受講前に必ず購入して学習に備えること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>菱刈晃夫『教育にできないこと、できること—教育の基礎・歴史・実践・探究（第2版）』（成文堂、2006年）、 宮野安治・山崎洋子・菱刈晃夫『講義 教育原論』（成文堂、2011年）、文部科学省『中学校学習指導要領解説 道徳編』（日本文教出版、2008年）、各自で購入すること。とくに『講義 教育原論』は必携。</p>	
<p><参考書></p> <p>菱刈晃夫『近代教育思想の源流——スピリチュアリティと教育——』（成文堂、2005年）</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>授業に2/3以上出席の上、(模擬)授業への参加の度合い、さらにミニレポート提出、およびその内容を鑑みて、総合的に評価する。</p>	

教職課程・教職に関する専門科目	
特別活動指導法	和田 道雄
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教人格主義に基づく特別活動の位置付け</p>	
<p><授業の概要> 教育課程における特別活動に臨む思いを確立し、特にキリスト教学校の中で教務教師として起つことの意義について学ぶ。あわせて、教育課程とは何か、その意義と編成についてキリスト教教育の中に位置付けて把握する。</p>	
<p><履修条件> 教職免許状取得希望者</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習指導要領における特別活動とは 2. 価値形成と自立・教育理念 (1) 現状分析 3. " (2) これからの展望 4. ホームルームについて (1) 5. 生徒会活動について 6. ボランティア活動について 7. キャリアデザイン構築について 8. 国際交流とコミュニケーション 9. 学校行事について (1) 現状分析 10. " (2) これからの展望 11. 式典について 12. ホームルームについて (2)・生徒や親、同僚の死と向き合う時 13. 学校礼拝の持ち方・あり方 14. 総合的な学習について (1) カリキュラム 15. " (2) 生きる力について 	
<p><準備学習等の指示> 佐藤 学『「学び」から逃走する子どもたち』岩波ブックレット No.524 読み、自分の中高生時代と照らし合わせた感想文を 1,200 字にまとめ、最初の授業時に提出。</p>	
<p><テキスト> 『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』文部科学省 各自購入</p>	
<p><参考書> 村瀬 学『13 歳論—子どもと大人の「境界」はどこにあるのか』洋泉社 2,520 円(絶版ですが、まだ古本で手に入りますので買うと良い本です)。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> レポート及び試験と授業への参加姿勢によって評価する。</p>	

教職課程・教職に関する専門科目	
教育の方法と情報技術 I	石部 公男
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 教職科目のひとつとして中学校および高等学校の授業を適切に進めることができる技術を養う。主にパワーポイントや HTML を使用し教材作成を行うが、教師と学生同士の講評を通じ、技術を高める。</p>	
<p><授業の概要> よりよい教材を作成するための技術の修得を目的とする。主としてパソコンを使用した教材の作成方法の技術的修得。ワード・エクセル・パワーポイントが使用できることを前提とする。</p>	
<p><履修条件> 原則として教職免許取得者を対象。学期ごとに履修可能。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育と宗教教育・・・憲法と教育基本法を見直す 2. 教育に関する法規の概要・・・学校教育法および同施行規則と学習指導要領との関係 3. 授業方法と技術・・・年間指導案と学期ごとの指導案の作成 I 4. 授業実践の原理と方法・・・指導案の作成 II 5. 一斉授業とグループ授業 6. 多様な情報機器を使用した教材作成 7. パソコンを使用した教材作成 その 1 (ワードの使用) 8. パソコンを使用した教材作成 その 2 (パワーポイントの利用) 9. パソコンを使用した教材作成 その 3 10. パソコンを使用した教材作成 その 4 11. パソコンを使用した教材作成 その 5 12. パソコンを使用した教材作成 その 6 13. パソコンを使用した教材作成 その 7 14. パソコンを使用した教材作成 その 8 15. パソコンを使用した教材作成 その 9 	
<p><準備学習等の指示> パソコンの基本的操作と、ワードおよびエクセル、パワーポイントが使用できること。情報基礎を修得していることが望ましい。各自参考図書として挙げている本を読んでおくこと。</p>	
<p><テキスト> 特に指定しない。適宜プリントなどを必要に応じて使用</p>	
<p><参考書> 「情報リテラシー概論」ヴェリタス書房 石部他著 「インターネット時代のプログラミング」 ヴェリタス書房 石部他著</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 日常の授業状況と提出物。最後に作成教材をCDにて提出。平常点(50%)、提出物(50%)</p>	

教職課程・教職に関する専門科目	
教育の方法と情報技術Ⅱ	石部 公男
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 教育の方法と情報技術Ⅰ、に引き続き、パソコンを使用してより良い教材の作成ができるようにする。プレゼンテーションソフトを使用し、画像のほか、音楽やナレーションなどの音声を取り込んだ教材作成と、HTMLを使用した教材の作成が可能となるようにする。</p>	
<p><授業の概要> 教案の作成、およびテーマに沿った教材の作成を実習形式を取り入れ進める。また教師のみでなく学生相互の批評も取り入れ、より良い教材の作成が可能となるようにする。</p>	
<p><履修条件> 原則として、情報基礎の履修が終わっているか、それと同等のパソコン操作が可能な学生を前提とする。「教育の方法と情報技術Ⅰ」を履修していることが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎時間ごとの指導案の作成 2. パワーポイントを使用した教材作成・・・1 3. パワーポイントを使用した教材作成・・・2 4. パワーポイントを使用した教材作成・・・3 5. パワーポイントを使用した教材作成・・・4 6. パワーポイントを使用した教材作成・・・5 7. パワーポイントを使用した教材作成・・・6 8. パワーポイントを使用した教材作成・・・7 9. パワーポイントを使用した教材作成・・・8 10. パワーポイントを使用した教材作成・・・9 11. HTMLによる教材作成・・・1 12. HTMLによる教材作成・・・2 13. HTMLによる教材作成・・・3 14. HTMLによる教材作成・・・4 15. HTMLによる教材作成・・・5 と、まとめ 	
<p><準備学習等の指示> 同「Ⅰ」の授業で参考にした図書をよく読んでおくことが望ましい。</p>	
<p><テキスト> 特に指定しない。</p>	
<p><参考書> 「インターネット時代のプログラミング」石部公男・森秀樹監修、ヴェリタス書房 「HTMLタグ事典」など</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 毎時間実習的性格があるので、平常点（50%）、毎回の発表時の内容と最後の提出物による評価（50%）。</p>	

教職課程・教職に関する専門科目	
教育的指導と相談の研究 I	町田 健一
前期・2単位	<登録条件>
<授業の到達目標及びテーマ> 生徒指導の目的・内容・方法について理解を深める	
<授業の概要> 中等教育における（広義の）生徒指導の目的・内容・方法について考察し、青年前期の生徒たちの発達上の特質・悩みの実態に即した指導と相談のあり方を具体的な事例をもとに研究する。キリスト教教育の観点に立った生徒指導のあり方もそれぞれの場面で考えたい。	
<履修条件> 教職課程履修者	
<授業計画> 第1回 授業目的と内容／青年前期における発達的特質 第2回 青年前期における生徒指導上の課題 第3回 生徒指導の目的・内容／グループ研究発表準備 第4回 生徒指導の方法／グループ研究発表準備 第5回 グループ研究発表準備 第6回 学生による研究発表とディスカッション 第7回 学生による研究発表とディスカッション 第8回 学生による研究発表とディスカッション 第9回 学習指導 第10回 進路指導 第11回 反社会的・非社会的問題行動に対する指導 （いじめと不登校の問題を中心に） 第12回 性教育：現状と課題 第13回 性教育：具体的な指導内容の在り方 第14回 教師としてのイエス・キリスト 第15回 期末レポートの発表、ディスカッション ・この授業は、講義が中心であるが、グループ発表、ディスカッション等を含める。	
<準備学習等の指示> 1週90分の授業に対して最低90分の自学（復習・演習等）が期待されている。	
<テキスト> 資料を随時配布	
<参考書> 必要に応じて授業内で提示（基本的にグループ研究はリサーチなので、あえて指定しない）	
<学生に対する評価（方法・基準）> グループ研究・発表（40%）、期末課題（60%） 全授業の1/3以上の欠席者には単位を出さない。	

教職課程・教職に関する専門科目	
教育的指導と相談の研究Ⅱ	町田 健一
後期・2単位	<登録条件> Iを履修済みであること
<p><授業の到達目標及びテーマ> 教育相談の具体的なプロセスを理解し、学校現場で直面する様々な問題に対応できる力を身につける</p>	
<p><授業の概要> 中等教育における（広義の）生徒指導の目的・内容・方法について理解した上で、青年前期の生徒たちの発達上の特質・悩みの実態に即したカウンセリングのあり方・方法・諸注意を、具体的な事例をもとに研究する。キリスト教教育の観点に立ったカウンセリングのあり方もそれぞれの場面で考えたい。この授業は専門のカウンセラーの養成コースではない。教員としての教育相談・カウンセリングの資質の向上をめざす。</p>	
<p><履修条件> 教職課程履修者</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 カウンセリングの担い手は？（担任教師とスクールカウンセラー）</p> <p>第2回 学校カウンセリングの意義・必要性／カウンセラーとして期待される資質</p> <p>第3回 様々な問題への対応（1）問題行動・不適応行動</p> <p>第4回 様々な問題への対応（2）環境整備（協力体制・連携を含む）／問題分析</p> <p>第5回 カウンセリングの基本的方法と留意点（1）</p> <p>第6回 カウンセリングの基本的方法と留意点（2）</p> <p>第7回 促進段階：共感性、尊敬的態度、おもいやり</p> <p>第8回 移行段階：具体性、純粋性、自己開示</p> <p>第9回 行動段階：直面化、即時性</p> <p>第10回 具体的事例での演習</p> <p>第11回 具体的事例での演習</p> <p>第12回 具体的事例での演習</p> <p>第13回 具体的事例での演習</p> <p>第14回 学校カウンセリングの課題（期末レポート提出）</p> <p>第15回 演習に関する論評とまとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> 1週90分の授業に対して最低90分の自学（復習・演習等）が期待されている。</p>	
<p><テキスト> 資料を随時配布</p>	
<p><参考書> 必要に応じて授業内で提示</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> グループ研究・発表（40%）、期末課題（60%） 全授業の1/3以上の欠席者には単位を出さない。</p>	

教職課程・教職に関する専門科目	
教職演習	山口 隆康
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>この演習においては、教育に関する指導の理論、方法、技術を学び、それを実践するための総合力を身につけることを目標にする。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>この演習では教育職に携わる者にとって基礎にして必須の課題を教師論、集団形成論、教育の方法と技術論の各領域を「ことば」を基軸にして網羅的に演習形式で実践的に取り扱う。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>演習であるので「演習形式」で下記のテーマを取り扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 教師論 教師とは何者であるか。 (2) 教育における「ことば」その1:「ことば」とはなにか。 (3) 教育における「ことば」その2:「ことば」と思想 (4) 教育における「ことば」その3:教師の話し方 (5) 教育における「ことば」その4:発問・助言・支持 (6) 集団における「ことば」と「話し合い」その1:意義と目的 (7) 集団における「ことば」と「話し合い」その2:会議論 (8) 集団における「ことば」と「話し合い」その3:小集団における会議 (9) 集団における「ことば」と「話し合い」その4:会議とルール (10) 個人的対話 その1 危機的状況における「ことば」と「対話」 (11) 個人的対話 その2 教育効果を目指す「ことば」と「対話」 (12) 個人的対話 その3 癒しを目指す「ことば」と「対話」 (13) 「ことば」と「語るという課題」その1 説明と解説 (14) 「ことば」と「語るという課題」その2 論評 (15) 「ことば」と「語るという課題」その3 語りの文体 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>山口隆康著『教育の言葉・伝道の言葉』（論集『キリスト教と諸学』18、2002年、聖学院大学出版会）</p>	
<p><テキスト></p> <p>H. ヴァインリッヒ著 『うその言語学』 明治書院</p>	
<p><参考書></p> <p>山口隆康著『「退屈な説教」と「退屈な聖書科クラス」の問題』（雑誌『神学』第70号、2008年）</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>演習における内容的参画に対する評価、とくにEメールによる演習内容への発言を評価する。</p>	

教職課程・教職に関する専門科目	
教育実習Ⅰ	朴 憲郁 小泉 健
通年・5単位	<登録条件> 通年で登録のこと
<p><授業の到達目標及びテーマ> 聖書科授業を中心とする教師としての実践的教授力、指導力を養う。</p>	
<p><授業の概要> 中学校の教員免許状を取得するための最終科目で、キリスト教学校での教育実地研究を行う。</p>	
<p><履修条件> 実習年度の前年度の予備登録時に教育基礎論Ⅰ/Ⅱと宗教科教授法と「教科に関する科目」中、所定の科目を履修済みの人だけが登録・履修できる。また、教育実習の実施に伴って、本大学で行う「事前・事後指導」の受講（5月と12月予定）を欠席すると、単位は取得できない。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習年度に、実習校で4週間（実質3週間）、授業を中心とした教育実習を受ける。 2. 実習年度に、実習期間をはさんで、その前後に各6時間に及ぶ「事前指導」と「事後指導」を行う。 	
<p><準備学習等の指示> 事前と事後に、それぞれ掲示板にて指示を出す。</p>	
<p><テキスト> 特に指定しない。随時、プリントを配布する。</p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 教育実習成績報告書と「事前・事後指導」出席等を総合的に評価する。</p>	

教職課程・教職に関する専門科目	
教育実習Ⅱ	朴 憲郁 小泉 健
通年・3単位	<登録条件> 通年で登録のこと
<p><授業の到達目標及びテーマ> 聖書科授業を中心とする教師としての実践的教授力、指導力を養う。</p>	
<p><授業の概要> 高等学校の教員免許状を取得するための最終科目で、キリスト教学校での教育実地研究を行う。</p>	
<p><履修条件> 実習年度の前年度の予備登録時に教育基礎論Ⅰ/Ⅱと宗教科教授法と「教科に関する科目」中、所定の科目を履修済みの人だけが登録・履修できる。また、教育実習の実施に伴って、本大学で行う「事前・事後指導」の受講（5月と12月予定）を欠席すると、単位は取得できない。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習年度に、実習校で4週間（実質3週間）、授業を中心とした教育実習を受ける。 2. 実習年度に、実習期間をはさんで、その前後に各6時間に及ぶ「事前指導」と「事後指導」を行う。 	
<p><準備学習等の指示> 事前と事後に、それぞれ掲示板にて指示を出す。</p>	
<p><テキスト> 特に指定しない。随時、プリントを配布する。</p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 教育実習成績報告書と「事前・事後指導」出席等を総合的に評価する。</p>	